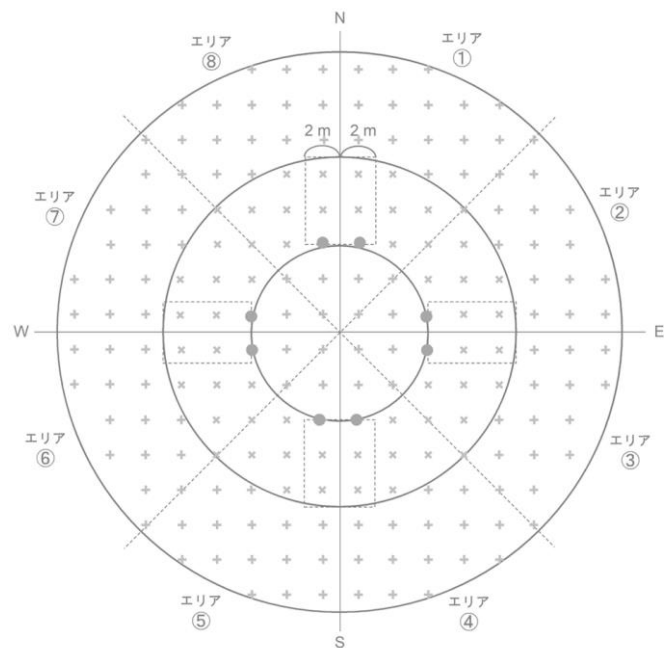
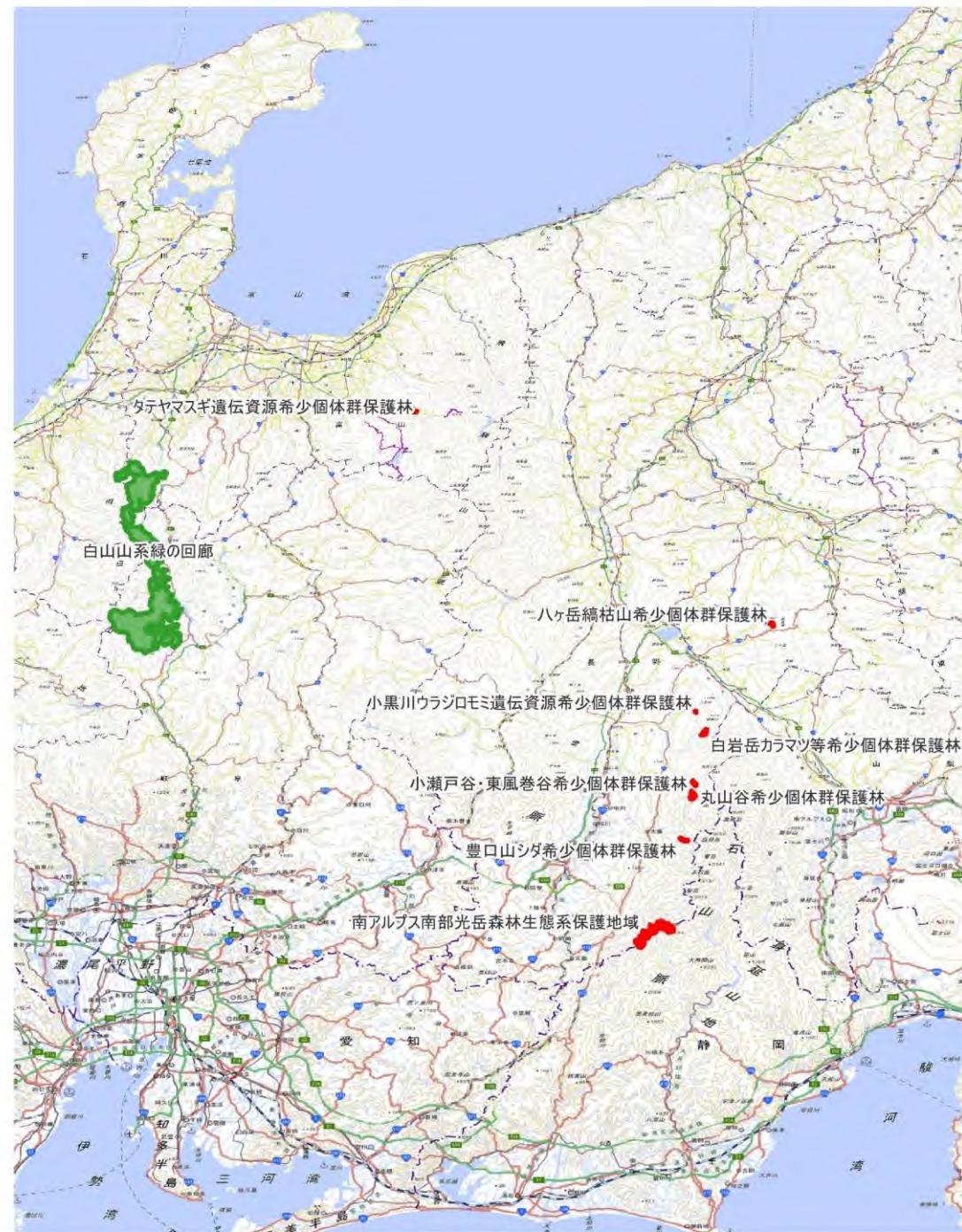


令和7年度 保護林・緑の回廊 モニタリング現地調査

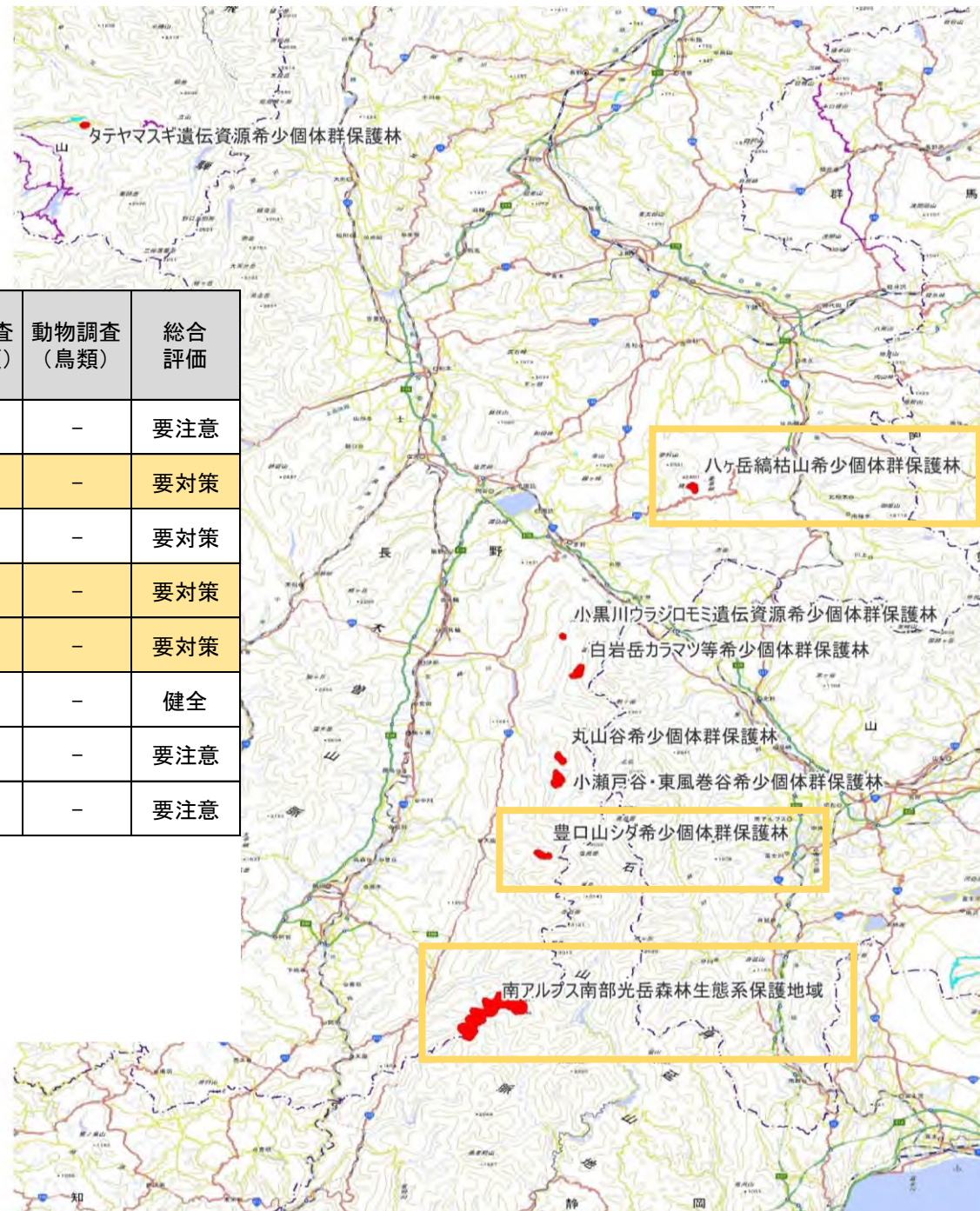
※希少種が含まれる情報は公開していません。



最大傾斜 (°)	半径【斜距離】 (m)			円弧部分 の膨らみ (m)
	小円	中円	大円	
0 ~ 2	5.64	11.28	17.84	1.36
3 ~ 7	5.65	11.31	17.88	1.36
8 ~ 12	5.69	11.37	17.98	1.37
13 ~ 17	5.74	11.48	18.15	1.38
18 ~ 22	5.82	11.64	18.40	1.40
23 ~ 27	5.93	11.85	18.74	1.43
28 ~ 32	6.06	12.13	19.17	1.46
33 ~ 37	6.23	12.47	19.71	1.50
38 ~ 42	6.45	12.89	20.38	1.55
43 ~ 47	6.71	13.42	21.22	1.62
48 ~ 52	7.04	14.07	22.25	1.69



保護林



保護林	森林詳細調査				森林概況調査		資料調査	聞き取り調査	動物調査(哺乳類)	動物調査(鳥類)	総合評価
	立木調査		下層植生調査	気象害・ 病虫獣害	生育状況 気象害・ 病虫獣害	重要種					
	群落	保護対象種									
タテヤマスギ遺伝資源希少個体群保護林	○	○	○	○	△	○	○	○	-	-	要注意
南アルプス南部光岳森林生態系保護地域	○	-	△	×	△	○	○	○	-	-	要対策
小黒川ウラジロモミ遺伝資源希少個体群保護	△	△	×	×	×	○	○	○	-	-	要対策
八ヶ岳縞枯山希少個体群保護林	○	×	△	×	×	○	○	○	-	-	要対策
豊口山シダ希少個体群保護林	△	△	×	×	△	○	○	○	-	-	要対策
丸山谷希少個体群保護林	○	○	△	○	○	○	○	○	-	-	健全
小瀬戸谷・東風巻谷希少個体群保護林	○	○	○	△	△	○	○	○	-	-	要注意
白岩岳カラマツ等希少個体群保護林	○	△	○	△	△	○	○	○	-	-	要注意

 : 該当保護林はニホンジカ被害の観点から重要な課題があると考えられる保護林

【個別項目の評価】

- : 前回と比較して大きな変化なし。または問題なし。
- △: 前回と比較して大きな変化または問題が確認された。
- ×: 前回と比較して重大な変化または問題が確認され、対策の検討が必要である。

【総合評価】

- 健全: 保護林の健全性が保たれていた。
- 要注意: 一部で問題が確認された。
- 要対策: 重大な変化または問題が確認され、対策の検討が必要である。

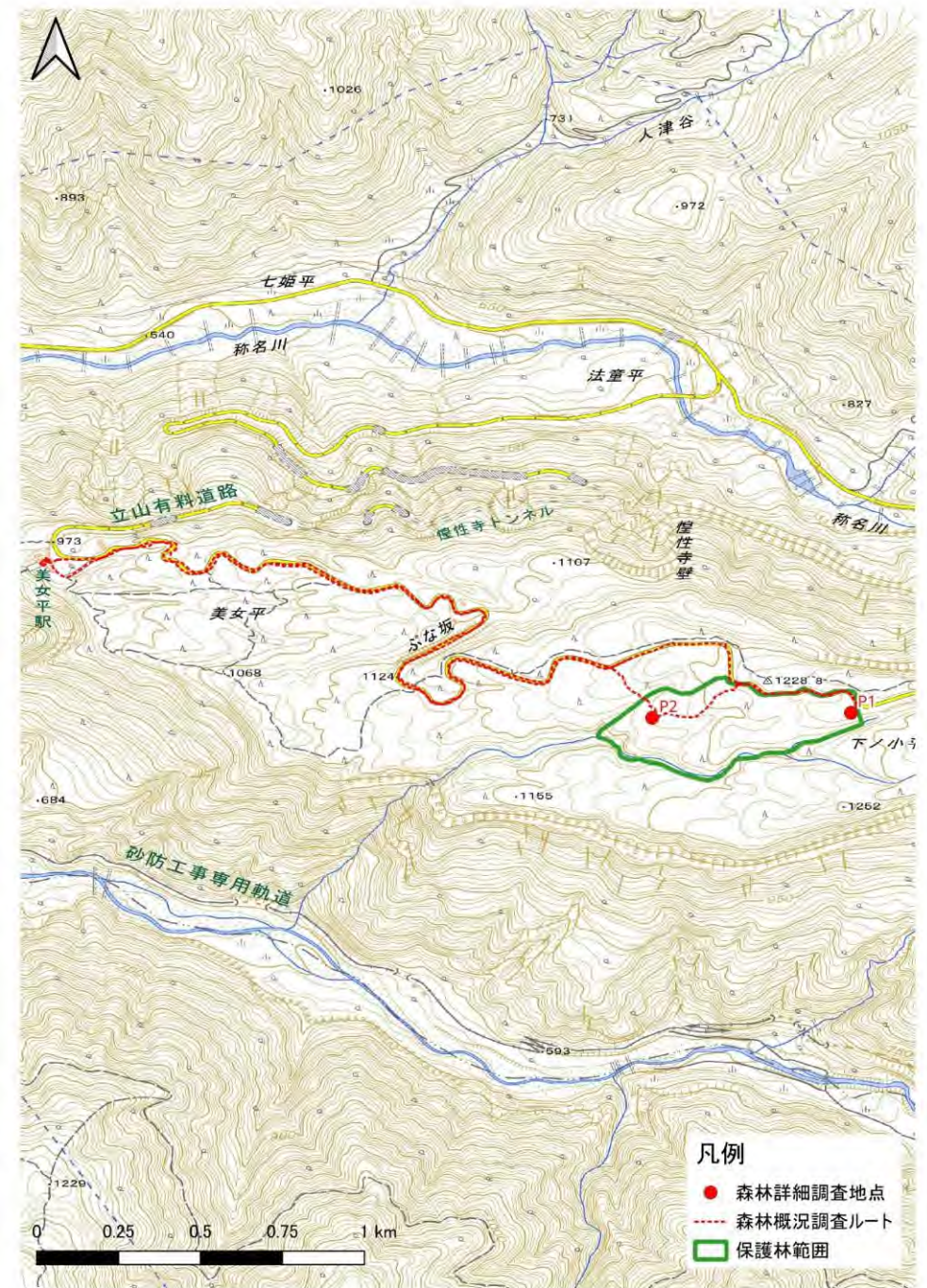
タテヤマスギ遺伝資源希少個体群保護林

■位置

富山県中新川郡立山町

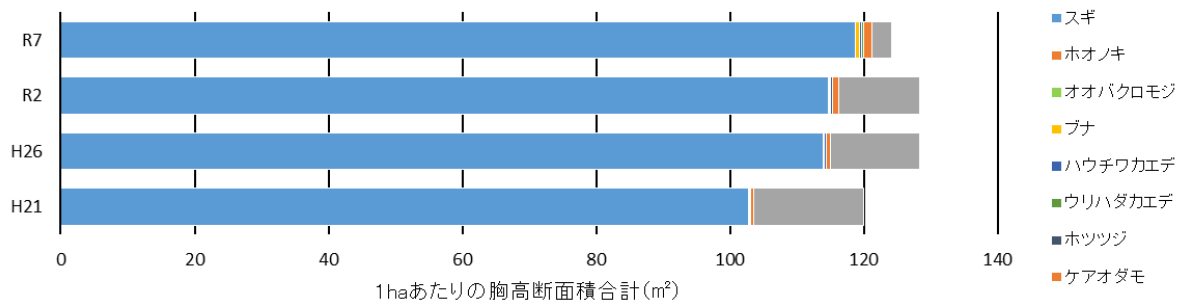
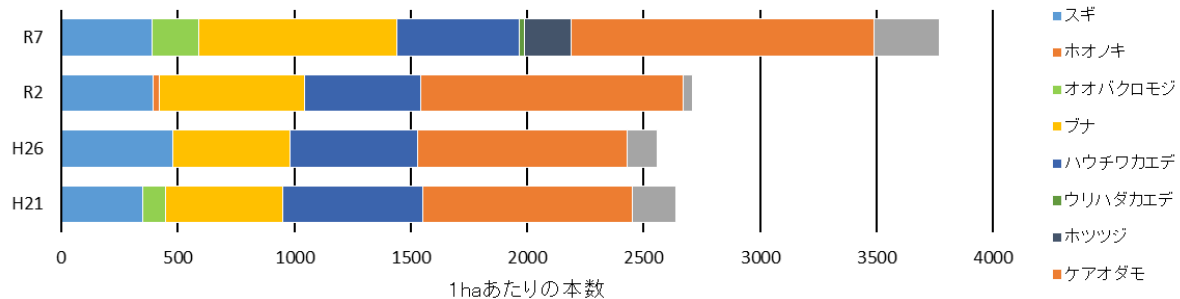
■設定目的

原生林として群生する立山スギの個体群の保護・管理を図ることを目的とする。



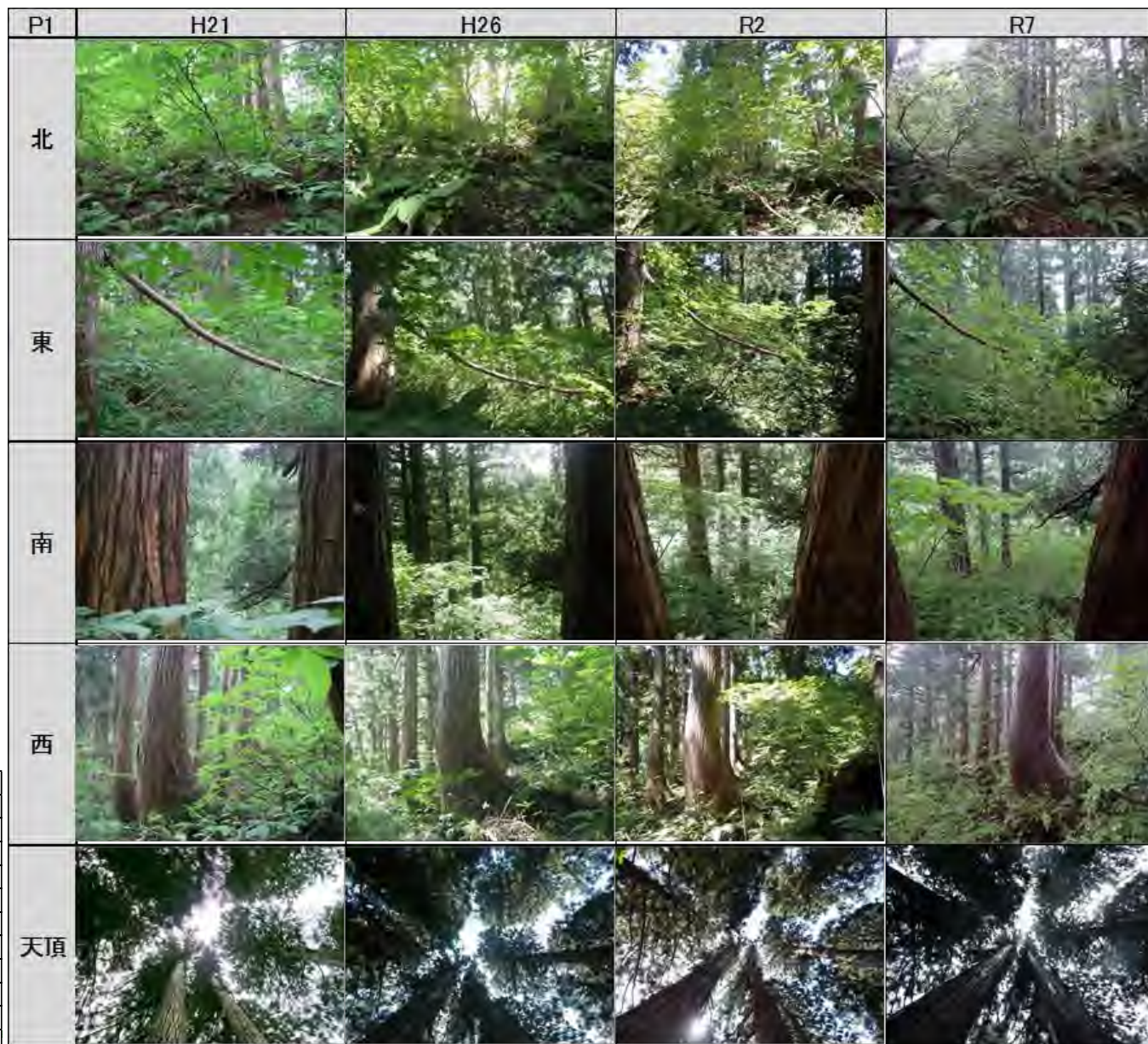
森林詳細調査

プロット1



樹種	1haあたり本数					1haあたり断面積 (m ²)					剥皮率			
	H21	H26	R2	R7	増加率	H21	H26	R2	R7	増加率	H21	H26	R2	R7
スギ	350	480	395	390	-1%	102.82	113.89	114.74	118.77	4%	0%	0%	13%	5%
ホオノキ	0	0	25	0	-100%	0.00	0.00	0.07	0.00	-100%	0%	0%	0%	0%
オオバクロモジ	100	0	0	200	※	0.02	0.00	0.00	0.05	※	0%	0%	0%	0%
ブナ	500	500	625	850	36%	0.08	0.13	0.24	0.51	116%	0%	0%	0%	0%
ハウチワカエデ	600	550	500	525	5%	0.14	0.37	0.32	0.32	2%	0%	0%	0%	0%
ウリハダカエデ	0	0	0	25	※	0.00	0.00	0.00	0.33	※	0%	0%	0%	0%
ホツツジ	0	0	0	200	※	0.00	0.00	0.00	0.03	※	0%	0%	0%	0%
ケアオダモ	900	900	1125	1300	16%	0.43	0.57	0.88	1.22	38%	0%	0%	0%	13%
枯損木	190	130	40	280	600%	16.50	13.44	12.15	2.91	-76%	-	-	-	-
合計(枯損木除く)	2450	2430	2670	3490	31%	103.49	114.96	116.25	121.23	4%	0%	0%	8%	5%

25%を超える増加率 25%を超える減少率 ※ 新規に確認された樹種



森林詳細調査（下層植生）

プロット1

林床調査区		N 区				S 区			
下層植生	階層	低木層		草本層		低木層		草本層	
	高さ	1.0~4.0	m	0.0~1.0	m	1.0~4.0	m	0.0~1.0	m
植生調査区内に根元がある	植被率	40	%	80	%	60	%	95	%
	優占種	ブナ		ヤマソテツ		ブナ		ヤマソテツ	
植物種	和名	被度・群度		被度・群度		和名	被度・群度		
		低木層	草本層	低木層	草本層				
低木層	ブナ	3・3	1・2	ブナ	2・2	1・1			
	リョウブ	1・1	+	ケアオダモ	2・2	+			
草本層	ヤマソテツ		3・3	ハウチワカエデ	1・1				
	ミツバオウレン		2・2	オオカメノキ	1・1				
	シノブカグマ		2・2	タムシバ	1・1	+			
	オオバクロモジ		2・2	ヤマソテツ		4・4			
	チシマザサ		1・2	シノブカグマ		2・2			
	オオイワカガミ		1・2	オオイワカガミ		2・2			
	ハナヒリノキ		1・1	ツタウルシ		1・2			
	タニギキョウ		+	ショウジョウバカマ		1・2			
	ホソバトウゲシバ		+	チシマザサ		1・2			
	エゾユズリハ		+	ゼンマイ		+			
	ヒメカンアオイ		+	ツクバネソウ		+			
	タムシバ		+	コミネカエデ		+			
	ケアオダモ		+	ノリウツギ		+			
	ハイヌツゲ		+	コシアブラ		+			
	ツバメオモト		+	ヒメカンアオイ		+			
	ツクバネソウ		+	ミネカエデ		+			
	ヒメタケシマラン		+	ミツバオウレン		+			
ショウジョウバカマ		+	ヒメモチ		+				
ヒメモチ		+	ヤブコウジ		+				
ノリウツギ		+	オオバクロモジ		+				
ナナカマド		+	イワウチワ		+				
ハウチワカエデ		+							
コシアブラ		+							
コミネカエデ		+							
植生調査区外の特記種	小円: カラスシキミ、ムラサキヤシオツツジ、ホツツジ、コイチヨウラン、アオハリガネワラビ、ハリギリ、ヤマシグレ、ホオノキ								
	中円: ナガバノキノチドリ、イワナシ、シナノキ								
	大円: オオカニコウモリ、ゴゼンタチバナ、ヤマドリゼンマイ、ツルリンドウ、オクモミジハグマ								

種名	H21	H26	R2	R7	種名	H22	H27	R2	R6
トウゲシバ	○	○	・		ハウチワカエデ	○	○	○	○
ホソバトウゲシバ				○	コミネカエデ	○	○		○
ゼンマイ		・	○	○	ウリハダカエデ	○			
ヤマドリゼンマイ	・	・	・	・	ミネカエデ			○	○
ヤマソテツ	○	○	○	○	ツルシキミ	○	○	○	
ハシゴシダ		○			シナノキ				・
アオハリガネワラビ				・	カラスシキミ				・
ハリガネワラビ		・	・		ゴゼンタチバナ		・	・	・
ミゾシダ	○				ツルアジサイ	○		○	
シシガシラ	○				ノリウツギ	○	○		○
ヤマヌワラビ	○				イワガミ	○	○	○	
シノブカグマ	○	○	○	○	ヤブコウジ		○		○
スギ		○	・		オオイワカガミ		○		○
ヒメカンアオイ	○	○	○	○	イワカガミ	○			
ホオノキ	○		○	・	イワウチワ	○	○	○	○
タムシバ	○	○	○	○	リョウブ	○	○	○	○
オオバクロモジ	○	○	○	○	ホツツジ	○	○		・
ショウジョウバカマ	○	○	○	○	イワナシ		・		・
ツクバネソウ	○			○	ハナヒリノキ	○	○	○	○
ホウチャクソウ		○			ムラサキヤシオツツジ	○	○	・	・
ツバメオモト	○	○	○	○	ククルマムグラ	○			
ヒメタケシマラン				○	ツルアリドオン		・	○	
イチヨウラン			・		ツルリンドウ	・	・	・	・
コイチヨウラン			・		ケアオダモ	○	○	○	○
ナガバノキノチドリ	○		・	・	ハイヌツゲ	○			○
アマドコロ	○				ヒメモチ				○
スゲsp.		○	・		アカミノイヌツゲ		・		
チシマザサ	○	○	○	○	タニギキョウ				○
オウレンsp.		○			オクモミジハグマ		・		・
ミツバオウレン	○		○	○	カニコウモリ		・	○	
マルバマンサク	・	・	・		オオカニコウモリ				・
エゾユズリハ	○	○		○	アキノキリンソウ	・			
ナナカマド	○	○	○	○	コシアブラ	○	○	○	○
ブナ	○	○	○	○	ハリギリ	○	○		・
ツルウメモドキ	○				オオカメノキ	○	○	○	○
ツタウルシ	○	○	○	○	ヤマシグレ		○	○	・
ヤマウルシ	○	○	○		タニウツギ	○			
総数	47	47	40	48					

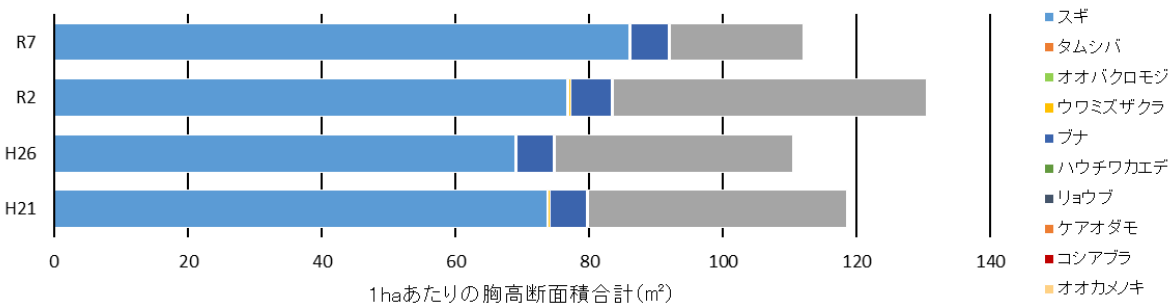
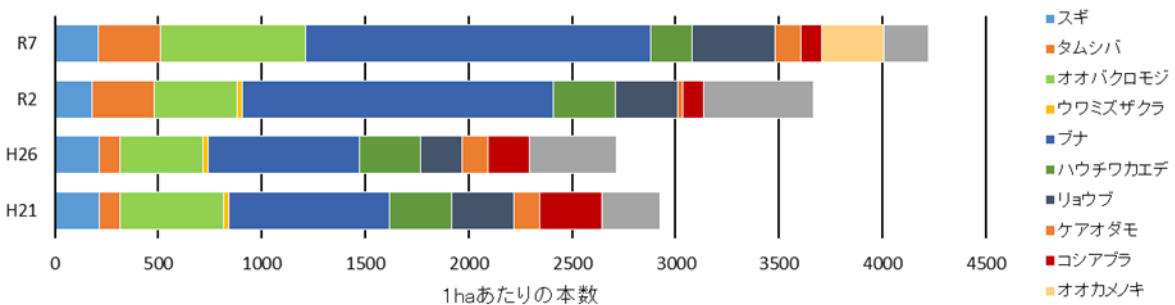
年度	低木層		草本層	
	高さ	植被率	高さ	植被率
H21 小円	1.0~2.0m	50%	0.0~1.0m	70%
H26 小円	1.0~2.5m	40%	0.0~1.0m	70%
R2 N区	0.7~3.0m	40%	0.0~0.7m	60%
R2 S区	0.7~2.8m	70%	0.0~0.7m	90%
R7 N区	1.0~4.0m	40%	0.0~1.0m	80%
R7 S区	1.0~4.0m	60%	0.0~1.0m	95%

○:低木層及び草本層における今回調査の林床調査区での確認種と、過年度調査での小円部及び中円部での出現種
 ・:その他のプロット内確認種



森林詳細調査

プロット2



- スギ
- タムシバ
- オオバクロモジ
- ウワミズザクラ
- ブナ
- ハウチワカエデ
- リョウブ
- ケアオダモ
- コシアブラ
- オオカメノキ
- 枯損木



樹種	1haあたり本数					1haあたり断面積 (m ²)					剥皮率			
	H21	H26	R2	R7	増加率	H21	H26	R2	R7	増加率	H21	H26	R2	R7
スギ	215	215	180	210	17%	73.76	68.81	76.67	85.91	12%	15%	15%	17%	14%
タムシバ	100	100	300	300	0%	0.01	0.03	0.18	0.23	31%	0%	0%	0%	0%
オオバクロモジ	500	400	400	700	75%	0.11	0.13	0.12	0.10	-18%	0%	0%	0%	0%
ウワミズザクラ	25	25	25	0	-100%	0.22	0.24	0.26	0.00	-100%	0%	0%	0%	0%
ブナ	780	730	1505	1670	11%	5.48	5.37	6.07	5.58	-8%	0%	0%	0%	0%
ハウチワカエデ	300	300	300	200	-33%	0.03	0.05	0.05	0.04	-21%	0%	0%	0%	0%
リョウブ	300	200	300	400	33%	0.08	0.10	0.14	0.15	10%	0%	0%	0%	0%
ケアオダモ	125	125	25	125	400%	0.10	0.09	0.07	0.09	28%	0%	0%	0%	0%
コシアブラ	300	200	100	100	0%	0.06	0.05	0.03	0.03	0%	0%	0%	0%	0%
オオカメノキ	0	0	0	300	※	0.00	0.00	0.00	0.04	※	0%	0%	0%	0%
枯損木	280	420	530	215	-59%	38.58	35.58	46.81	19.82	-58%	-	-	-	-
合計 (枯損木除く)	2645	2295	3135	4005	28%	79.86	74.88	83.58	92.17	10%	5%	6%	5%	4%

■ 25%を超える増加率 ■ 25%を超える減少率 ※ 新規に確認された樹種

森林詳細調査（下層植生）

プロット2

林床調査区		N 区				S 区			
下層植生	階層	低木層		草本層		低木層		草本層	
		高さ	1.0~3.0	m	0.0~1.0	m	1.0~3.0	m	0.0~1.0
	植被率	40	%	80	%	50	%	95	%
	優占種	リョウブ		ヤマソテツ		ハウチワカエデ		シノブカグマ	
	植物種	和名		被度・群度		和名		被度・群度	
				低木層	草本層			低木層	草本層
	低木層	リョウブ	2・2	1・1	ハウチワカエデ	2・2			
	草本層	ハナヒリノキ	1・1	1・1	ブナ	2・2	1・1		
	着生植物	オオバクロモジ	1・1	1・2	オオバクロモジ	1・1	1・1		
		スギ	1・1	+	タムシバ	1・1	1・1		
	植生調査区内に根元がある	ムラサキヤシオツツジ	1・1	+	ホツツジ	1・1			
		ナナカマド	1・1		リョウブ	1・1			
		ホツツジ	1・1		シノブカグマ			3・3	
		ヤマソテツ			ヤマソテツ			3・3	
		シノブカグマ			チシマザサ			2・2	
		イワカガミ			ミツバオウレン			1・2	
		チシマザサ			ヒメカンアオイ			1・2	
		イワガラミ			オオイワカガミ			1・2	
		ツタウルシ			ケアオダモ			1・1	
		ヤマシグレ			オオカメノキ			1・1	
		ミツバオウレン			ツクバネソウ			+	
		イワウチワ			コシアブラ			+	
		ヤマウルシ			ハイイヌツゲ			+	
		コミネカエデ			ヤマシグレ			+	
		ツルアリドオシ			ノリウツギ			+	
		ヒメカンアオイ			ショウジョウバカマ			+	
	タムシバ								
	植生調査区外の特記種	小円：ホソバトウゲシバ、コケシノブ、イワナシ、ヒメモチ							
		中円：エゾユズリハ、アクシバ、ミヤマウズラ							
		大円：ホオノキ、シシガシラ、ウワミズザクラ、ツルアジサイ、テンナンショウsp.、ミズナラ、ヤマドリゼンマイ							

種名	H21	H26	R2	R7	種名	H21	H26	R2	R7
トウゲシバ	○	○	・	・	ツルマサキ	○			
ホソバトウゲシバ				・	クロツリバナ	・			
ゼンマイ		○	・		ツタウルシ	○	○	○	○
ヤマドリゼンマイ		○	○	・	ヤマウルシ	○	○	○	○
コケシノブ				・	ハウチワカエデ	○	○	○	○
ヤマソテツ	○	○	○	○	コミネカエデ	○	○	○	○
ハシゴシダ		○			ツルシキミ	○	○	○	
ミゾシダ	○				シナノキ	○	○		
シシガシラ	・	○		・	ツルアジサイ	○	○	・	・
シノブカグマ	○	○	○	○	ノリウツギ	○	○	○	○
スギ		○	○	○	イワガラミ	○	○	○	○
ヒメカンアオイ	○	○	○	○	ヤブコウジ		○		
ホオノキ	○	○	・	・	ユキツバキ	○			
タムシバ	○	○	○	○	オオイワカガミ		○		○
オオバクロモジ	○	○	○	○	イワカガミ	○			○
テンナンショウsp.				・	イワウチワ		○	○	○
ショウジョウバカマ	○	○	○	○	リョウブ	○	○	○	○
ツクバネソウ	○	○	○	○	ホツツジ	○	○	○	○
イチヨウラン			○		イワナシ		○	○	・
ミヤマウズラ			・	・	ハナヒリノキ	○	○	○	○
ヒロハユキザサ	・				ムラサキヤシオツツジ				○
アマドコロ	○				アクシバ				・
スゲsp.	・	・	・		ツルアリドオシ		○		○
チシマザサ	○	○	○	○	ケアオダモ	○	○	○	○
オウレンsp.		○			ハイイヌツゲ	○	○	○	○
ミツバオウレン	○		○	○	ヒメモチ		○		・
マルバマンサク		・			アカミノイヌツゲ		○		
エゾユズリハ		○	・	・	アキノキリンソウ	○	○		
ウワミズザクラ	○	○	○	・	タラノキ		・		
ナナカマド	・	○	○	○	コシアブラ	○	○	○	○
ブナ	○	○	○	○	オオカメノキ	○	○	○	○
ミズナラ	○	○		・	ヤマシグレ		○	○	○
					総計	41	49	39	45

年度	低木層		草本層	
	高さ	植被率	高さ	植被率
H21 小円	1.0~2.5m	40%	0~1.0m	60%
H26 小円	1.0~3.3m	25%	0~1.0m	90%
R2 N区	0.6~2.5m	50%	0~0.6m	80%
R2 S区	0.6~2.6m	60%	0~0.6m	80%
R7 N区	1.0~3.0m	40%	0.0~1.0m	80%
R7 S区	1.0~3.0m	50%	0.0~1.0m	95%

○：低木層及び草本層における今回調査の林床調査区での確認種と、過年度調査での小円部及び中円部での出現種
 ・：その他のプロット内確認種



森林概況調査

■ 林分の状況

- ・ 老齢段階の天然林
- ・ 保護対象種スギの成木、幼木、実生を確認

■ 被害状況

- ・ 特になし

■ 動物情報

- ・ ニホンジカの食痕が道路沿いに散見
- ・ ツキノワグマの新しい剥皮（1か月以内）を確認

■ その他

以下の重要種を確認（プロット含む）



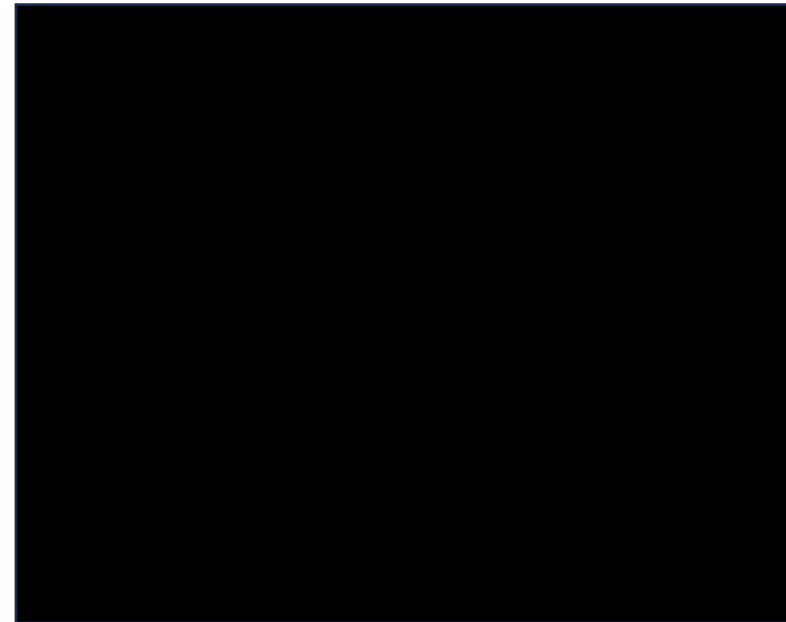
老齢の天然林（保護対象種スギ）



ニホンジカ（食痕）



ツキノワグマ（剥皮）



総合評価

調査内容	確認項目	評価	評価内容
森林詳細調査	立木調査	群落	○ 大きな変化は確認されなかった。 林内の光環境が改善され、多様な森林環境が維持されている。
		保護対象種	○ ツキノワグマの剥皮が散見されるものの、後継樹となる幼木や実生の生育が確認された。
	下層植生調査	○ 大きな変化は確認されなかった。	
	気象害・病虫獣害等の発生状況調査	○ 森林の健全性を損なう事象は確認されなかった。 過年度はニホンジカによる植生被害レベル 0 だったが、本年度はニホンジカによる食痕や小径木への剥皮が確認されたことから、植生被害レベル 1 と判断した。 過年度同様にツキノワグマの剥皮(5 年以内程度)が散見された。	
森林概況調査	気象害・病虫獣害等の発生状況調査	△ ニホンジカの食痕が道路沿いに散見された。 ツキノワグマの新しい剥皮(1 か月以内)が確認された。	
	重要種の確認	○ [REDACTED] が確認された。	
資料調査		○ 学術論文や報告書等 3 資料が確認され、エコツアー等の実施も確認された。	
聞き取り調査		○ 【富山森林管理署】 富山県や環境省等の調査によると、本保護林より高標高地域でニホンジカの生息情報がある。 クマ剥ぎが確認されているが、立山黒部アルペンルート(立山有料道路)における景観との兼ね合いがあることから、適した対策を検討中である。	
考察及び総合評価		要注意 保護対象種のスギの大径木が多数確認され、良好な樹林が維持されている。 ただし、継続的にクマ剥ぎが発生していることから、保護対象種への被害対策が検討される。 また、ニホンジカの食痕が確認されており、保護林周辺地域も含めて生息地域が拡大していることから、生息動向を注視する。	

【個別項目の評価】

- ：前回と比較して大きな変化なし。または問題なし。
- △：前回と比較して大きな変化または問題が確認された。
- ×：前回と比較して重大な変化または問題が確認され、対策の検討が必要である。

【総合評価】

- 健全：保護林の健全性が保たれていた。
- 要注意：一部で問題が確認された。
- 要対策：重大な変化または問題が確認され、対策の検討が必要である。

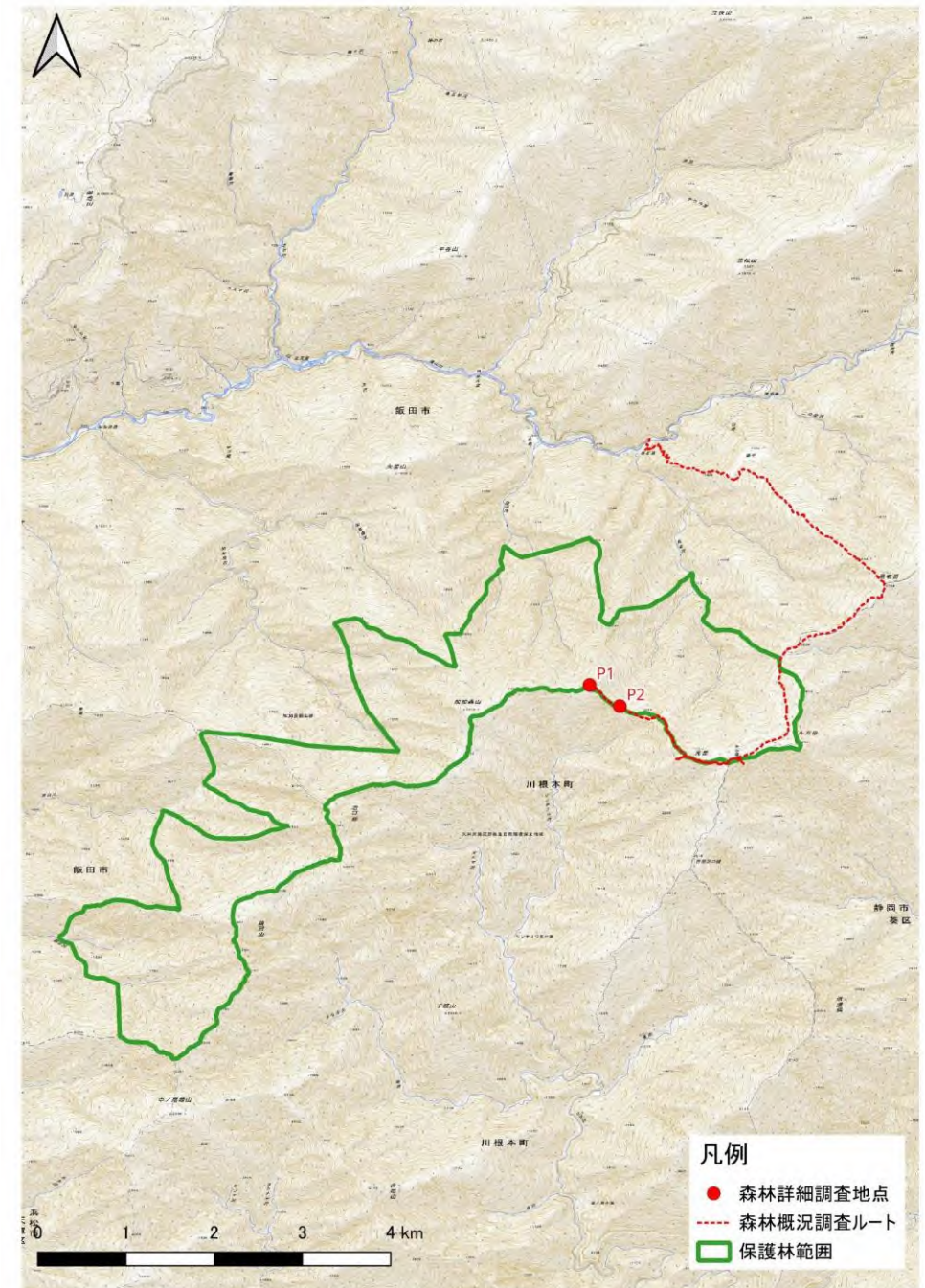
南アルプス南部光岳森林生態系保護地域 (ニホンジカの課題あり)

■位置

長野県飯田市南信濃

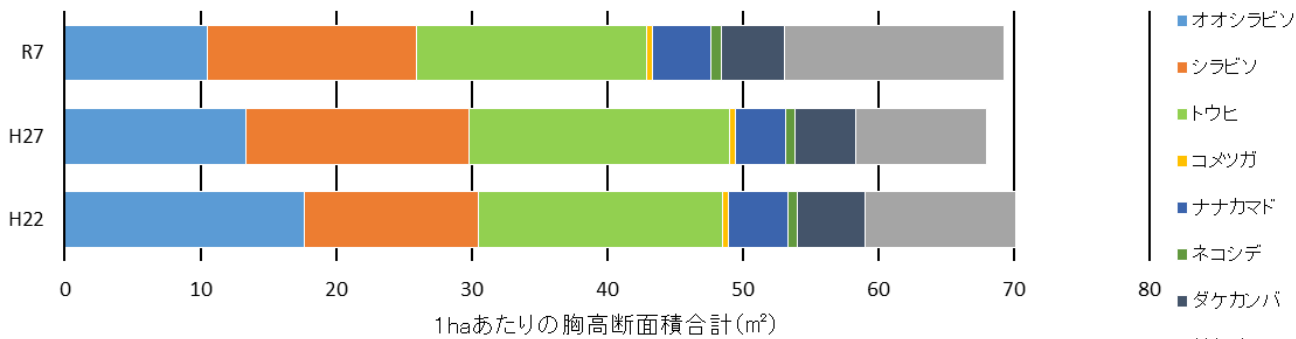
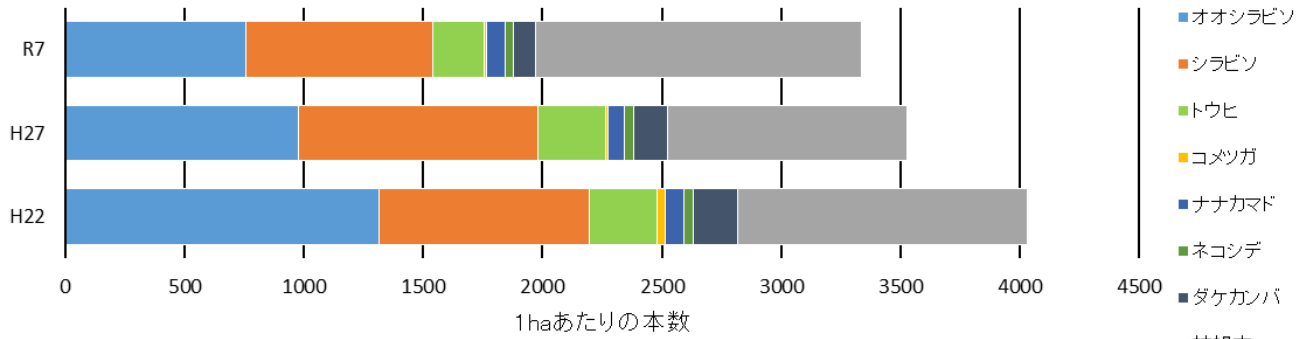
■設定目的

我が国の主要な森林帯を代表する変化に富んだ原生的な森林生態系を、自然環境の維持、動植物の保護、遺伝資源の保存、森林施業・管理技術の発展、学術研究等に資することを目的とする。



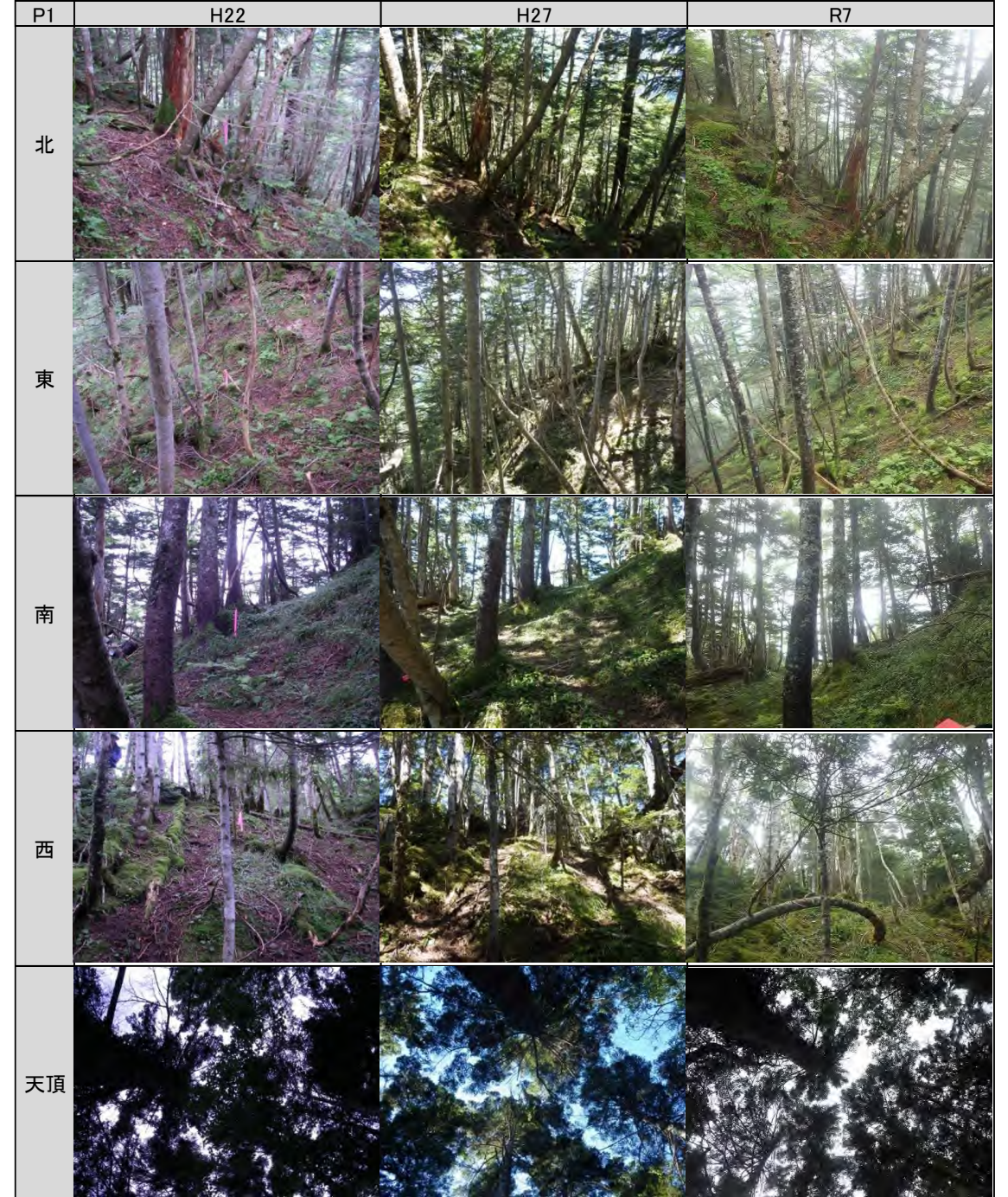
森林詳細調査

プロット1



樹種	1haあたり本数				1haあたり断面積 (m²)				剥皮率		
	H22	H27	R7	増加率	H22	H27	R7	増加率	H22	H27	R7
オオシラビソ	1315	975	755	-23%	17.68	13.40	10.56	-21%	5%	13%	0%
シラビソ	880	1005	785	-22%	12.82	16.41	15.42	-6%	5%	10%	5%
トウヒ	285	285	215	-25%	18.00	19.24	16.97	-12%	0%	0%	5%
コメツガ	35	10	10	0%	0.46	0.39	0.38	-2%	0%	0%	0%
ナナカマド	80	70	80	14%	4.35	3.71	4.33	17%	0%	0%	0%
ネコシデ	35	35	35	0%	0.70	0.70	0.80	14%	0%	0%	0%
ダケカンバ	190	145	90	-38%	5.05	4.46	4.61	3%	0%	0%	0%
枯損木	1215	1005	1365	36%	11.12	9.69	16.22	67%	-	-	-
合計(枯損木除く)	2820	2525	1970	-22%	59.06	58.32	53.06	-9%	3%	8%	3%

25%を超える増加率 25%を超える減少率 ※ 新規に確認された樹種



森林詳細調査（下層植生）

プロット1

林床調査区		N 区				S 区			
下層植生	階層	低木層		草本層		低木層		草本層	
		高さ	0.5~1.0	m	0.0~0.5	m	-	m	0.0~0.5
	植被率	5	%	30	%	-	%	50	%
	優占種	オオシラビソ		シノブカグマ		-		イワカガミ	
	植物種	和名		被度・群度		和名		被度・群度	
				低木層	草本層			低木層	草本層
	低木層	オオシラビソ		1・1	1・1	イワカガミ			3・3
	草本層	シノブカグマ			2・2	タカネノガリヤス			1・2
	着生植物	バイカオウレン			2・2	ゴゼンタチバナ			1・2
		コヨウラクツツジ			2・2	バイカオウレン			1・2
	植生調査区内に根元がある	ゴゼンタチバナ			2・2	オオシラビソ			1・1
		イワカガミ			1・2	コヨウラクツツジ			1・1
		ヒメタケシマラン			1・2	シラネワラビ			1・1
		マイヅルソウ			1・2	トウヒ			1・1
		[黒塗り]				シノブカグマ			+
		ナナカマド			+	ナナカマド			+
		ホソバトウゲシバ			+	コミヤマカタバミ			+
		スノキ			+	マイヅルソウ			+
		タケシマラン			+	シラビソ			+
		ミネカエデ			+	バイケイソウ			+
		オサバグサ			+	ミヤマフタバラン			+
		コハリスゲ			+	スノキ			+
		ミヤマワラビ			+	コメツガ			+
		ネコシデ			+	ヒメタケシマラン			+
	植生調査区外の特記種	小円: ミヤマアキノキリンソウ、カニコウモリ、ゴヨウイチゴ 中円: キタゴヨウ 大円: ヒトツバキソチドリ、ヒメスギラン							

種名	H22	H27	R7	種名	H22	H27	R7
ヒメスギラン			・	オサバグサ	○	○	○
トウゲシバ	○	○		バイカオウレン	○	○	○
ホソバトウゲシバ			○	ゴヨウイチゴ			・
ミヤマワラビ	○	○	○	ヒメゴヨウイチゴ	○	○	
オオバショリマ	○	○		ナナカマド	○	○	○
シノブカグマ	○	○	○	ネコシデ	○	○	○
シラネワラビ	○	○	○	コミヤマカタバミ	○	○	○
オオシラビソ	○	○	○	ウリハダカエデ		・	
シラビソ	○	○	○	ミネカエデ		○	○
トウヒ	○	○	○	ゴゼンタチバナ	○	○	○
キタゴヨウ		・	・	イワカガミ	○	○	○
コメツガ	○	○	○	ギンリョウソウ	○	○	
バイケイソウ	○	○	○	コバノイチヤクソウ	○		
タケシマラン			○	コヨウラクツツジ	○	○	○
ヒメタケシマラン	○	○	○	スノキ	○	○	○
コイチヨウラン	○			エゾノヨツバムグラ	○	○	
[黒塗り]				セリバシオガマ	・		
ヒトツバキソチドリ			・	カニコウモリ	○	○	・
マイヅルソウ	○	○	○	ミヤマアキノキリンソウ	○	○	・
コハリスゲ	○	○	○	ハリブキ	○	○	
タカネノガリヤス	○	○	○	総数	33	32	31

年度	低木層		草本層	
	高さ	植被率	高さ	植被率
H22 小円	0.7~4.0m	20%	0~0.5m	60%
H27 小円	0.7~4.0m	20%	0~0.5m	50%
R7 N区	0.5~1.0m	5%	0~0.5m	30%
R7 S区	-	-	0~0.5m	50%

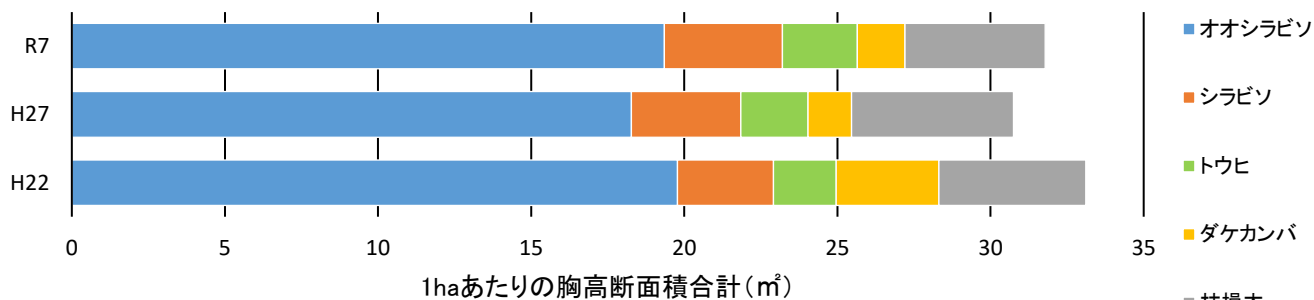
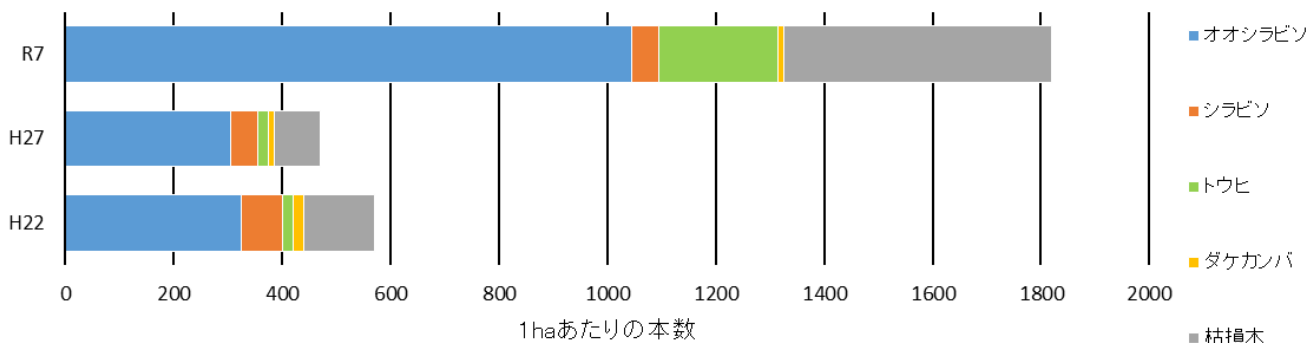
○: 低木層及び草本層における今回調査の林床調査区での確認種と、過年度調査での小円部及び中円部での出現種

・: その他のプロット内確認種



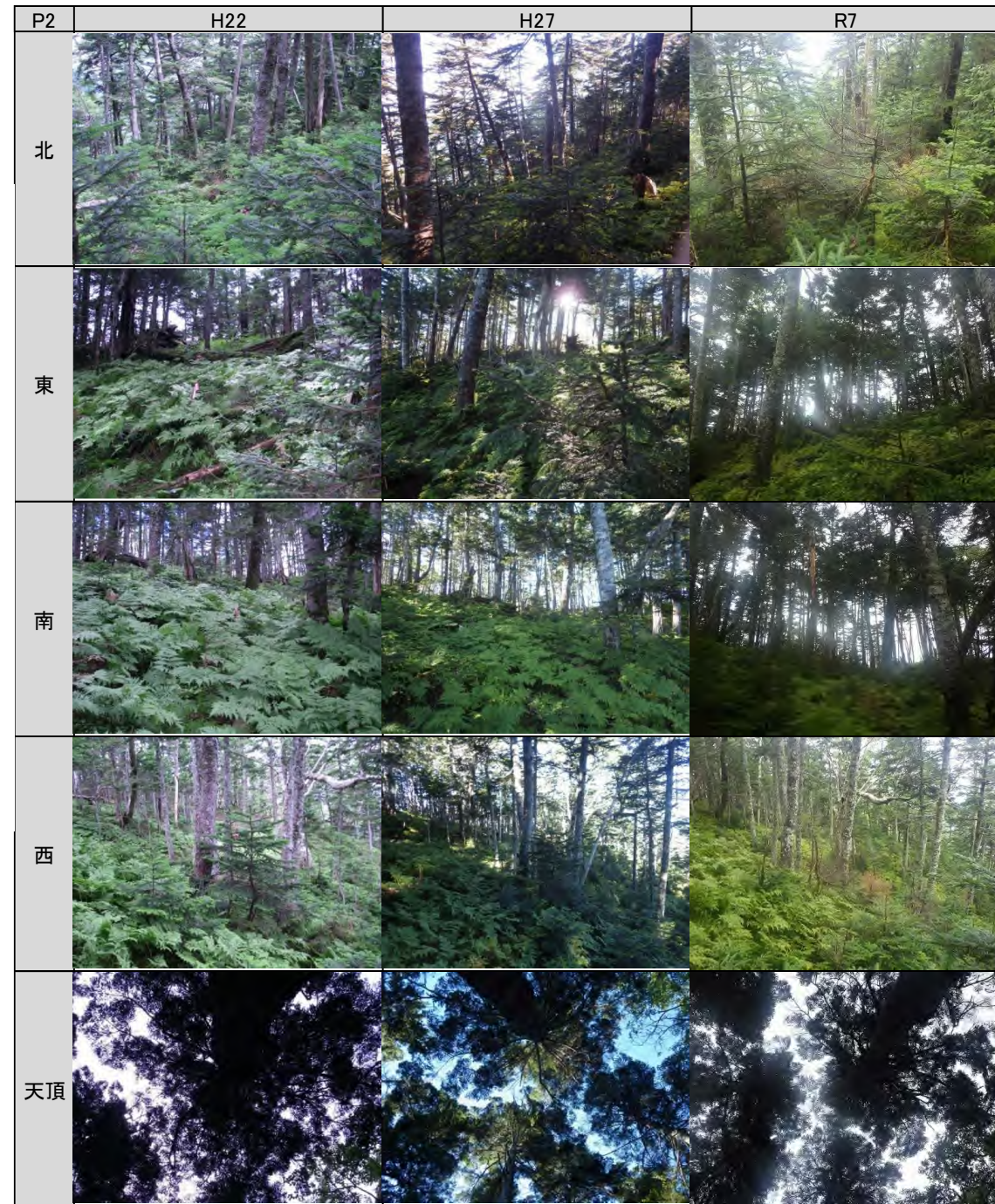
森林詳細調査

プロット2



樹種	1haあたり本数				1haあたり断面積 (m ²)				剥皮率		
	H22	H27	R7	増加率	H22	H27	R7	増加率	H22	H27	R7
オオシラビン	325	305	1045	243%	19.78	18.28	19.35	6%	0%	8%	24%
シラビン	75	50	50	0%	3.14	3.57	3.85	8%	0%	20%	20%
トウヒ	20	20	220	1000%	2.05	2.19	2.45	12%	0%	0%	0%
ダケカンバ	20	10	10	0%	3.36	1.43	1.56	10%	0%	0%	0%
枯損木	130	85	495	482%	4.79	5.28	4.58	-13%	-	-	-
合計(枯損木除く)	440	385	1325	244%	28.32	25.46	27.21	7%	0%	9%	20%

25%を超える増加率
25%を超える減少率
※ 新規に確認された樹種



森林詳細調査（下層植生）

プロット2

林床調査区		N 区				S 区			
下層植生	階層	低木層		草本層		低木層		草本層	
	高さ	1.0~2.5	m	0.0~1.0	m	1.0~1.5	m	0.0~1.0	m
	植被率	40	%	80	%	20	%	100	%
	優占種	オオシラビソ		シラネワラビ		オオシラビソ		シラネワラビ	
	植物種	和名		被度・群度		和名		被度・群度	
				低木層	草本層			低木層	草本層
	低木層	オオシラビソ		3・3	2・2	オオシラビソ		2・2	1・1
		草本層	シラネワラビ			5・5	トウヒ		1・1
	着生植物		マイヅルソウ			3・3	シラネワラビ		
		ミヤマアオスゲ			3・3	バイカオウレン			3・3
バイカオウレン			2・2	マイヅルソウ			3・3		
植生調査区内に根元がある	コミヤマカタバミ			1・2	コミヤマカタバミ			2・2	
	ヒメタケシマラン			1・1	ヒメタケシマラン			1・1	
	ゴゼンタチバナ			1・1	カニコウモリ			+	
	トウヒ			1・1	ウダイカンバ			+	
	コヨウラクツツジ			+					
ハリブキ			+						
植生調査区外の特記種		小円：タカネノガリヤス、コフタバラン、ナナカマド、ホソバトウゲシバ、セリバシオガマ、ヒメスギラン 中円：バイケイソウ 大円：ゴヨウイチゴ、トリカブトsp.、コハリスゲ							

種名	H22	H27	R7
ヒメスギラン			・
トウゲシバ	○	○	
ホソバトウゲシバ			・
ミヤマワラビ	○	○	
シラネワラビ	○	○	○
オオシラビソ	○	○	○
シラビソ	○	○	
トウヒ	○	○	○
バイケイソウ	○	○	・
ヒメタケシマラン	○	○	○
コフタバラン			・
マイヅルソウ	○	○	○
コハリスゲ	○	○	・
ミヤマアオスゲ	○	○	○
タカネノガリヤス	○	○	・
トリカブトsp.			・
バイカオウレン	○	○	○

種名	H22	H27	R7
ミヤマキンポウゲ	○	○	
モミジカラムツ		○	
ゴヨウイチゴ			・
シナノキイチゴ		○	
ヒメゴヨウイチゴ	○	・	
ナナカマド	○	○	・
ダケカンバ	○	○	
ウダイカンバ			○
コミヤマカタバミ	○	○	○
ゴゼンタチバナ	○	○	○
ギンリョウソウ	○	○	
コヨウラクツツジ	○	○	○
スノキ	・	・	
エゾノヨツバムグラ	○	○	
セリバシオガマ	○	○	・
カニコウモリ	○	○	○
ハリブキ	○		○
総計	26	27	23

年度	低木層		草本層	
	高さ	植被率	高さ	植被率
H22 小円	0.5~4.0m	20%	0~0.6m	90%
H27 小円	0.5~4.0m	20%	0~0.6m	90%
R7 N区	1.0~2.5m	40%	0~1.0m	80%
R7 S区	1.0~1.5m	20%	0~1.0m	100%

○：低木層及び草本層における今回調査の林床調査区での確認種と、過年度調査での小円部及び中円部での出現種

・：その他のプロット内確認種



森林概況調査

■ 林分の状況

- ・ 老齢段階の天然林
- ・ 尾根部にハイマツ林や風衝草地

■ 被害状況

- ・ 易老岳付近で縞枯れ
- ・ 雪害による樹木の折れ

■ 動物情報

- ・ ニホンジカの剥皮、食痕、足跡が登山道に散見
- ・ オオシラビソの稚樹への剥皮被害を多数確認

■ その他

以下の重要種を確認（プロット含む）



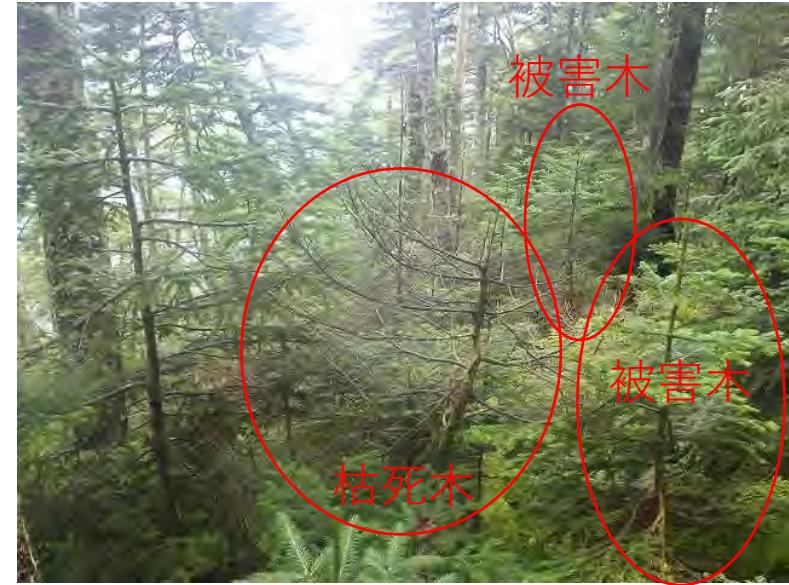
高山ハイデ植生



縞枯れ（易老岳）



ニホンジカ（オオシラビソ剥皮）



稚樹の枯死木や剥皮被害木

総合評価

調査内容	確認項目		評価	評価内容
森林詳細調査	立木調査	群落	○	一部で小径木の減少は見られるが、高木層を構成するシラビソやオオシラビソ、トウヒに大きな変化は確認されなかった。
		保護対象種	-	設定なし。
	下層植生調査		△	確認種に大きな変化は確認されなかったが、プロット1で低木層の減少がみられた。
	気象害・病虫獣害等の発生状況調査		×	過年度調査より継続的にニホンジカによる剥皮が確認されており、本年度はオオシラビソの稚樹への剥皮が多く確認された。 下層植生は豊かであることから、植生被害レベル1と判断した。
森林概況調査	気象害・病虫獣害等の発生状況調査		△	雪害による樹木の折れが単木的に確認される程度である。 ニホンジカの痕跡が登山道に散見された。
	重要種の確認		○	が確認された。
資料調査			○	学術論文や報告書等4資料が確認され、登山ツアー一等の実施も確認された。
聞き取り調査			○	【南信森林管理署】 ニホンジカ対策に関する協議会を中心に各関係機関と連携して、対策を実施していく。
考察及び総合評価			要対策	継続してニホンジカの剥皮が確認されている保護林で、林分の後継樹への剥皮被害が多数確認され、登山道に痕跡が散見される等、広い範囲で植生被害状況が確認された。 南アルプス全体で関係機関と連携した対策が実施されているので、本保護林においても対策の検討が求められる。

【個別項目の評価】

- ：前回と比較して大きな変化なし。または問題なし。
 - △：前回と比較して大きな変化または問題が確認された。
 - ×
- ×：前回と比較して重大な変化または問題が確認され、対策の検討が必要である。

【総合評価】

- 健全：保護林の健全性が保たれていた。
- 要注意：一部で問題が確認された。
- 要対策：重大な変化または問題が確認され、対策の検討が必要である。

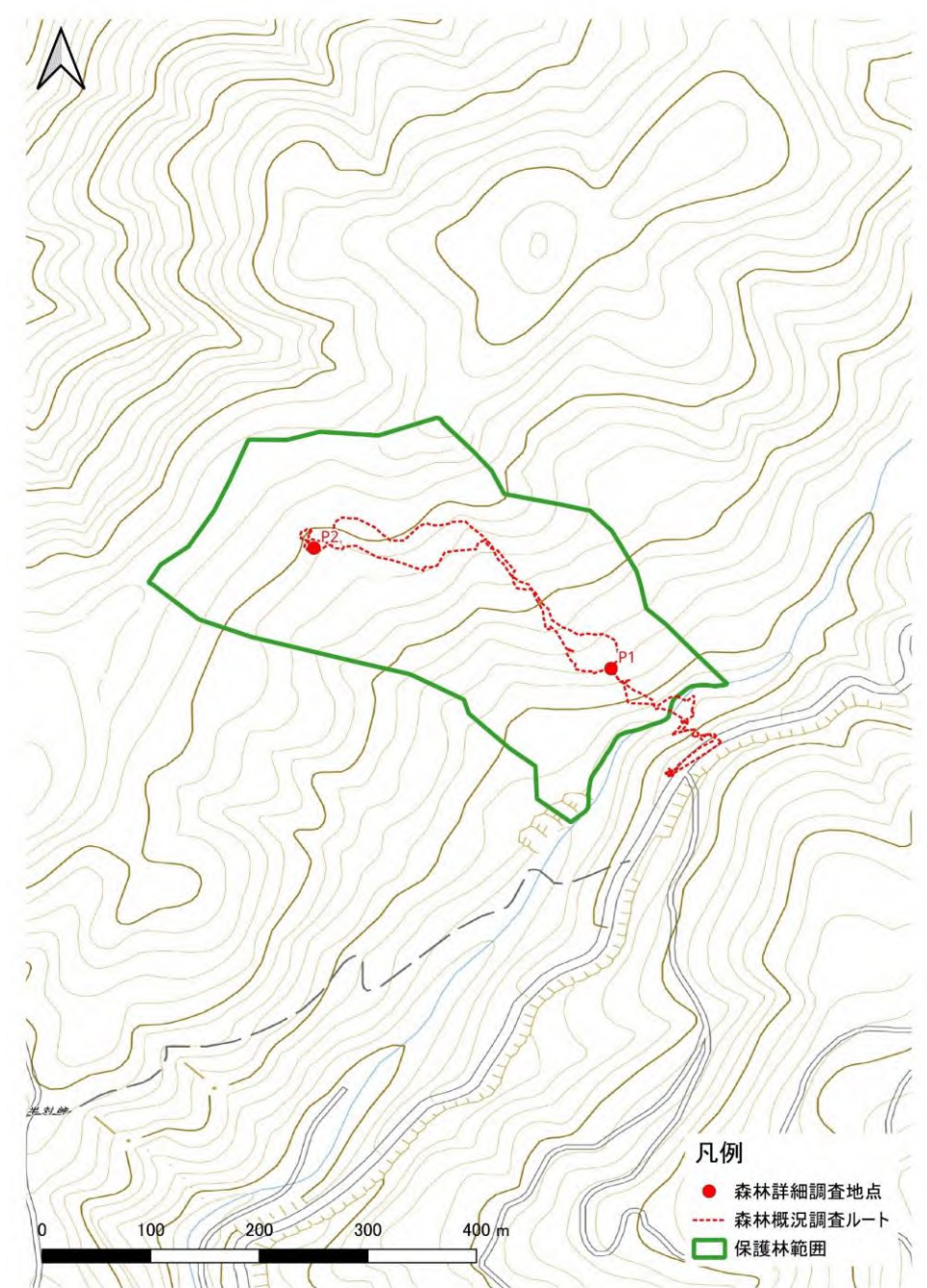
小黒川ウラジロモミ 遺伝資源希少個体群 保護林

■位置

長野県伊那市長谷

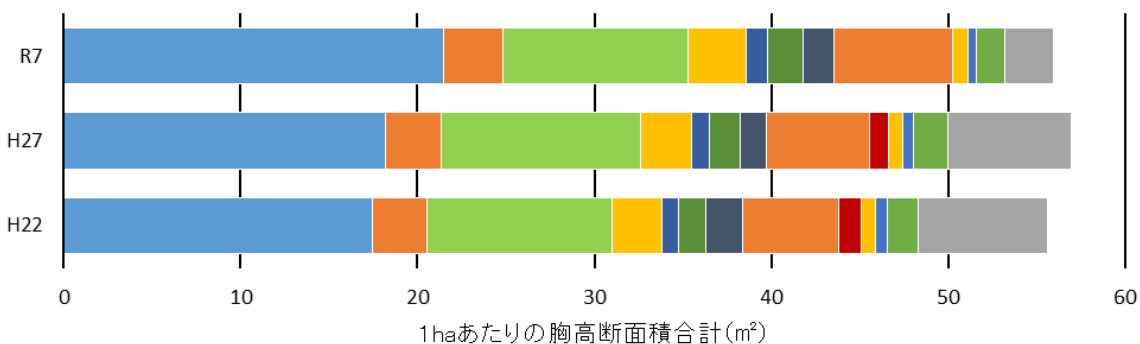
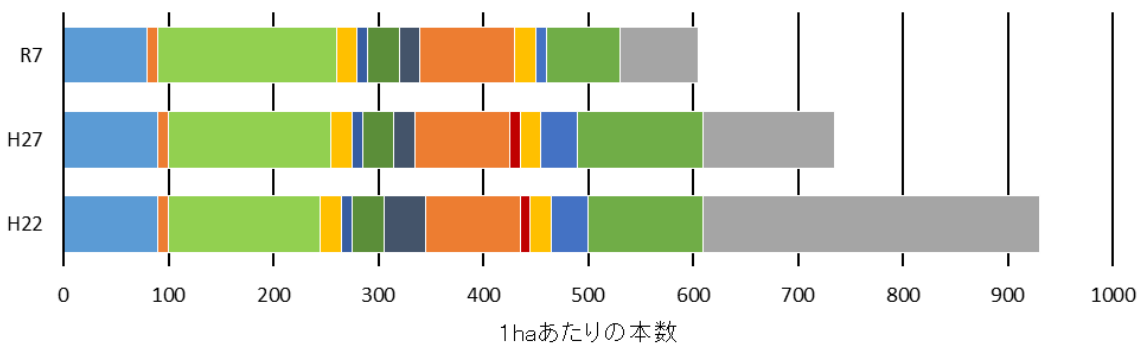
■設定目的

冷温帯から亜寒帯への移行帯におけるウラジロモミ、イラモミ、ダケカンバを遺伝資源として保存することを目的とする。



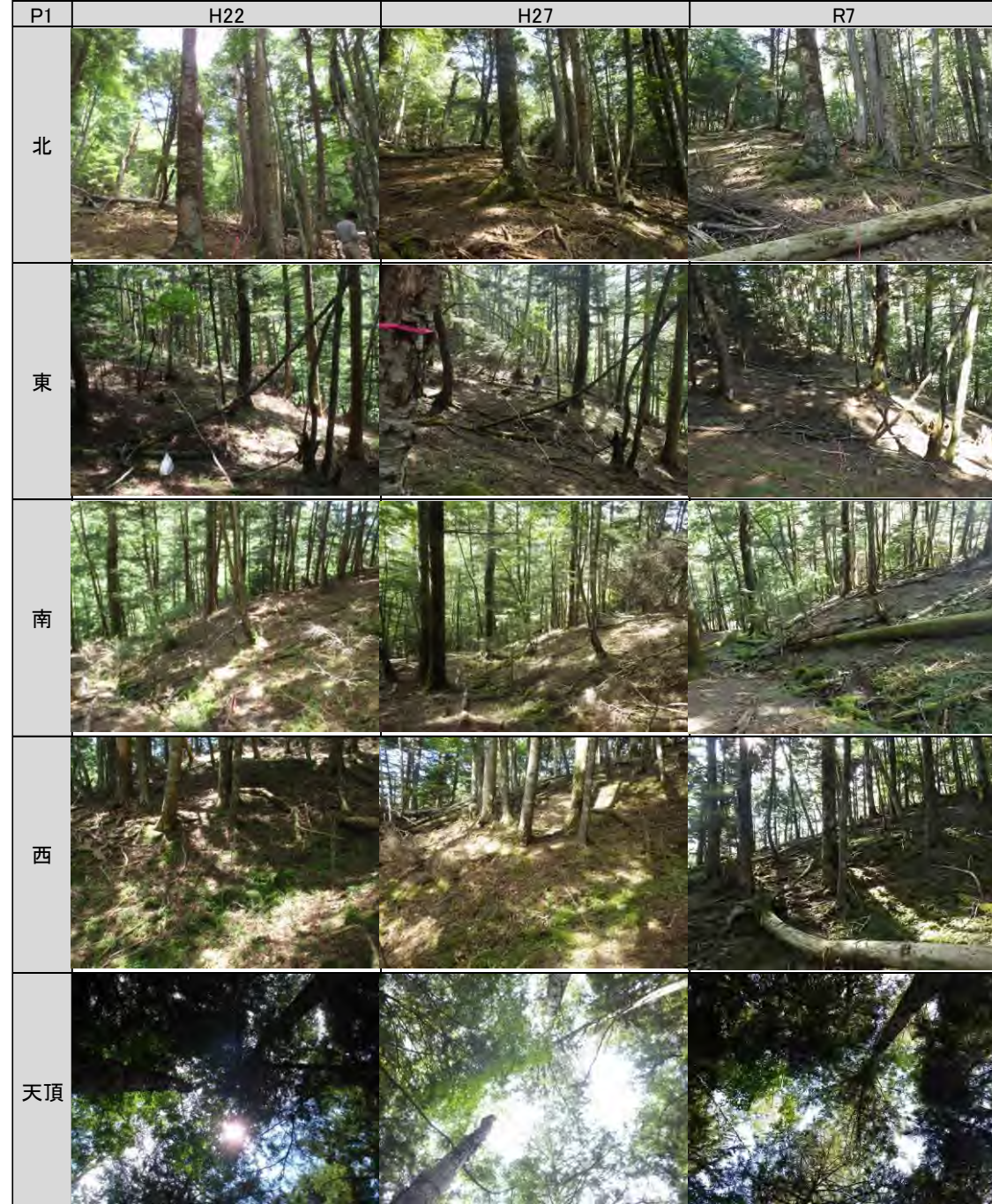
森林詳細調査

プロット1



樹種	1haあたり本数				1haあたり断面積(m ²)				剥皮率		
	H22	H27	R7	増加率	H22	H27	R7	増加率	H22	H27	R7
ウラジロモミ	90	90	80	-11%	17.47	18.22	21.48	18%	0%	0%	0%
キタゴヨウ	10	10	10	0%	3.08	3.15	3.36	7%	0%	0%	0%
コメツガ	145	155	170	10%	10.47	11.22	10.48	-7%	0%	0%	7%
ヒノキ	20	20	20	0%	2.78	2.88	3.27	14%	0%	50%	50%
ウワミズザクラ	10	10	10	0%	0.93	1.02	1.22	20%	0%	0%	0%
シウリザクラ	30	30	30	0%	1.60	1.75	2.02	16%	0%	0%	0%
ミズナラ	40	20	20	0%	2.07	1.48	1.69	14%	0%	0%	0%
ダケカンバ	90	90	90	0%	5.39	5.84	6.72	15%	0%	0%	0%
シラカンバ	10	10	0	-100%	1.26	1.09	0.00	-100%	0%	0%	0%
イトマキイタヤ	20	20	20	0%	0.81	0.80	0.91	14%	0%	0%	0%
コハウチワカエデ	35	35	10	-71%	0.67	0.57	0.44	-24%	0%	0%	0%
シナノキ	110	120	70	-42%	1.77	1.97	1.61	-18%	0%	0%	0%
枯損木	320	125	75	-40%	7.28	6.94	2.75	-60%	-	-	-
合計(枯損木除く)	610	610	530	-13%	48.31	49.99	53.18	6%	0%	2%	4%

25%を超える増加率 25%を超える減少率 ※ 新規に確認された樹種



森林詳細調査 (下層植生)

プロット1

林床調査区	N 区				S 区					
	階層	低木層		草本層		階層	低木層		草本層	
下層植生	高さ	-	m	0.0~0.2	m	1.0~4.0	m	0.0~0.2	m	
	植被率	-	%	8	%	7	%	12	%	
優占種	-	ミヤマクマザサ		コメツガ		ミヤマクマザサ				
植物種	和名	被度・群度		被度・群度		被度・群度		被度・群度		
		低木層	草本層	低木層	草本層	低木層	草本層	低木層	草本層	
低木層	ミヤマクマザサ		1・2	コメツガ		1・1	+			
	草本層	コミヤマカタバミ		++2	ミヤマクマザサ			1・2		
着生植物	ジンヨウイチヤクソウ		++2	ミヤマタニタデ			++2			
	コミネカエデ		+	タチツボスミレ			++2			
植生調査区内に根元がある	ウリハダカエデ		+	ミヤマワラビ			+			
	イワセントウソウ		+	イワデンダ			+			
	タチツボスミレ		+	コミヤマカタバミ			+			
	ウラジロモミ		+	ウラジロモミ			+			
	イワガラミ		+	コミネカエデ			+			
	エンレイソウsp.		+	イワセントウソウ			+			
	ミヤマスマレ		+	マイヅルソウ			+			
	マイヅルソウ		+	イネsp.			+			
	ミヤマタニタデ		+	ミズナラ			+			
	ナナカマド		+	ウリハダカエデ			+			
ミヤマザクラ		+	ツクバネウツギ			+				
植生調査区外の特記種	小円: コハウチワカエデ、ヒノキ									
	中円: ヒメミヤマウズラ、セリバオウレン、ヤマムグラ									
	大円: イケマ、サワギク、ミゾホオズキ、キタゴヨウ、イラモミ、ノキシノブ、サワダツ、ノウゴウイチゴ、ヤマトリカブト									

種名	H22	H27	R7
トウゲシバ		○	
クジャクシダ	○	・	
ミヤマワラビ	○	○	○
イワデンダ			○
ミヤマシダ	○	○	
オシダ	○		
ノキシノブ			・
ウラジロモミ		○	○
トウヒ		・	
ヒメコマツ	・	・	
キタゴヨウ			・
コメツガ	○	○	○
ヒノキ	○		・
サワラ	○	○	
ネズコ	○		
ウスバサイシン	・	・	
テンナンショウsp.	○	○	
エンレイソウsp.		・	○
タケシマラン	・	○	
ヒメムヨウラン	・		
マイヅルソウ	○	○	○
スゲsp.	・		
イネsp.			○
ヒメノガリヤス	○		
ミヤマクマザサ	○	○	○
オオバメギ		・	
ヤマトリカブト			・
ホソバトリカブト		○	
セリバオウレン	○	○	・
ミヤマザクラ	○	○	○
ノウゴウイチゴ			・
ウワミズザクラ	・		
シウリザクラ	○	○	
ナガバモミジイチゴ		・	
シナノキイチゴ		・	
ナナカマド		○	○
ミズナラ	・	○	○
カバノキsp.	○		

種名	H22	H27	R7
ダケカンバ	○	○	
シラカンバ	・		
サワダツ			・
ツリバナ	○		
コミヤマカタバミ	○	○	○
タチツボスミレ	○	○	○
ミヤマスマレ	○	○	○
ミヤマタニタデ		○	○
コミネカエデ	○		○
イタヤカエデ		○	
イトマキイタヤ	○		
ウリハダカエデ	○	○	○
コハウチワカエデ			・
シナノキ	○		
オオバタネツケバナ	・		
ツルアジサイ	○		
イワガラミ			○
コナスビ		○	
サルナシ		○	
ギンリョウソウ	・		
ジンヨウイチヤクソウ	○	○	○
ウラジロヨウラク		・	
ヒメウスノキ	・	・	
ヤマムグラ			・
オククルマムグラ	・		
イケマ		○	・
ミヤマタムラソウ	○		
ミゾホオズキ			・
ツルツゲ	・		
タニギキョウ	○		
サワギク		○	・
キオン	○	○	
アキノキリンソウ	○	・	
コシアブラ	・	○	
ハリギリ		○	
イワセントウソウ	○	○	○
ツクバネウツギ			○
ツクバネウツギsp.	・	・	
イボタヒョウタンボク	○		
ハクサンオミナエシ	・		
総数	51	45	35

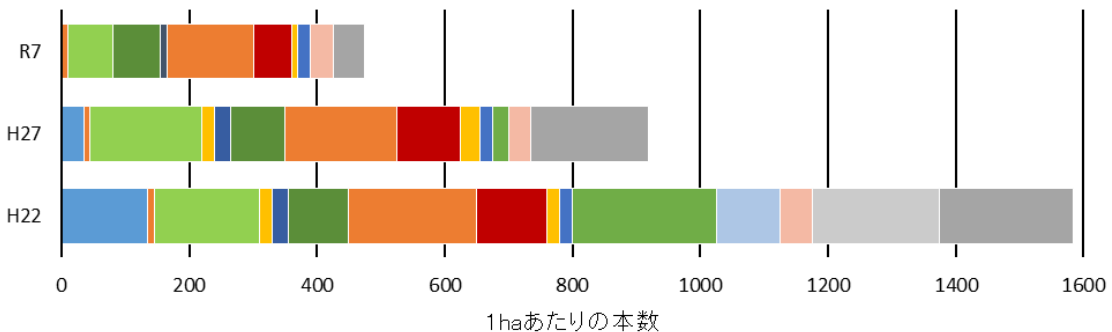
年度	低木層		草本層	
	高さ	植被率	高さ	植被率
H22 小円	0.8~4.5m	10%	0~0.5m	25%
H27 小円	-	-	0~0.3m	20%
R7 N区	-	-	0~0.2m	8%
R7 S区	1.0~4.0m	7%	0~0.2m	12%

○:低木層及び草本層における今回調査の林床調査区での確認種と、過年度調査での小円部及び中円部での出現種
 ・:その他のプロット内確認種

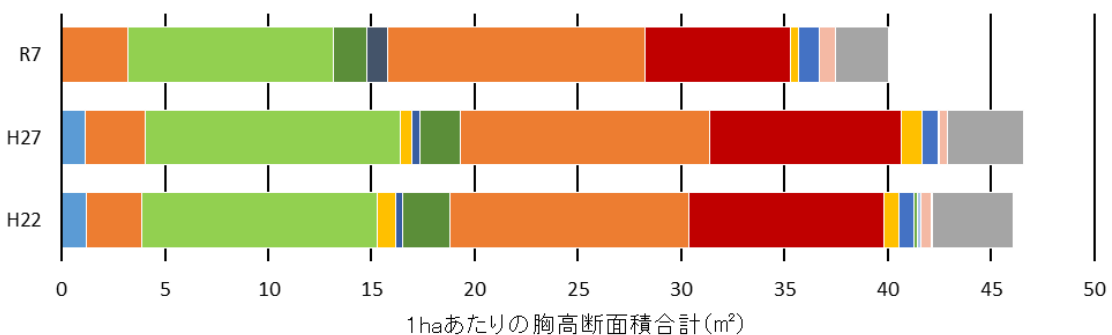


森林詳細調査

プロット2



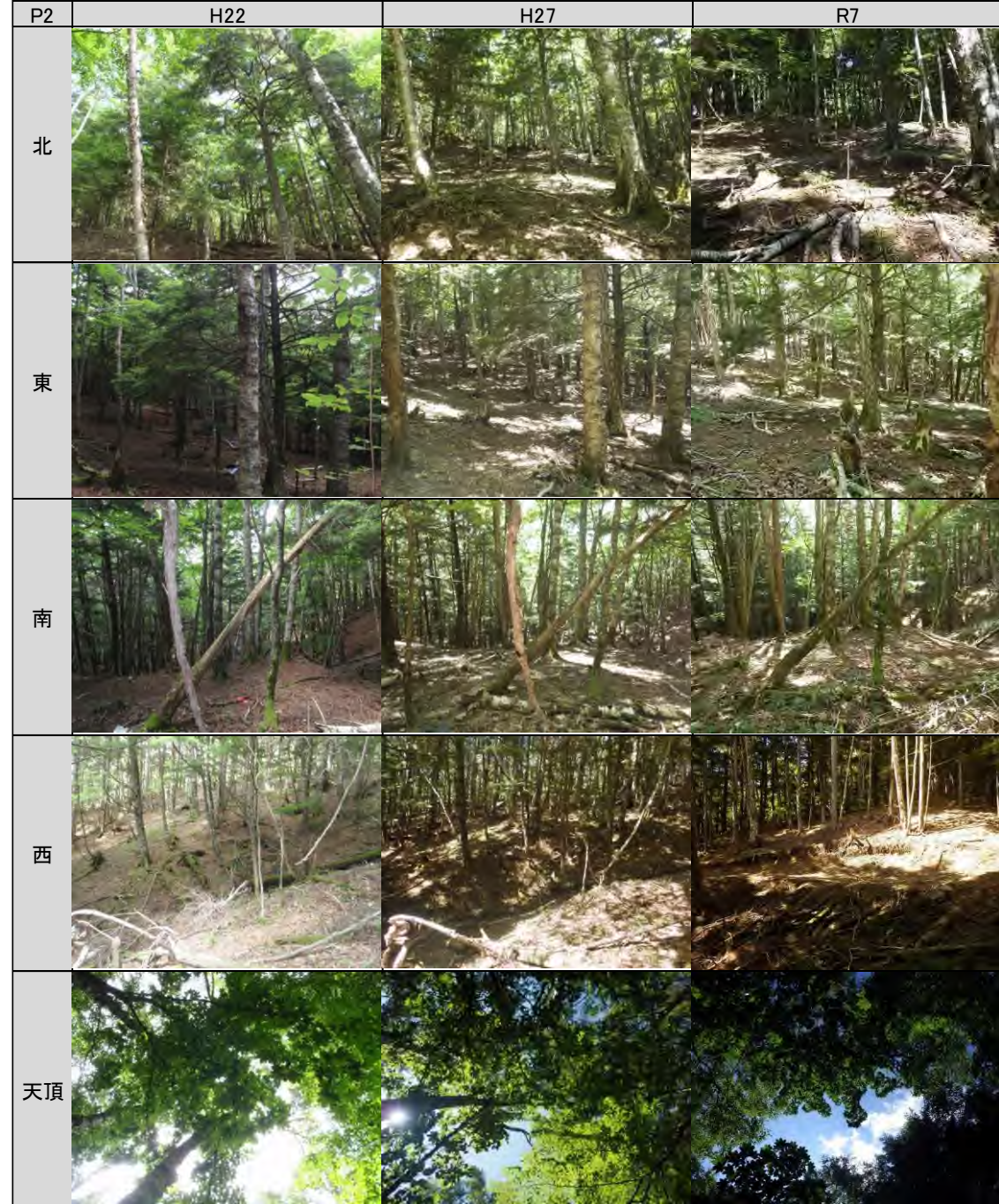
- ウラジロモミ
- キタゴヨウ
- コメツガ
- ヒノキ
- カツラ
- ミヤマザクラ
- プナ
- ダケカンバ
- シラカンバ
- コハウチワカエデ
- シナノキ
- サルナシ
- ネジキ
- ハリギリ
- 樹種不明
- 枯損木



- ウラジロモミ
- キタゴヨウ
- コメツガ
- ヒノキ
- カツラ
- ミヤマザクラ
- プナ
- ダケカンバ
- シラカンバ
- コハウチワカエデ
- シナノキ
- サルナシ
- ネジキ
- ハリギリ
- 樹種不明
- 枯損木

樹種	1haあたり本数				1haあたり断面積(m ²)				剥皮率		
	H22	H27	R7	増加率	H22	H27	R7	増加率	H22	H27	R7
ウラジロモミ	135	35	0	-100%	1.18	1.16	0.00	-100%	0%	50%	0%
キタゴヨウ	10	10	10	0%	2.70	2.90	3.19	10%	0%	0%	0%
コメツガ	165	175	70	-60%	11.42	12.32	9.96	-19%	8%	15%	14%
ヒノキ	20	20	0	-100%	0.87	0.60	0.00	-100%	0%	0%	0%
カツラ	25	25	0	-100%	0.37	0.37	0.00	-100%	0%	0%	0%
ミヤマザクラ	95	85	75	-12%	2.26	1.98	1.64	-17%	0%	0%	0%
プナ	0	0	10	※	0.00	0.00	1.00	※	0%	0%	0%
ダケカンバ	200	175	135	-23%	11.57	12.05	12.44	3%	0%	0%	0%
シラカンバ	110	100	60	-40%	9.48	9.29	7.06	-24%	0%	0%	17%
コハウチワカエデ	20	30	10	-67%	0.68	0.98	0.40	-59%	0%	0%	0%
シナノキ	20	20	20	0%	0.76	0.81	1.02	25%	0%	0%	0%
サルナシ	225	25	0	-100%	0.16	0.06	0.00	-100%	0%	0%	0%
ネジキ	100	0	0	0%	0.14	0.00	0.00	0%	0%	0%	0%
ハリギリ	50	35	35	0%	0.53	0.37	0.76	105%	0%	50%	50%
樹種不明	200	0	0	0%	0.08	0.00	0.00	0%	0%	0%	0%
枯損木	210	185	50	-73%	3.89	3.71	2.58	-31%	-	-	-
合計(枯損木除く)	1375	735	425	-42%	42.19	42.89	37.46	-13%	2%	7%	9%

25%を超える増加率 25%を超える減少率 ※ 新規に確認された樹種



森林詳細調査（下層植生）

プロット2

林床調査区		E 区		S 区			
下層植生	階層	低木層	草本層	低木層	草本層		
	高さ	-	m	0.0~0.2	m	0.0~0.2	m
植生	高さ	-	m	0.0~0.2	m	0.0~0.2	m
	植生率	-	%	5	%	8	%
	優占種	-	ミヤマクマザサ	-	ミヤマクマザサ		
	植物種	和名	被度・群度 低木層 草本層	和名	被度・群度 低木層 草本層		
低木層	植物種	ミヤマクマザサ	1・2	ミヤマクマザサ	1・2		
	草本層	ミヤマザクラ	+	ウラジロモミ	1・1		
着生植物	植物種	ウラジロモミ	+	ミヤマザクラ	+・2		
	植物種	タチツボスミレ	+	キタゴヨウ	+		
植生調査区内に根元がある	植物種	マイヅルソウ	+	ウリハダカエデ	+		
	植物種	タニギキョウ	+	タニギキョウ	+		
	植物種	シラネワラビ	+	タチツボスミレ	+		
	植物種	ウリハダカエデ	+	コハウチワカエデ	+		
	植物種	キタゴヨウ	+	シラネワラビ	+		
植生調査区外の特記種	小円	コメツガ、ダケカンバ、タケシマラン、スゲsp.					
	中円	モミジイチゴ、コミヤマカタバミ、クリンソウ、ウスバサイシン、イワセントウソウ、ミヤマスミレ、イワガラミ、ツルウメモドキ、カヤツリグサsp.、イネsp.、シナノキイチゴ					
	大円	ミズナラ、コシアブラ、ヤマノイモ					

種名	H22	H27	R7
ミヤマワラビ	・		
ヘビノネゴザ	○		
ミヤマシダ	・		
シノブカグマ	・		
シラネワラビ	○	○	○
ウラジロモミ	○	○	○
ヒメコマツ		○	
キタゴヨウ	・		○
コメツガ	○		・
ヒノキ	・	・	
ウスバサイシン	○	○	・
ヤマノイモ			・
タケシマラン	○	○	・
イチヨウラン	○		
マイヅルソウ	○	○	○
ユキザサ	・		
カヤツリグサsp.			・
スゲsp.	・	○	・
イネsp.			・
ミヤマクマザサ	○	○	○
オオバメギ	・		
カツラ	・		
ズダヤクシュ	・		
ミヤマザクラ	○	○	○
モミジイチゴ			・
シナノキイチゴ			・
イヌブナ	・		

種名	H22	H27	R7
ミズナラ	○	○	・
ダケカンバ		○	・
ツルウメモドキ			・
コミヤマカタバミ			・
タチツボスミレ	○	○	○
ミヤマスミレ		○	・
ミヤマタニタデ	・		
ヤマモミジ	○		
ハウチワカエデ		・	
コミネカエデ	・	・	
ウリハダカエデ	○	○	○
コハウチワカエデ	○	○	○
イワガラミ			・
コナスビ	○		
クリンソウ			・
ネジキ	○		
ギンリョウソウ	・		
ジンヨウイチヤクソウ			・
オククルマムグラ	○	・	
イケマ	・	・	
ミヤマタムラソウ	○		
タニギキョウ	・	○	○
ヨツバヒヨドリ	○		
フクオウソウ	○		
サワギク	・		
コシアブラ	○	○	・
ハリギリ			○
イワセントウソウ	○	○	・
総計	18	20	30

年度	低木層		草本層	
	高さ	植生率	高さ	植生率
H22 小円	1.5~5.0m	5%	0.2~1.5m	5~10%
H27 小円	-	-	0.2~0.5m	10%
R7 E区	-	-	0~0.2	5%
R7 S区	-	-	0~0.2	8%

○：低木層及び草本層における今回調査の林床調査区での確認種と、過年度調査での小円部及び中円部での出現種
 ・：その他のプロット内確認種



森林概況調査

■ 林分の状況

- ・ 老齢段階の天然林
- ・ 保護対象種ウラジロモミの実生・幼木・成木、イラモミの幼木、ダケカンバの実生・成木を確認

■ 被害状況

- ・ 風害として、根がえり倒木を確認
- ・ P2で作業道が設置

■ 動物情報

- ・ ニホンジカの食痕や糞、獣道が多数足跡、ブラウジングライン、生体も確認
- ・ ツキノワグマの食痕（木の洞のハチの巣）を確認

■ その他

以下の重要種を確認（プロット含む）



作業道の状況



ニホンジカ（ブラウジングライン）



イラモミ（保護対象種）



ヒメミヤマウズラ

総合評価

調査内容	確認項目	評価	評価内容	
森林詳細調査	立木調査	群落	△	作業道が作設されていた。
		保護対象種	△	作業道作設により、保護対象種のウラジロモミやダケカンバが伐採された。 ウラジロモミの実生、イラモミの幼木、ダケカンバの実生が確認された。 また、森林概況調査でウラジロモミの幼木が確認された。
	下層植生調査		×	作業道作設により、林縁の種等が増加した。 過年度調査と比較して確認種数は減少傾向にあり、植生率も減少していた。
	気象害・病虫獣害等の発生状況調査		×	風害による根がえり倒木が単木的にみられた。 ニホンジカによる食痕が多数確認され、ブラウジングラインも形成されていたことから、植生被害レベル3と判断した。
森林概況調査	気象害・病虫獣害等の発生状況調査		×	風害による根がえり倒木が単木的にみられた。 ニホンジカの痕跡が多数みられ、ブラウジングラインが形成されていた。
	重要種の確認		○	確認された。
資料調査		○	本保護林における資料はないが、連続した山系である南アルプスの学術論文や報告書等 5 資料が確認された。	
聞き取り調査		○	【南信森林管理署】 作業道の作設後の経過確認を毎年実施している。	
考察及び総合評価		要対策	作業道の作設に伴う保存対象種の減少があるが、これらに対しては森林管理署による確認作業が継続的に実施されている。 ただし、ニホンジカによる植生被害が大きく、過年度調査時点で保護対象種のウラジロモミの小径木への影響が確認されている。 よって、保護対象種であるウラジロモミ、イラモミ、ダケカンバへの被害防止対策の実施が求められる。	

【個別項目の評価】

- ：前回と比較して大きな変化なし。または問題なし。
 - △：前回と比較して大きな変化または問題が確認された。
 - ×
- ×：前回と比較して重大な変化または問題が確認され、対策の検討が必要である。

【総合評価】

- 健全：保護林の健全性が保たれていた。
- 要注意：一部で問題が確認された。
- 要対策：重大な変化または問題が確認され、対策の検討が必要である。

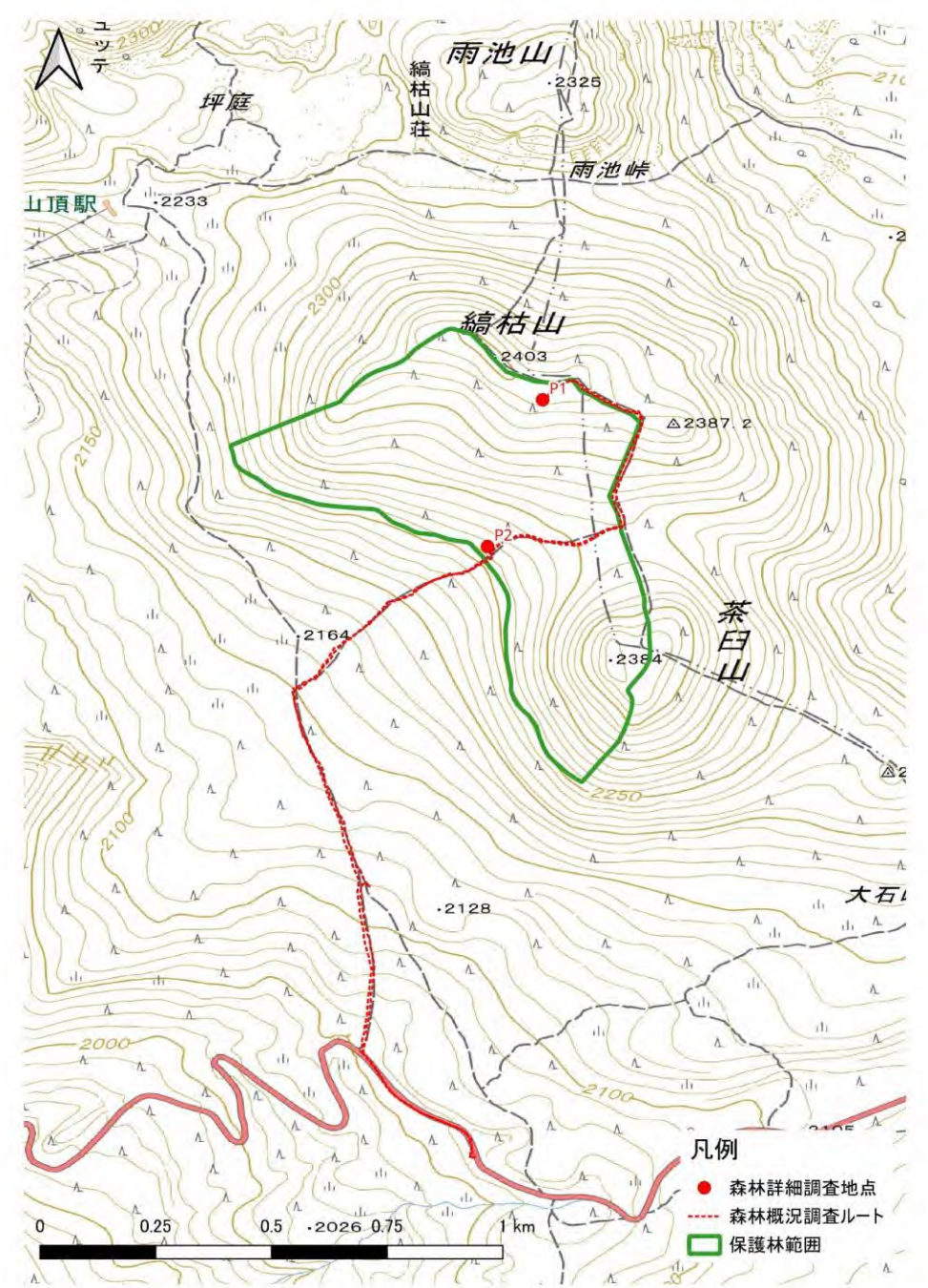
八ヶ岳縞枯山希少個体群保護林 (ニホンジカの課題あり)

■位置

長野県茅野市

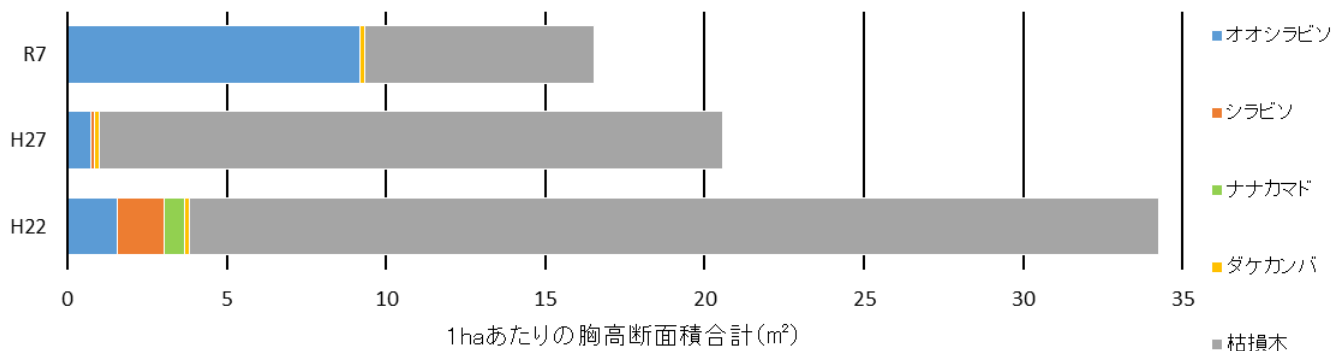
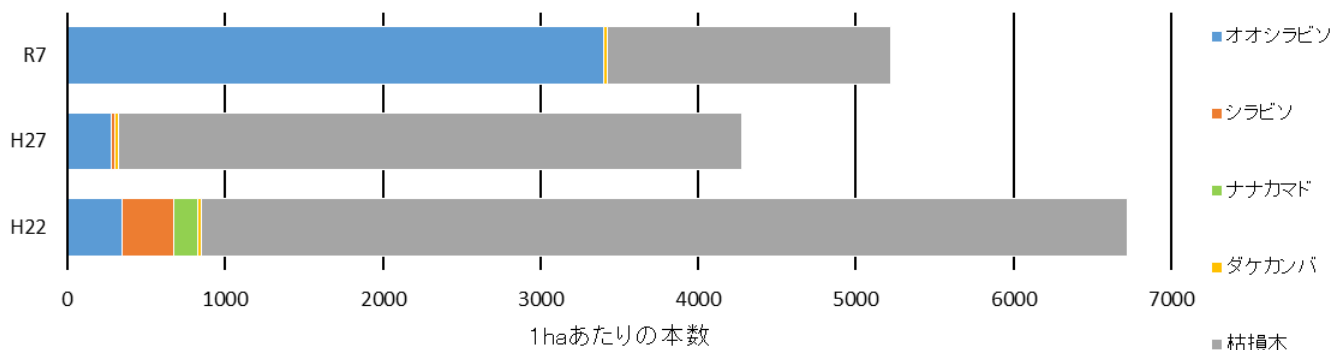
■設定目的

縞枯山（2403m）一帯で帯状立枯現象を示しているシラビソ群落の保護を目的とする。



森林詳細調査

プロット1

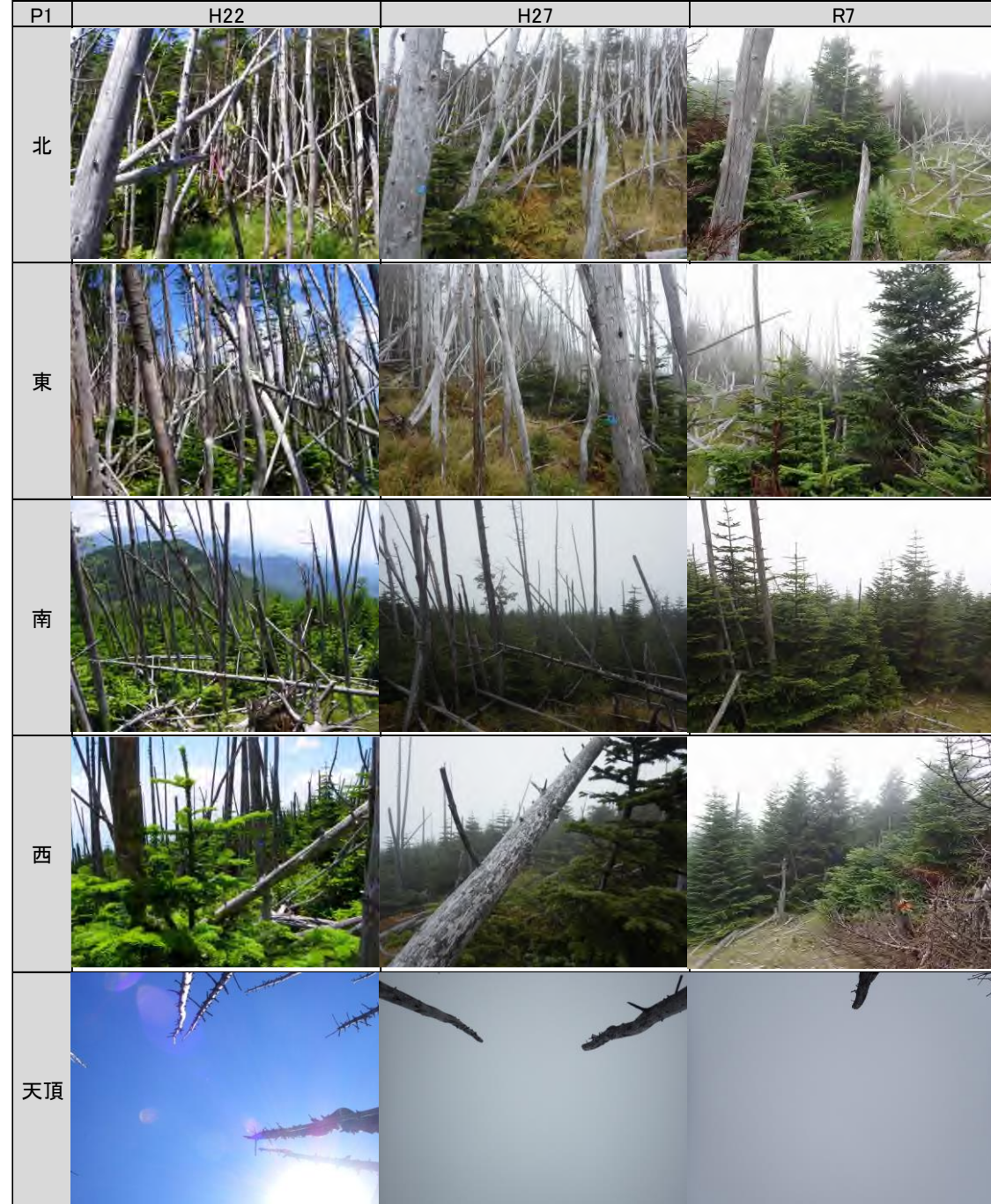


樹種	1haあたり本数				1haあたり断面積(m ²)				剥皮率		
	H22	H27	R7	増加率	H22	H27	R7	増加率	H22	H27	R7
オオシラビン	350	275	3400	1136%	1.57	0.74	9.18	1142%	0%	27%	30%
シラビン	325	25	0	-100%	1.48	0.13	0.00	-100%	0%	0%	0%
ナナカマド	150	0	0	0%	0.63	0.00	0.00	0%	0%	0%	0%
ダケカンバ	25	25	25	0%	0.15	0.13	0.14	2%	0%	0%	0%
枯損木	5875	3950	1800	-54%	30.41	19.59	7.22	-63%	-	-	-
合計(枯損木除く)	850	325	3425	954%	3.83	1.00	9.32	835%	0%	23%	30%

25%を超える増加率

25%を超える減少率

※ 新規に確認された樹種



森林詳細調査（下層植生）

プロット1

林床調査区	N 区				S 区				
	低木層		草本層		低木層		草本層		
下層植生	階層	高さ	40	90	60	50			
	高さ	1.0~4.0 m	0.0~1.0 m	1.0~4.0 m	0.0~1.0 m				
	優占種	オオシラビソ		エゾヌカボ		オオシラビソ		エゾヌカボ	
植物種	和名	被度・群度		被度・群度		被度・群度		被度・群度	
		低木層	草本層	低木層	草本層	低木層	草本層	低木層	草本層
低木層	オオシラビソ	3・3	1・1	オオシラビソ	4・4	1・1			
草本層	エゾヌカボ		5・5	エゾヌカボ		2・2			
着生植物	シラネワラビ		1・2	ノガリヤスsp.		2・2			
	マイヅルソウ		++2	ミツバオウレン		1・2			
植生調査区内に根元がある	ミツバオウレン		++2	コヨウラクツツジ		1・1			
	ハリブキ		+	シラネワラビ		1・1			
	オサバグサ		+	マイヅルソウ		++2			
	ミヤマワラビ		+	セリバオウレン		+			
	コミヤマカタバミ		+	ホソバトウゲシバ		+			
	ゴゼンタチバナ		+	ヒメウスノキ		+			
	セリバオウレン		+	ゴゼンタチバナ		+			
	シラビソ		+	シラビソ		+			
	コガネイチゴ		+	オサバグサ		+			
	ミヤマウラジロイチゴ		+	コバノイチヤクソウ		+			
			コミヤマカタバミ		+				
			ミヤマアオスゲ		+				
			ヒメスゲ		+				
植生調査区外の特記種	小円: ナナカマド、サワラ、カラマツ、エゾヒカゲノカズラ、マンネンスギ、ミヤマアキノキリンソウ 中円: アカマツ 大円: イヌワラビ、ヒメゴヨウイチゴ、バイケイソウ								

種名	H22	H27	R7
トウゲシバ	○	○	
ホソバトウゲシバ			○
エゾヒカゲノカズラ			・
マンネンスギ			・
ミヤマワラビ	○	○	○
イヌワラビ			・
シラネワラビ	○	○	○
オオシラビソ	○	○	○
シラビソ	○	○	○
カラマツ	○	○	・
アカマツ			・
サワラ			・
バイケイソウ	・	・	・
ヒメタケシマラン	○		
マイヅルソウ	○	○	○
コハリスゲ	○	○	
ミヤマアオスゲ	○	○	○
ヒメスゲ			○
エゾヌカボ	○	○	○
ノガリヤスsp.			○
イネsp.	○	○	

種名	H22	H27	R7
オサバグサ	○	○	○
セリバオウレン		○	○
ミツバオウレン	○	○	○
ゴヨウイチゴ	○		
コガネイチゴ	○	○	○
ミヤマウラジロイチゴ	○	○	○
ヒメゴヨウイチゴ		○	・
ナナカマド			・
ネコシデ	○	○	
ダケカンバ	○		
コミヤマカタバミ	○	○	○
ゴゼンタチバナ	○	○	○
コバノイチヤクソウ		○	○
コヨウラクツツジ	○	○	○
ヒメウスノキ	○	○	○
オオバノヨツバムグラ		○	
カニコウモリ	○	○	
ミヤマアキノキリンソウ	○	○	・
ハリブキ	○	○	○
イワセントウソウ	○		
総数	28	28	31

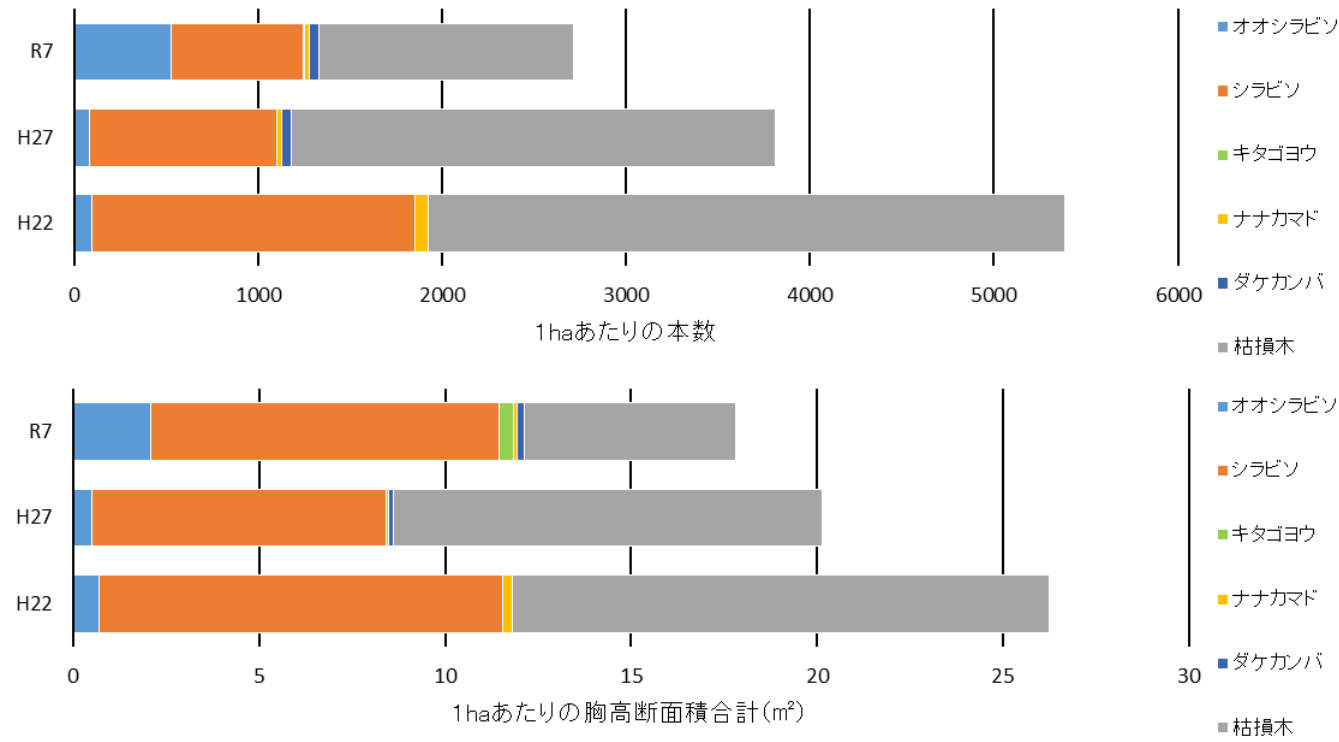
年度	低木層		草本層	
	高さ	植被率	高さ	植被率
H22 小円	0.5~2.0m	30%	0~0.5m	85%
H27 小円	0.5~2.0m	30%	0~0.5m	90%
R7 N区	1.0~4.0m	40%	0~1.0m	90%
R7 S区	1.0~4.0m	60%	0~1.0m	50%

○:低木層及び草本層における今回調査の林床調査区での確認種と、過年度調査での小円部及び中円部での出現種
・:その他のプロット内確認種



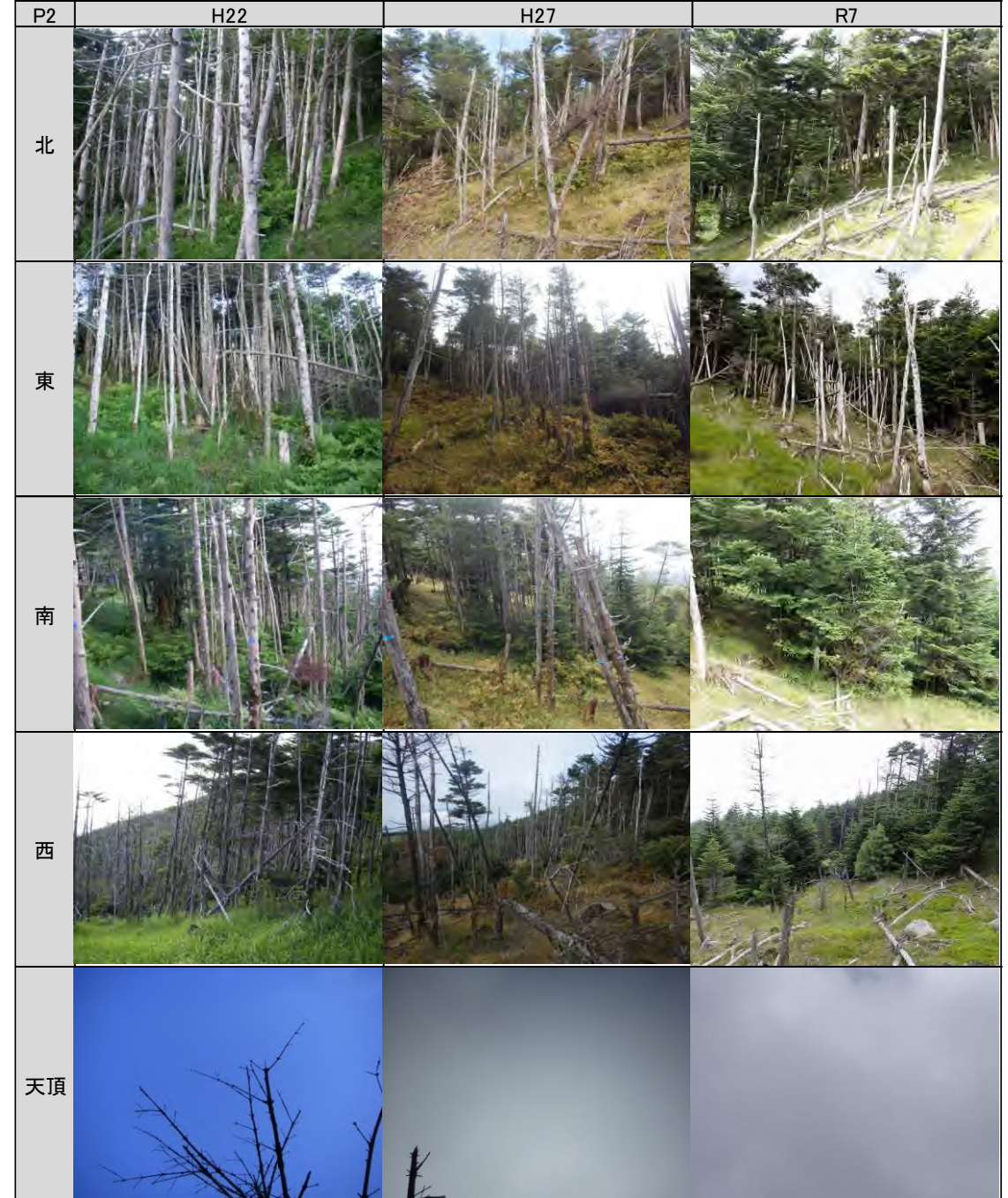
森林詳細調査

プロット2



樹種	1haあたり本数				1haあたり断面積(m ²)				剥皮率		
	H22	H27	R7	増加率	H22	H27	R7	増加率	H22	H27	R7
オオシラビソ	100	85	525	518%	0.69	0.50	2.10	318%	25%	25%	44%
シラビソ	1750	1020	720	-29%	10.86	7.92	9.35	18%	60%	71%	33%
キタゴヨウ	0	0	10	※	0.00	0.00	0.38	※	0%	0%	100%
ナナカマド	75	25	25	0%	0.25	0.06	0.12	96%	0%	0%	0%
ダケカンバ	0	50	50	0%	0.00	0.13	0.18	41%	0%	0%	0%
枯損木	3460	2635	1385	-47%	14.46	11.54	5.69	-51%	-	-	-
合計(枯損木除く)	1925	1180	1330	13%	11.81	8.61	12.12	41%	56%	63%	36%

25%を超える増加率 25%を超える減少率 ※ 新規に確認された樹種



森林詳細調査（下層植生）

プロット2

林床調査区	N 区				S 区			
	階層	低木層	草本層		低木層	草本層		
下層植生	高さ	1.0~2.5 m	0.0~0.5 m		1.0~2.5 m	0.0~0.5 m		
	植被率	10 %	60 %		10 %	40 %		
	優占種	オオシラビソ	エゾヌカボ		オオシラビソ	ノガリヤスsp.		
植物種	和名	被度・群度		和名	被度・群度			
		低木層	草本層		低木層	草本層		
着生植物	低木層	オオシラビソ	1・1	1・1	オオシラビソ	1・1	1・1	
	草本層	エゾヌカボ		2・2	ノガリヤスsp.		2・2	
植生調査区内に根元がある	ミツバオウレン			2・2	ミヤマアオスゲ		1・2	
	マイヅルソウ			1・2	マイヅルソウ		1・2	
	ミヤマアオスゲ			1・2	ミツバオウレン		1・2	
	ミヤマアキノキリンソウ			+	ゴゼンタチバナ		+	
	ハリブキ			+	コガネイチゴ		+	
	セリバオウレン			+	ミヤマアキノキリンソウ		+	
	シラネワラビ			+	シラネワラビ		+	
	コミヤマカタバミ			+	コバノイチヤクソウ		+	
	オサバグサ			+	セリバオウレン		+	
	ミヤマワラビ			+	オサバグサ		+	
				ホソバトウゲシバ		+		
				ヒメゴヨウイチゴ		+		
				コミヤマカタバミ		+		
植生調査区外の特記種	小円：ヤツタカネアザミ、ヒメスゲ 中円：ヒメウスノキ、キタゴヨウ、オオパノヨツバムグラ、ホソイ、スズメノヤリsp. 大円：ミヤマウラジロイチゴ、シナノオトギリ、ベニバナイチヤクソウ、ズダヤクシュ							

種名	H22	H27	R7	種名	H22	H27	R7
トウゲシバ	○	○		ズダヤクシュ			・
ホソバトウゲシバ			○	ゴヨウイチゴ	○	○	
マンネンスギ		・		コガネイチゴ		○	○
ミヤマワラビ	○	○	○	シナノキイチゴ	・		
シラネワラビ	○	○	○	ミヤマウラジロイチゴ		○	・
オオシラビソ	○	○	○	ヒメゴヨウイチゴ			○
シラビソ	○	○		ナナカマド	○		
キタゴヨウ		○	・	ダケカンバ	○	○	
マイヅルソウ	○	○	○	コミヤマカタバミ	○	○	○
ホソイ			・	シナノオトギリ			・
スズメノヤリsp.			・	ゴゼンタチバナ	○	○	○
ハリガネスゲ	○	○		コバノイチヤクソウ	・	・	○
ミヤマアオスゲ	○	○	○	ベニバナイチヤクソウ		○	・
ヒメスゲ			・	ウラジロヨウラク	○		
エゾヌカボ	○	○	○	ヒメウスノキ			・
ノガリヤスsp.			○	オオパノヨツバムグラ	○	○	・
イワノガリヤス	○	○		ヤマハハコ		○	
イネsp.	○	○		ヤツタカネアザミ	・	・	・
オサバグサ	○	○	○	ミヤマアキノキリンソウ	○	○	○
セリバオウレン			○	ハリブキ	○	○	○
ミツバオウレン	○	○	○	イワセントウソウ	○		
				総計	26	28	29

年度	低木層		草本層	
	高さ	植被率	高さ	植被率
H22 小円	0.5~2.0m	20%	0~0.5m	80%
H27 小円	0.5~2.0m	5%	0~0.5m	80%
R7 N区	1.0~2.5m	10%	0~0.5m	60%
R7 S区	1.0~2.5m	10%	0~0.5m	40%

○：低木層及び草本層における今回調査の林床調査区での確認種と、過年度調査での小円部及び中円部での出現種

・：その他のプロット内確認種



森林概況調査

■ 林分の状況

- ・ 老齢段階の天然林
- ・ 保護対象種シラビソの実生、若木を確認
- ・ オオシラビソとシラビソの若木を多数確認

■ 被害状況

- ・ 縞枯れした立木・倒木が多数
- ・ 風害として、根がえり倒木を確認

■ 動物情報

- ・ ニホンジカの剥皮や食痕を多数確認
- ・ 糞、足跡、生体も確認

■ その他

重要種の確認無し（プロット含む）



オオシラビソとシラビソの若木



風害（寝返り倒木）



ニホンジカ（剥皮）



ニホンジカ（生体）

総合評価

調査内容	確認項目		評価	評価内容
森林詳細調査	立木調査	群落	○	オオシラビソを主とした森林の回復が進んでいる。
		保護対象種	×	シラビソの実生・若木の生育は確認されているが、小径木が減少傾向を示している。
	下層植生調査		△	低木層の成長が確認されたが、草本層の植被率の減少がみられた。
	気象害・病虫獣害等の発生状況調査		×	縞枯れの枯死木や倒木が確認された。ニホンジカによるシラビソとオオシラビソへの剥皮を多く確認され、食痕も確認され、植生被害レベル2と判断した。
森林概況調査	気象害・病虫獣害等の発生状況調査		×	縞枯れの他、単木的な根がえり倒木が確認された。ニホンジカの剥皮や食痕が多数確認された。
	重要種の確認		○	確認なし。
資料調査			○	学術論文や報告書等5資料が確認され、登山ツアー等の実施も確認された。
聞き取り調査			○	【南信森林管理署】ニホンジカ対策に関する協議会を中心に各関係機関と連携して、対策を実施していく。
考察及び総合評価			要対策	オオシラビソを主とした縞枯れ現象からの回復が進んでいるが、保護対象種のシラビソが減少している。ニホンジカによる剥皮被害が大きく、下層植生への食害も確認され、ニホンジカが森林回復に影響を与えていると考えられることから、対策の検討が求められる。

【個別項目の評価】

- ：前回と比較して大きな変化なし。または問題なし。
 - △：前回と比較して大きな変化または問題が確認された。
 - ×
- ×：前回と比較して重大な変化または問題が確認され、対策の検討が必要である。

【総合評価】

- 健全：保護林の健全性が保たれていた。
- 要注意：一部で問題が確認された。
- 要対策：重大な変化または問題が確認され、対策の検討が必要である。

豊口山シダ希少個体群保護林

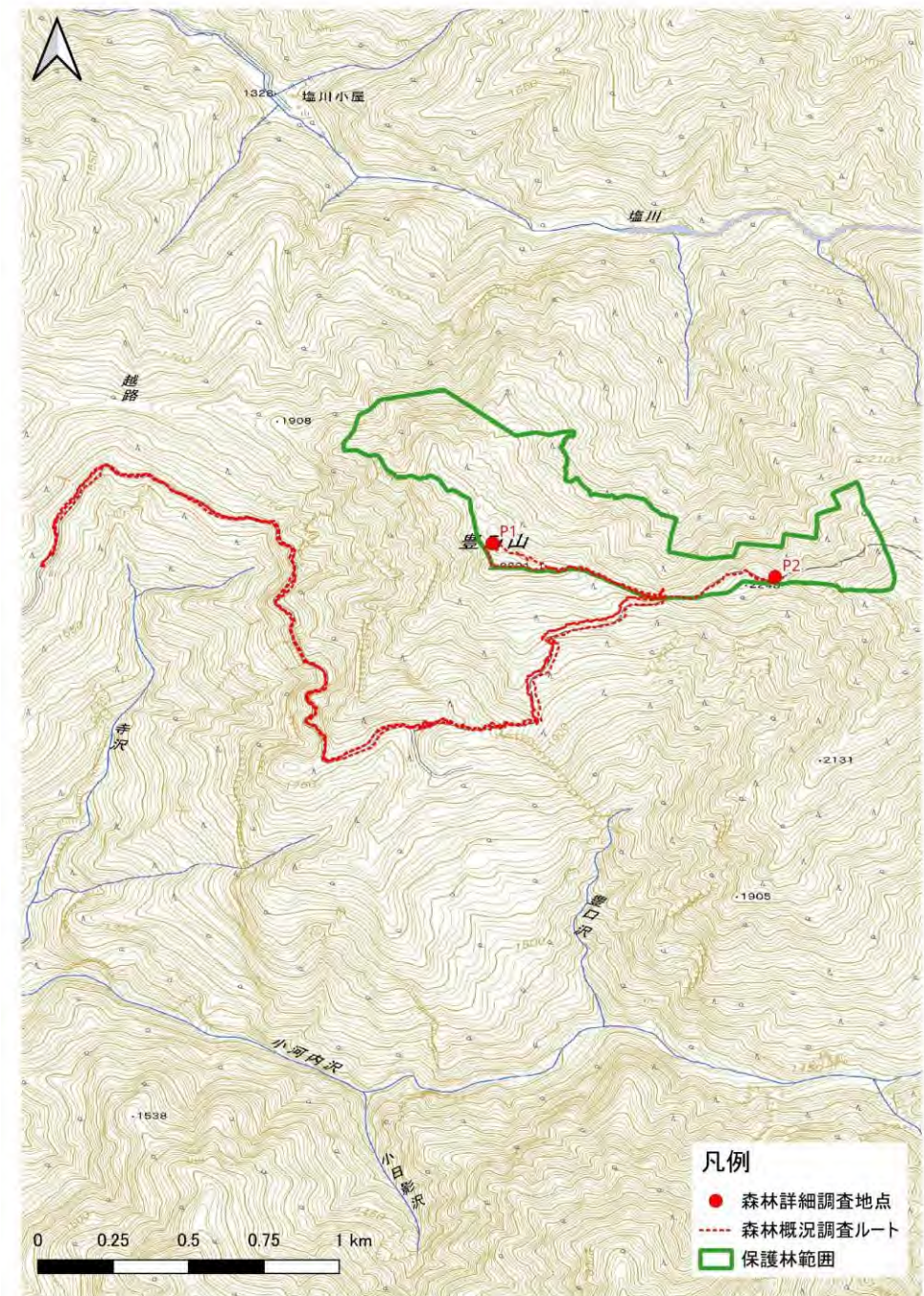
(ニホンジカの課題あり)

■位置

長野県下伊那郡大鹿村

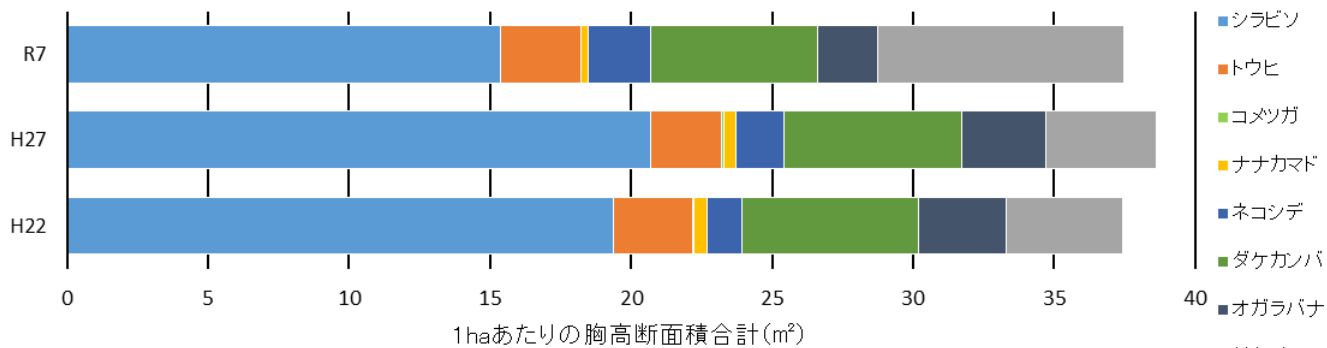
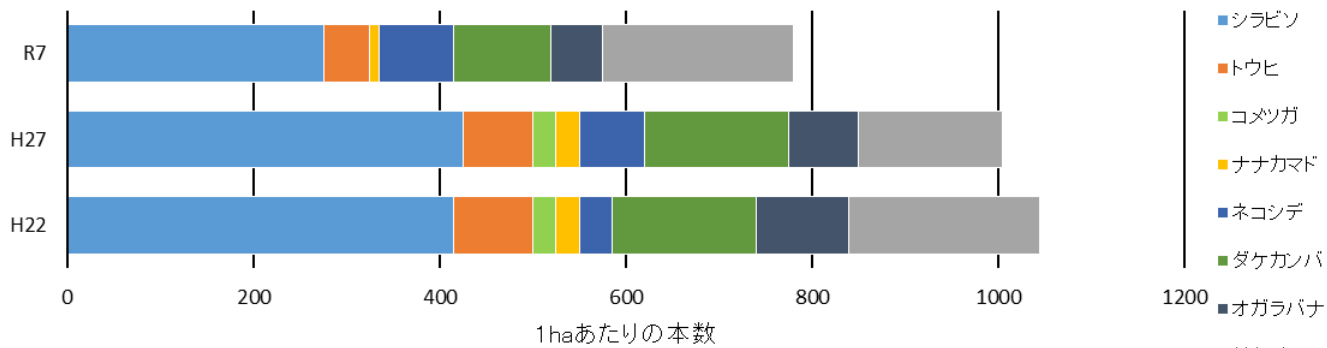
■設定目的

豊口山（2231m）周辺の石灰岩地帯に分布する、特殊な植生であるトヨグチイノデ等のシダ類の保護を目的とする。



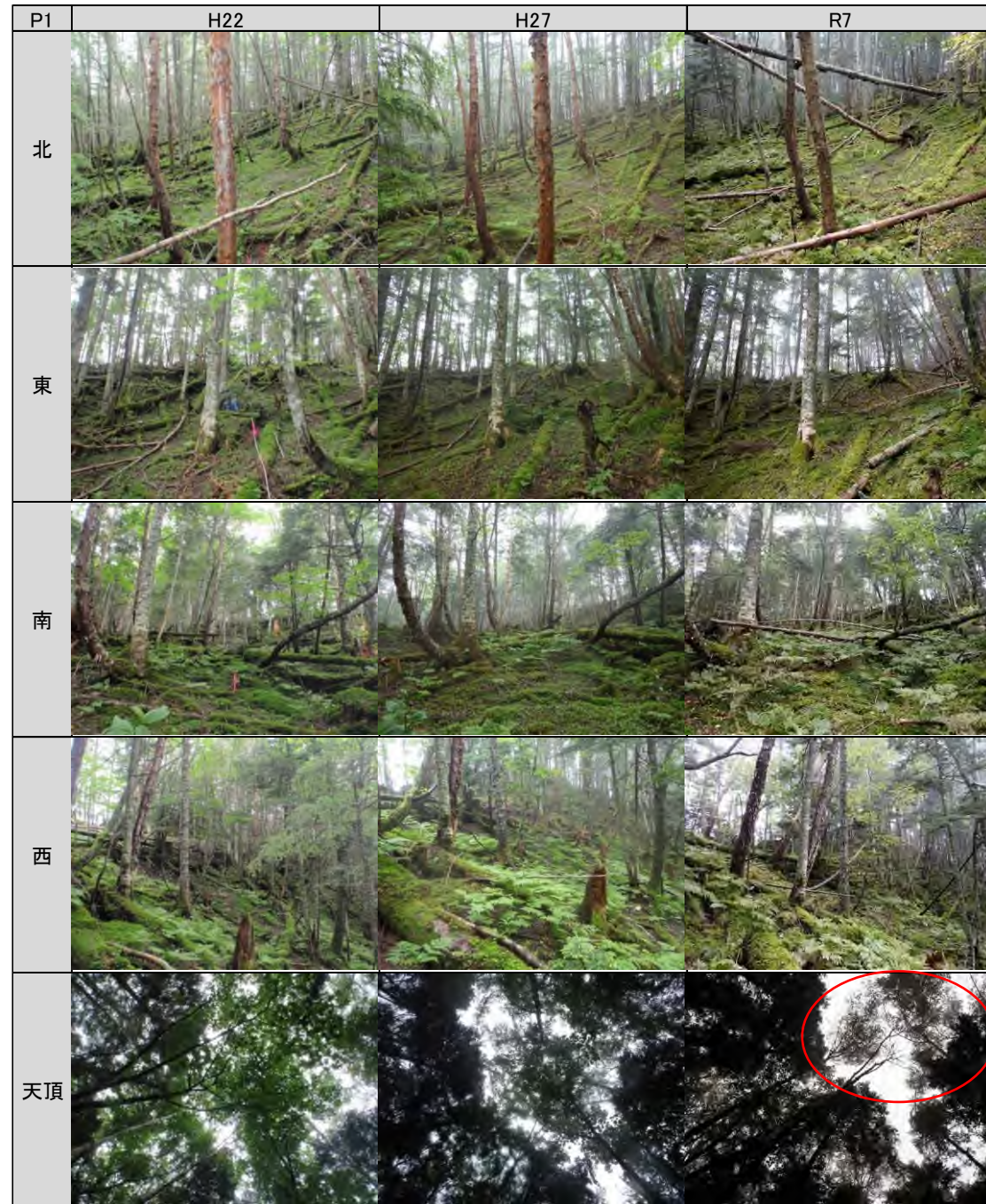
森林詳細調査

プロット1



樹種	1haあたり本数				1haあたり断面積(m ²)				剥皮率		
	H22	H27	R7	増加率	H22	H27	R7	増加率	H22	H27	R7
シラビソ	415	425	275	-35%	19.36	20.68	15.37	-26%	13%	6%	9%
トウヒ	85	75	50	-33%	2.82	2.55	2.85	12%	0%	0%	0%
コメツガ	25	25	0	-100%	0.05	0.05	0.00	-100%	0%	0%	0%
ナナカマド	25	25	10	-60%	0.46	0.45	0.27	-39%	100%	100%	0%
ネコシデ	35	70	80	14%	1.23	1.68	2.22	32%	0%	0%	0%
ダケカンバ	155	155	105	-32%	6.27	6.34	5.88	-7%	0%	0%	0%
オガラバナ	100	75	55	-27%	3.11	2.95	2.13	-28%	43%	33%	0%
枯損木	205	155	205	32%	4.15	3.94	8.76	122%	-	-	-
合計(枯損木除く)	840	850	575	-32%	33.30	34.70	28.73	-17%	13%	8%	4%

25%を超える増加率 25%を超える減少率 ※ 新規に確認された樹種



森林詳細調査（下層植生）

プロット1

林床調査区	N 区				S 区				
	階層		低木層		草本層		低木層		草本層
下層植生	高さ	-	m	0.0~0.6	m	-	m	0.0~0.8	m
	植被率	-	%	30	%	-	%	70	%
	優占種	-		コミヤマカタバミ		-		シラネワラビ	
	植物種	和名	被度・群度		和名	被度・群度			
			低木層	草本層		低木層	草本層		
	低木層	コミヤマカタバミ		2・3	シラネワラビ		4・4		
	草本層	シラネワラビ		1・1	コミヤマカタバミ		1・2		
	着生植物	キオン		1・1	ミヤマタニタデ		+		
		オガラバナ		+	オガラバナ		+		
	植生調査区内に根元がある	ミヤマタニタデ		+	イワセントウソウ		+		
イワセントウソウ			+	キオン		+			
シナノキイチゴ			+	ズダヤクシュ		+			
オオバミネカエデ			+	オクヤマコウモリ		+			
				タニギキョウ		+			
				シロバナノヘビイチゴ		+			
植生調査区外の特記種	小円：シラビソ、ミズ、バイケイソウ								
	中円：エゾノヨツバムグラ、ミヤマワラビ、ナナカマド、クロクモソウ、コメツガ								
大円：トウヒ、オサバグサ、スゲsp.、シノブカグマ、イワガネゼンマイ、ヒメノガリヤス									

種名	H22	H27	R7	種名	H22	H27	R7
イワガネゼンマイ	○	○	・	シロバナノヘビイチゴ			○
ミヤマワラビ	○	○	・	ゴヨウイチゴ	・	○	
ミヤマシダ	○			シナノキイチゴ	・	○	○
シノブカグマ	○	○	・	ナナカマド	○	・	・
オシダ	・	・		ネコシデ	○		
シラネワラビ	○	○	○	コミヤマカタバミ	○	○	○
オオシラビソ	○			ミヤマタニタデ	○	○	○
シラビソ	○	○	・	オオバミネカエデ	○	○	○
トウヒ	○	○	・	オガラバナ		○	○
コメツガ	○	○	・	ギンリョウソウ		・	
エンレイソウsp.	○			クルマムグラ		○	
バイケイソウ	○	○	・	エゾノヨツバムグラ	○	○	・
ヒメタケシマラン		○		タニギキョウ	○	○	○
マイヅルソウ	○	○		カニコウモリ		○	
スゲsp.	○	・	・	オクヤマコウモリ	○	○	○
ヒメノガリヤス			・	ヤマタイミンガサ	・	○	
オサバグサ	・	○	・	キオン	○	○	○
サラシナショウマ	○	○		ハリブキ	○		
ツルネコノメソウ	○	○		ミヤマセンキュウ	○	○	
クロクモソウ	・	○	・	イワセントウソウ	○	○	○
ズダヤクシュ	○	○	○	ニワトコ			○
ミズ			・	総数	34	34	27

年度	低木層		草本層	
	高さ	植被率	高さ	植被率
H22 小円	1.0~3.0m	5%	0~0.5m	30%
H27 小円	1.0~3.0m	5%	0~0.5m	20%
R7 N区	-	-	0~0.6m	30%
R7 S区	-	-	0~0.8m	70%

○：低木層及び草本層における今回調査の林床調査区での確認種と、過年度調査での小円部及び中円部での出現種
 ・：その他のプロット内確認種



平成27年度

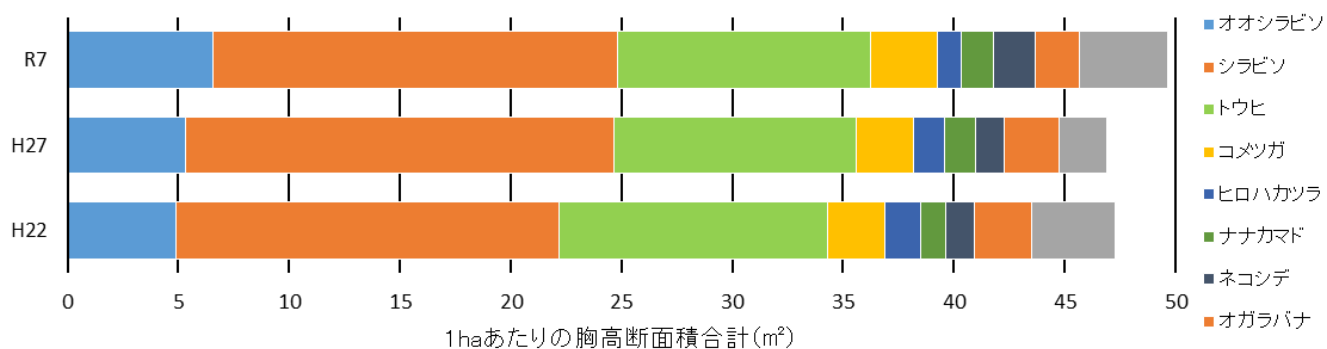
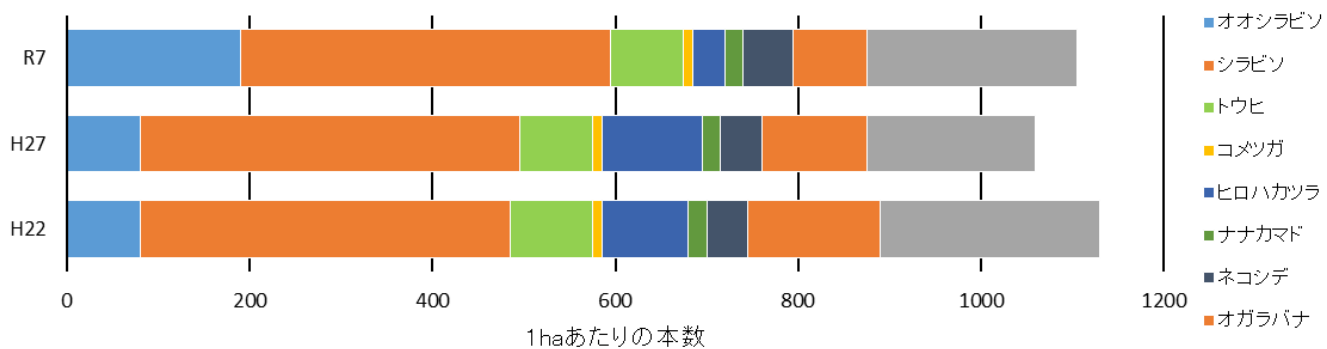


令和7年度

シラネワラビの増加

森林詳細調査

プロット2

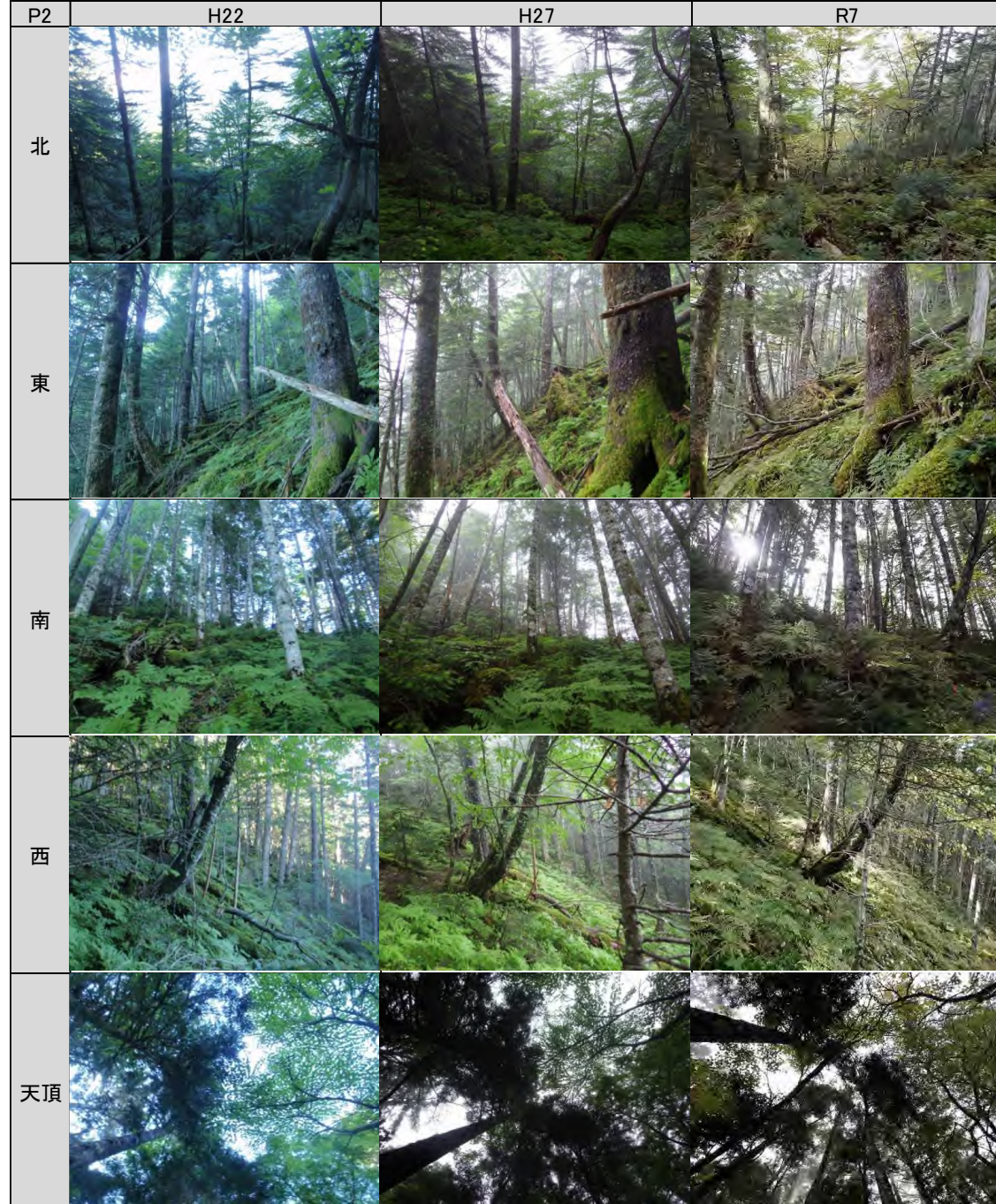


樹種	1haあたり本数				1haあたり断面積(m ²)				剥皮率		
	H22	H27	R7	増加率	H22	H27	R7	増加率	H22	H27	R7
オオシラビソ	80	80	190	138%	4.91	5.34	6.57	23%	0%	0%	10%
シラビソ	405	415	405	-2%	17.28	19.33	18.27	-5%	4%	4%	0%
トウヒ	90	80	80	0%	12.13	10.93	11.41	4%	0%	0%	0%
コメツガ	10	10	10	0%	2.59	2.56	3.01	18%	0%	0%	0%
ヒロハカツラ	95	110	35	-68%	1.61	1.44	1.06	-27%	0%	0%	0%
ナナカマド	20	20	20	0%	1.12	1.36	1.47	8%	0%	0%	0%
ネコシデ	45	45	55	22%	1.30	1.31	1.91	46%	0%	0%	0%
オガラバナ	145	115	80	-30%	2.55	2.49	1.94	-22%	29%	0%	0%
枯損木	240	185	230	24%	3.78	2.13	4.02	89%	-	-	-
合計(枯損木除く)	890	875	875	0%	43.49	44.76	45.64	2%	5%	2%	2%

25%を超える増加率

25%を超える減少率

※ 新規に確認された樹種



森林詳細調査 (下層植生)

プロット2

林床調査区		N 区				S 区			
下層植生	階層	低木層		草本層		低木層		草本層	
	高さ	-	m	0.0~0.8	m	-	m	0.0~0.8	m
優占種	植物種	-		シラネワラビ		-		シラネワラビ	
	和名	被度・群度		被度・群度		和名		被度・群度	
低木層	草本層	低木層		草本層		低木層		草本層	
		シラネワラビ		4・4		シラネワラビ		3・3	
着生植物	着生植物	オサバグサ		1・2		シラビソ		2・2	
		コミヤマカタバミ		1・2		コミヤマカタバミ		1・2	
植生調査区内に根元がある	着生植物	トウヒ		1・1		コメツガ		1・1	
		ミヤマタニタデ		+・2		マイヅルソウ		+・2	
		ズダヤクシュ		+・2		カニコウモリ		+・2	
		カニコウモリ		+・2		オサバグサ		+・2	
		ヒメノガリヤス		+・2		ヒメタケシマラン		+	
		サラシナショウマ		+		イワセントウソウ		+	
		オオバミネカエデ		+		オオバミネカエデ		+	
		ミヤマワラビ		+		ミヤマアキノキリンソウ		+	
		ナナカマド		+		ミヤマタニタデ		+	
		ツバメオモト		+		ゴゼンタチバナ		+	
		ミヤマアキノキリンソウ		+		ナナカマド		+	
		コハリスゲ		+		ヤマタイミンガサ		+	
ショウジョウバカマ		+		オガラバナ		+			
タニギキョウ		+		ズダヤクシュ		+			
イワセントウソウ		+		トウヒ		+			
				ヒメノガリヤス		+			
植生調査区外の特記種	小円: ネコシデ、シナノキイチゴ、タケシマラン、クロクモソウ、オオシラビソ、ニワトコ								
	中円: ヤグルマソウ、ヒロハコンロンソウ、ヒロハノツリバナ、コヨウラクツツジ、ミヤマタニタデ								
大円: ハリギリ、エゾノヨツバムグラ、オシダ、キオン、シノブカグマ、アズマレイジンソウ、ヒロハユキザサ、オクヤマコウモリ、スルガヒョウタンボク、カイタカラコウ、セリバシオガマ、エンレイソウsp.、ネコノメソウsp.、ホソイノデ、シロバナノヘビイチゴ、ミヤマシダ、									

種名	H22	H27	R7	種名	H22	H27	R7
ミヤマワラビ	○	○	○	ヤグルマソウ			・
ミヤマメシダ	・	・	・	ズダヤクシュ	○	○	○
ミヤマシダ		○	・	シロバナノヘビイチゴ			・
シノブカグマ	○	○	・	ゴヨウイチゴ	○	○	
オシダ			・	シナノキイチゴ			・
シラネワラビ	○	○	○	ナナカマド	○		○
ホソイノデ			・	ネコシデ	○	○	・
トヨグチイノデ	・			ヒロハノツリバナ	○	○	・
オオシラビソ	○	○	・	コミヤマカタバミ	○	○	○
シラビソ	○	○	○	ミヤマタニタデ	○	○	○
トウヒ	○	○	○	オオバミネカエデ	○	○	○
コメツガ	○	○	○	オガラバナ			○
ショウジョウバカマ			○	ヒロハコンロンソウ	○	○	・
エンレイソウsp.	・	・	・	ゴゼンタチバナ	○	○	○
バイケイソウ	・	・		ミヤマタニタデ			・
ツバメオモト			○	コヨウラクツツジ	・	・	・
タケシマラン	・		・	クルマムグラ	・	○	
ヒメタケシマラン	○	○	○	エゾノヨツバムグラ	○	○	・
コイチヨウラン	・	・		セリバシオガマ			・
ヒトツバキソチドリ	・	・		タニギキョウ			○
マイヅルソウ	○	○	○	アザミsp.	・	○	
ヒロハユキザサ			・	カイタカラコウ			・
スゲsp.	○	○		カニコウモリ	○	○	○
コハリスゲ			○	オクヤマコウモリ			・
ヒメノガリヤス	○	○	○	ヤマタイミンガサ	○	○	○
オサバグサ	○	○	○	キオン	○	・	・
アズマレイジンソウ	・	・	・	ミヤマアキノキリンソウ	○	・	○
サラシナショウマ	○	○	○	ハリギリ			・
ミヤマカラマツ	・			ハリブキ	・	・	
ヒロハカツラ	○	○		イワセントウソウ	○	○	○
ネコノメソウsp.			・	ニワトコ	○	○	・
クロクモソウ	○	○	・	総計	46	43	53

年度	低木層		草本層	
	高さ	植被率	高さ	植被率
H22 小円	0.6~5.0m	30%	0~0.6m	70%
H27 小円	0.6~5.0m	20%	0~0.6m	90%
R7 N区	-	-	0~0.8m	70%
R7 S区	-	-	0~0.8m	80%

○: 低木層及び草本層における今回調査の林床調査区での確認種と、過年度調査での小円部及び中円部での出現種
 ・: その他のプロット内確認種



森林概況調査

■ 林分の状況

- ・ 老齢段階の天然林
- ・ 保護対象種のトヨグチイノデは平成27年度調査から未確認

■ 被害状況

- ・ 風害として、根がえり倒木を確認

■ 動物情報

- ・ ニホンジカの剥皮や食痕、糞、生体、鳴き声を確認
- 登山道沿いに食痕、尾根部に剥皮を多数確認

■ その他

以下の重要種を確認（プロット含む）



ホソイノデ



風害（寝返り倒木）



登山道沿いのシカ食痕



尾根上のシカ剥皮

総合評価

調査内容	確認項目		評価	評価内容
森林詳細調査	立木調査	群落	△	プロット 1 では小径木～中径木の一部で減少がみられ、風害やシカ害の影響が考えられる。プロット 2 は大きな変化は確認されなかった。
		保護対象種	△	トヨグチイノデは確認されなかった
	下層植生調査		×	過年度から採食植物が減少し、不嗜好性植物のシラネワラビの増加が確認されており、本年度も採食植物の減少や消失、シラネワラビの増加が確認された。
	気象害・病虫獣害等の発生状況調査		×	風害による小ギャップの形成が確認された。ニホンジカによる剥皮や食痕が確認され、不嗜好性植物のシラネワラビが増加していることから植生被害レベル 2 と判断した。
森林概況調査	気象害・病虫獣害等の発生状況調査		△	風害として根がえり倒木が確認された。ニホンジカの生体や鳴き声が確認され、登山道沿いに食痕、尾根部に剥皮が多数確認された。
	重要種の確認		○	が確認された。
資料調査			○	学術論文や報告書等 5 資料が確認され、登山ツアー等の実施も確認された。
聞き取り調査			○	【南信森林管理署】 南アルプスの一部として、ニホンジカ対策に関する協議会を中心に各関係機関と連携して、対策を実施していく。
考察及び総合評価			要 対策	過年度より採食植物の減少と不嗜好性植物のシラネワラビの増加が確認されており、本年度調査でも同様の状況が確認された。 小径木～中径木の減少や剥皮被害が確認されていることから、後継樹となる樹木の成長への影響が懸念される。 南アルプス全体で関係機関と連携した対策が実施されているので、本保護林においても対策の検討が求められる。

【個別項目の評価】

- ：前回と比較して大きな変化なし。または問題なし。
 - △：前回と比較して大きな変化または問題が確認された。
 - ×
- ×：前回と比較して重大な変化または問題が確認され、対策の検討が必要である。

【総合評価】

- 健全：保護林の健全性が保たれていた。
- 要注意：一部で問題が確認された。
- 要対策：重大な変化または問題が確認され、対策の検討が必要である。

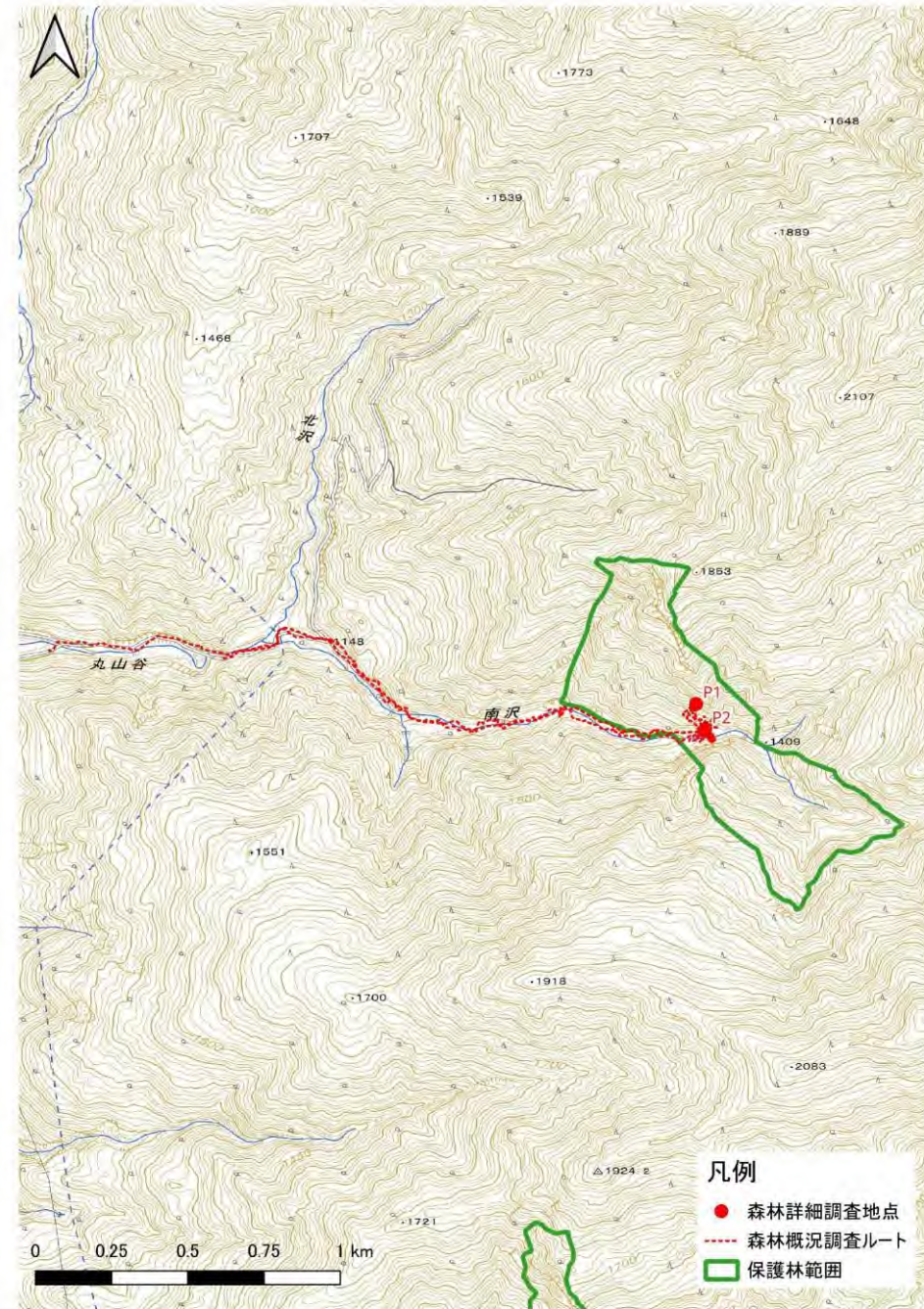
丸山谷希少個体群保護林

■位置

長野県伊那市

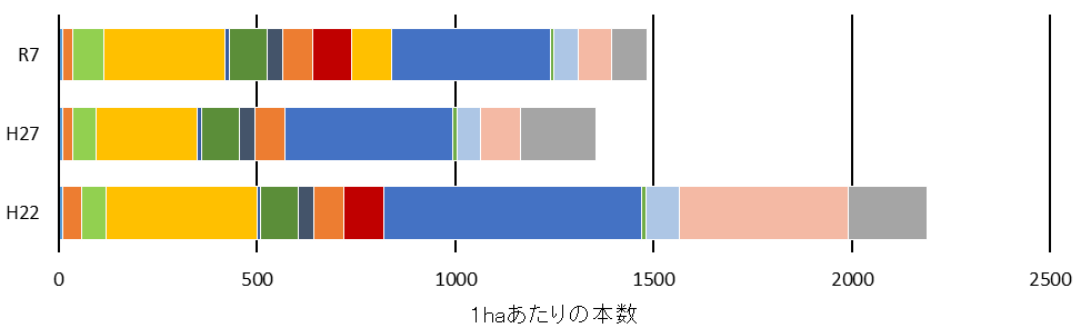
■設定目的

三峰川水系の支流の丸山谷北沢及び南沢に石灰岩の層が延びており、この地域に生育するヤツガタケトウヒ・ヒメバラモミ等の保護を目的とする。

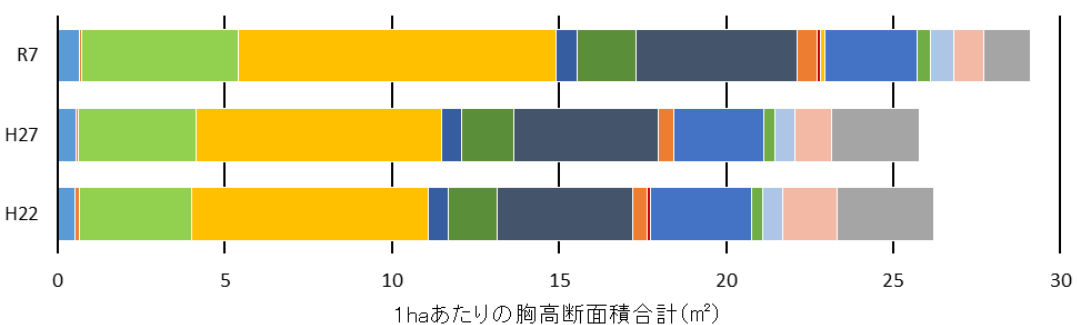


森林詳細調査

プロット1



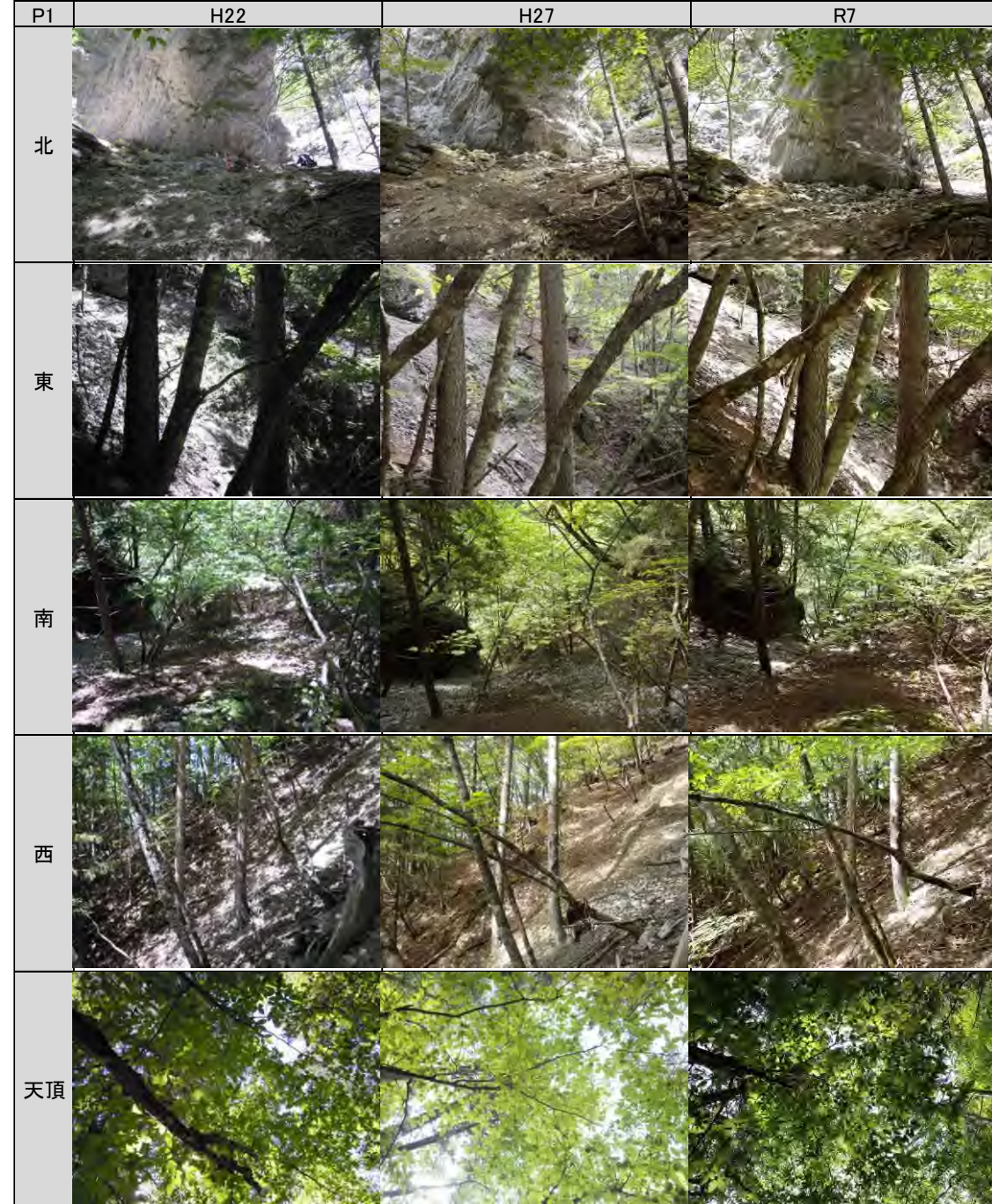
- ウラジロモミ
- チョウセンゴヨウ
- ヒメコマツ
- ツガ
- ネズミサシ
- ネズコ
- フサザクラ
- ケヤキ
- サウシバ
- クマシデ
- アサダ
- イタヤカエデ
- ケアオダモ
- 枯損木



- ウラジロモミ
- チョウセンゴヨウ
- ヒメコマツ
- ツガ
- ネズミサシ
- ネズコ
- フサザクラ
- ケヤキ
- サウシバ
- クマシデ
- アサダ
- イタヤカエデ
- ケアオダモ
- 枯損木

樹種	1haあたり本数				1haあたり断面積(m ²)				剥皮率		
	H22	H27	R7	増加率	H22	H27	R7	増加率	H22	H27	R7
ウラジロモミ	10	10	10	0%	0.52	0.55	0.63	14%	0%	0%	0%
チョウセンゴヨウ	50	25	25	0%	0.13	0.07	0.08	7%	0%	0%	0%
ヒメコマツ	60	60	80	33%	3.36	3.50	4.69	34%	0%	0%	0%
ツガ	10	10	10	0%	0.60	0.62	0.63	3%	0%	0%	0%
ネズミサシ	95	95	95	0%	1.46	1.56	1.77	14%	0%	0%	0%
ネズコ	40	40	40	0%	4.05	4.31	4.81	12%	0%	0%	0%
フサザクラ	75	75	75	0%	0.43	0.48	0.63	29%	0%	0%	0%
ケヤキ	100	0	100	※	0.11	0.00	0.10	※	0%	0%	0%
サウシバ	0	0	100	※	0.00	0.00	0.11	※	0%	0%	0%
クマシデ	650	425	400	-6%	3.02	2.67	2.76	3%	0%	24%	0%
アサダ	10	10	10	0%	0.35	0.36	0.42	18%	0%	0%	0%
イタヤカエデ	85	60	60	0%	0.60	0.60	0.69	16%	0%	0%	0%
ケアオダモ	425	100	85	-15%	1.60	1.07	0.90	-16%	0%	0%	0%
枯損木	200	190	90	-53%	2.89	2.64	1.39	-47%	-	-	-
合計(枯損木除く)	1990	1165	1395	20%	23.31	23.14	27.72	20%	0%	7%	0%

25%を超える増加率 25%を超える減少率 ※ 新規に確認された樹種



森林詳細調査 (下層植生)

プロット1

林床調査区	E 区				W 区				
	階層		低木層		草本層		低木層		草本層
下層植生	高さ	-	m	0.0~0.3	m	1.0~3.5	m	0.0~0.3	m
	植被率	-	%	20	%	30	%	2	%
優占種	-		オウレンシダ		フサザクラ		ヤマカシユウ		
植物種	和名	被度・群度		和名	被度・群度				
		低木層	草本層		低木層	草本層			
低木層	オウレンシダ		2・2	フサザクラ		2・2	+		
草本層	スゲsp.		1・2	クマシデ		1・1	+		
着生植物	イワギボウシ		++	ヤマカシユウ			+		
				ケアオダモ			+		
植生調査区内に根元がある	イネsp.		++	ミズナラ			+		
	イワシモツケ		+	シナノキ			+		
	オオカラマツ		+	コハウチワカエデ			+		
	ウツギ		+	アキノキリンソウ			+		
	イケマ		+	イワギボウシ			+		
	ツルデンダ		+	チョウセンゴヨウ			+		
	トガクシデンダ		+	オウレンシダ			+		
	キジムシロ		+	ウツギ			+		
				スゲsp.			+		
	マイヅルソウ		+	コミネカエデ			+		
	ダイモンジソウ		+	キバナイカリソウ			+		
	クサボタン		+	ヤマホタルブクロ			+		
クマヤナギ		+	ツルウメモドキ			+			
カワラウスユキソウ		+	タチツボスミレ			+			
			マルバサンキライ			+			
植生調査区外の特記種	小円:	クサコアカソ、ヤクシソウ、ミヤマキンバイ、ヒロハヘビノボラズ、ツルキンバイ、 ホソバシロソウ、バйкаウツギ、ミヤママタタビ							
	中円:	ノガリヤスsp.、イワウサギシダ、ヒメマイヅルソウ、チョウ ジザクラ							
大円:	ダンコウバイ、ウメガサソウ、ヤマツツジ、ミツバツツジsp.、イ ワインチン								

種名	H22	H27	R7
オウレンシダ	○	○	○
イチョウシダ	○	○	・
イワウサギシダ	○	○	・
トガクシデンダ	○	○	○
ツルデンダ	○	○	○
ウラジロモミ	・		
チョウセンゴヨウ	○	○	○
ツガ	・		
ヒメコマツ	・		
ダンコウバイ			・
ホソバシロソウ			・
マルバサンキライ	○	○	○
ヤマカシユウ	○	○	○
コオニユリ	○		
ミヤマモジズリ	○		
イワギボウシ	○	○	○
ヒメマイヅルソウ			・
マイヅルソウ		○	○
スゲsp.			○
スゲsp.1	○	○	
スゲsp.2	○	○	
イネsp.		○	○
ノガリヤスsp.			・
フサザクラ	○	○	○
キバナイカリソウ	○	○	○
ヒロハヘビノボラズ		○	・
オオカラマツ	○	○	○
クサボタン	○	○	○
ダイモンジソウ		○	○
キリンソウ	○	○	
ヤマブドウ		○	
イヌエンジュ	○	・	
キハギ	○		
イワシモツケ		○	○
キジムシロ		○	○
タカネバラ	○		
チョウジザクラ	○		・
ツルキンバイ			・
ミヤマキンバイ			・

種名	H22	H27	R7
クマヤナギ	○	○	○
クロカンバ	・		
クサコアカソ	○	○	・
ミズナラ		・	○
アサダ	・		
クマシデ			○
サワシバ	○	○	
ツリバナ	○	○	
ツルウメモドキ	○		○
ヒメナツトウダイ	○	○	○
タチツボスミレ	○	○	○
イタヤカエデ		・	
オオモミジ		○	
コハウチワカエデ			○
コミネカエデ			○
シナノキ		○	○
イタドリ	○	○	
ウツギ	○	○	○
バйкаウツギ	○	○	・
ミヤママタタビ			・
ウメガサソウ	○	○	・
ダイセンミツバツツジ		・	
ネジキ	・		
ミツバツツジsp.			・
ヤマツツジ			・
イケマ			○
ケアオダモ	○	○	○
ヤマホタルブクロ	○	○	○
アキノキリンソウ			○
アキハギク	○	○	
イワインチン	○	○	・
カワラウスユキソウ	○	○	○
シオンsp.		・	
トダイハハコ	○	○	○
ヤクシソウ	○	○	・
オトコヨウゾメ		・	
ハリギリ	○	・	
総数	49	52	54

年度	低木層		草本層	
	高さ	植被率	高さ	植被率
H22 小円	0.5~3.0m	10%	0~0.3m	10%
H27 小円	0.5~3.0m	20%	0~0.3m	5%
R7 E区	-	-	0~0.3m	20%
R7 W区	1.0~3.5m	30%	0~0.3m	2%

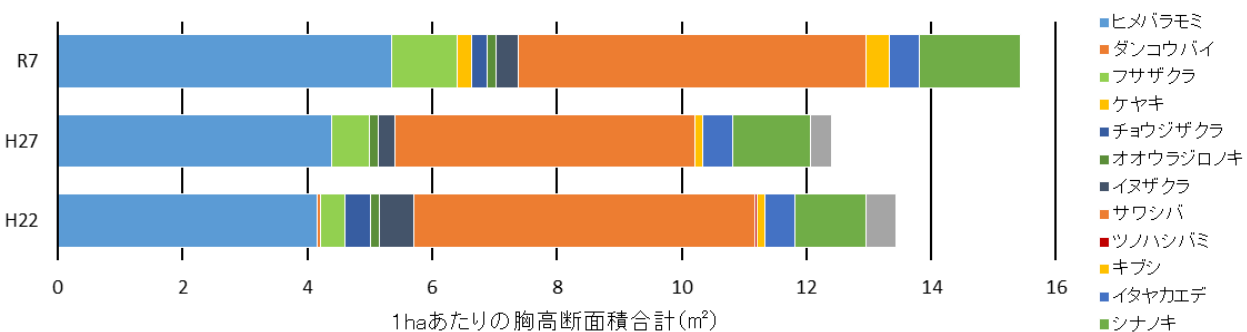
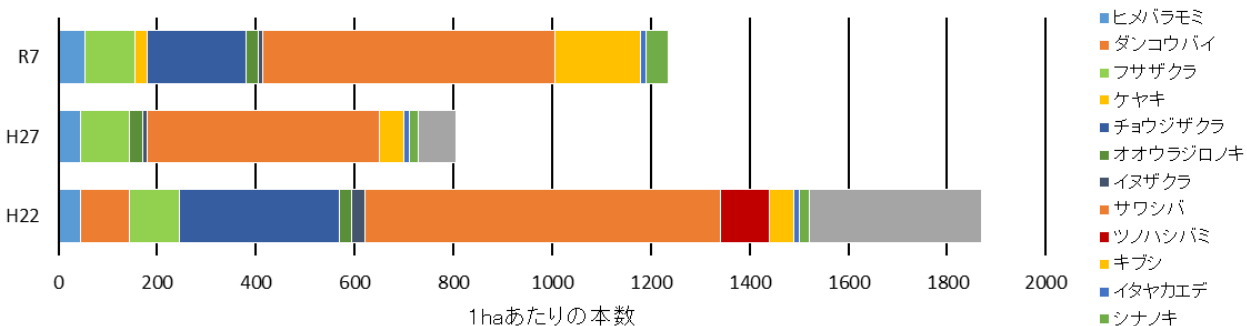
○: 低木層及び草本層における今回調査の林床調査区での確認種と、過年度調査での小円部及び中円部での出現種

・: その他のプロット内確認種



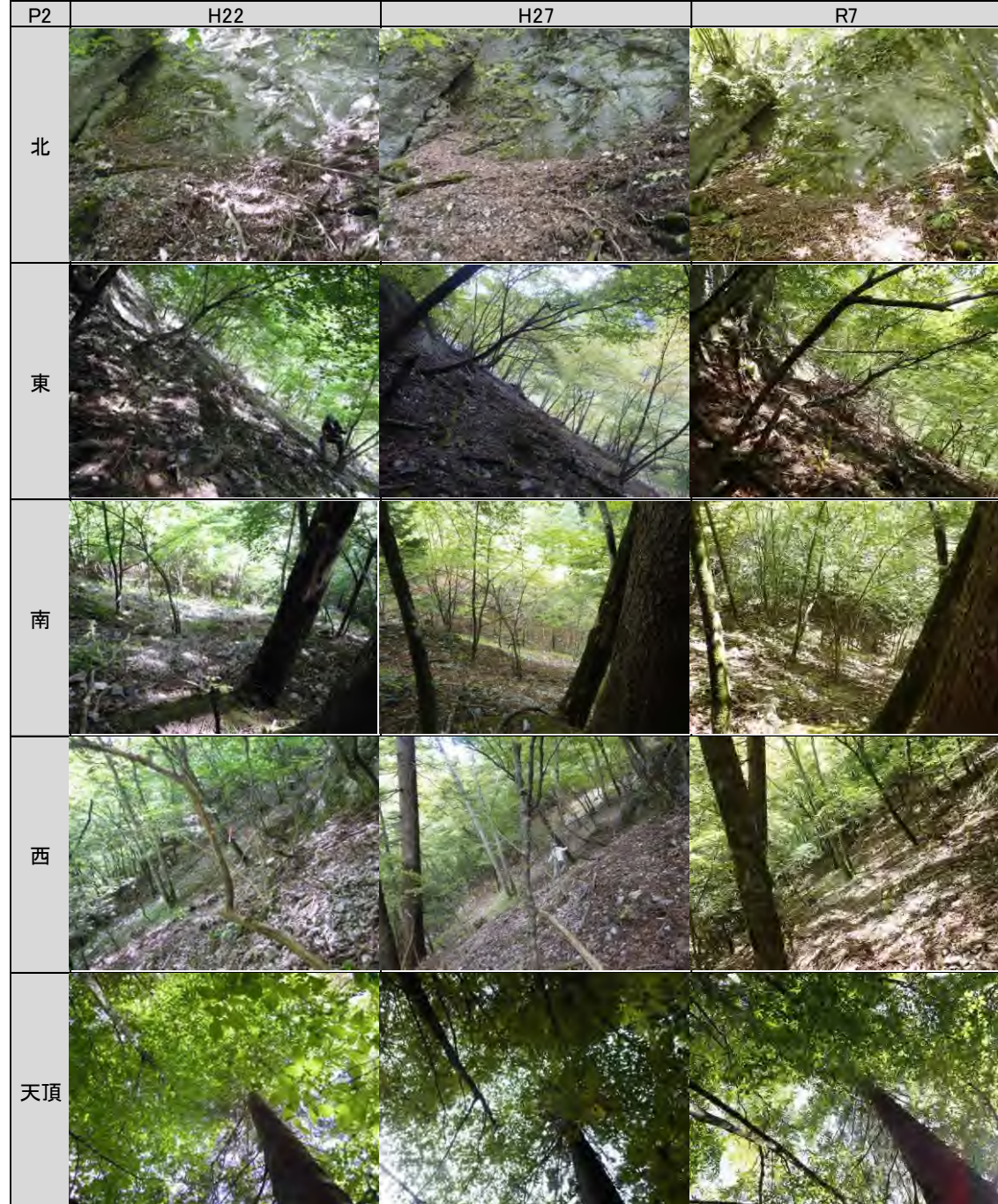
森林詳細調査

プロット2



樹種	1haあたり本数				1haあたり断面積 (m ²)				剥皮率		
	H22	H27	R7	増加率	H22	H27	R7	増加率	H22	H27	R7
ダンコウバイ	100	0	0	0%	0.05	0.00	0.00	0%	0%	0%	0%
フサザクラ	100	100	100	0%	0.40	0.60	1.06	75%	0%	0%	0%
ケヤキ	0	0	25	※	0.00	0.00	0.24	※	0%	0%	0%
チョウジザクラ	325	0	200	※	0.40	0.00	0.23	※	0%	0%	0%
オオウラジロノキ	25	25	25	0%	0.15	0.15	0.15	0%	0%	0%	0%
イヌザクラ	25	10	10	0%	0.55	0.27	0.35	31%	0%	0%	0%
サワシバ	720	470	590	26%	5.46	4.80	5.58	16%	0%	5%	0%
ツノハシバミ	100	0	0	0%	0.04	0.00	0.00	0%	0%	0%	0%
キブシ	50	50	175	250%	0.13	0.12	0.37	199%	0%	0%	0%
イタヤカエデ	10	10	10	0%	0.49	0.48	0.48	-1%	0%	0%	0%
シナノキ	20	20	45	125%	1.14	1.24	1.63	31%	0%	0%	0%
枯損木	350	75	0	-100%	0.48	0.33	0.00	-100%	-	-	-
合計(枯損木除く)	1520	730	1235	69%	12.96	12.06	15.43	28%	0%	3%	0%

25%を超える増加率 25%を超える減少率 ※ 新規に確認された樹種



森林詳細調査 (下層植生)

プロット2

林床調査区	E 区				W 区				
	階層		低木層		草本層		低木層		草本層
下層植生	高さ	1.0~2.5	m	0.0~0.3	m	1.0~3.0	m	0.0~0.3	m
	植被率	30	%	5	%	10	%	10	%
	優占種	キブシ		オウレンシダ		ケアオダモ		オウレンシダ	
	植物種	和名		被度・群度		和名		被度・群度	
				低木層	草本層			低木層	草本層
	低木層	キブシ		3・3	+	ケアオダモ		1・1	+
		草本層		オウレンシダ		1・1	オウレンシダ		1・2
	着生植物	ヒナスミレ		++2		ヒトリシズカ		1・1	
		ツルウメドキ		+		ヒナスミレ		++2	
	植生調査区内に根元がある	ヒトリシズカ		+		サナギイチゴ		+	
クサボタン		+		キバナイカリソウ		+			
[黒塗り]		+		クマシデ		+			
サルナシ		+		クマノミズキ		+			
ヒロハヘビノボラズ		+		クマヤナギ		+			
ダンコウバイ		+		ダンコウバイ		+			
キバナイカリソウ		+		ヤマカシュウ		+			
ツリバナ		+		クロカンバ		+			
アサダ		+							
アキハギク		+							
植生調査区外の特記種	小円: ミヤマモジズリ、ナガオノキシノブ								
	中円: ウラベニダイモンジソウ、イワウサギシダ、ヤマブキ、ツルマサキ、オオタチツボスミレ、ハリギリ、ヤクシソウ、クモノスシダ、ツルデンダ、マルバサンキライ、バイカウツギ、オヤマボクチ、イケマ、キジムシロ、ミヤマナルコユリ、[黒塗り]、イワギボウシ、ヤマブドウ								
	大円: [黒塗り]、キリンソウ、ヤブニンジン								

種名	H22	H27	R7	種名	H22	H27	R7
オウレンシダ	○	○	○	クマヤナギ	○		○
クモノスシダ			・	クロカンバ	○	○	○
イワウサギシダ	○	○	・	ケヤキ	・	○	
ツルデンダ		○	・	クサコアカソ	○	○	○
ナガオノキシノブ	○	○	・	アサダ			○
ウラジロモミ	○			クマシデ	・	○	○
チョウセンゴヨウ	○			サワシバ	○	○	
ヒメコマツ		○		ツノハシバミ	○	○	
[黒塗り]				ツリバナ		○	○
ヒトリシズカ	○	○	○	ツルウメドキ			○
ダンコウバイ	○	○	○	ツルマサキ			・
マルバサンキライ	○	○	・	ヒメナツトウダイ	○	・	
ヤマカシュウ	○	○	○	オオタチツボスミレ			・
ヒメタケシマラン		○		タチツボスミレ	○	○	
ホトギスsp.		○		ヒナスミレ	○	○	○
ヒメミヤマウズラ		○		オオモミジ	○	○	
[黒塗り]				シナノキ	・	・	
ミヤマモジズリ		○	・	[黒塗り]			
イワギボウシ	○	○	・	ツクバネ	・		
マイヅルソウ		○		イタドリ		○	
ミヤマナルコユリ		○	・	クマノミズキ			○
スゲsp.	○	○		ウツギ	○	○	
イネsp.		○		バイカウツギ	○	○	・
ススキ	○			サルナシ	・	○	○
フサザクラ	○	○		ミヤママタビ	○	○	
キバナイカリソウ	○	○	○	リョウブ		○	
ヒロハヘビノボラズ	○	○	○	ウメガサソウ	○	・	
メギ		○		[黒塗り]			
クサボタン	○	○	○	イケマ	○	○	・
トリガタハンショウヅル	・			テイカカズラ		○	
ザリコミ		○		オニルリソウ	・		
アカショウマ		○		ケアオダモ	○	○	○
ウラベニダイモンジソウ			・	[黒塗り]			
ダイモンジソウ		○		ヤマホタルブクロ	○		○
キリンソウ	○		・	アキノキリンソウ		○	○
ヤマブドウ		○	・	アキハギク	○	○	○
キブシ	○	○	○	オヤマボクチ			・
オオウラジロノキ	○	○		カニコウモリ		○	
キジムシロ	○	○	・	コウゾリナ			
クマイチゴ	・			フジアザミ	・	○	
[黒塗り]				ヤクシソウ	・	○	・
タカネザクラ		○		ハリギリ			・
チョウジザクラ	○	○		ハリブキ		○	
モリイバラ		・		ヤブニンジン			・
ヤマブキ	○		・	総数	53	64	47

年度	低木層		草本層	
	高さ	植被率	高さ	植被率
H22 小円	1.5~4.5m	20%	0~0.5m	10%
H27 小円	1.5~4.5m	30%	0~0.5m	5%
R7 E区	1.0~2.5m	30%	0~0.3m	5%
R7 W区	1.0~3.0m	10%	0~0.3m	10%

○: 低木層及び草本層における今回調査の林床調査区での確認種と、過年度調査での小円部及び中円部での出現種
 ・: その他のプロット内確認種



森林概況調査

■ 林分の状況

- ・ 老齢段階の天然林
- ・ 保護対象種ヒメバラモミの実生・幼木・成木を確認

■ 被害状況

- ・ 水害として、土砂流出や谷部の倒木を確認

■ 動物情報

- ・ ニホンジカの剥皮や食痕、糞、鳴き声を確認

■ その他

以下の重要種を確認（プロット含む）



老齢林（林床が貧弱）



谷奥地の土砂流出の状況



ニホンジカ（糞）

総合評価

調査内容	確認項目		評価	評価内容
森林詳細調査	立木調査	群落	○	ヒメバラモミの生育地としての森林環境が維持されている。
		保護対象種	○	ヒメバラモミの実生や幼木の生育が確認された。
	下層植生調査		△	全体の植被率に大きな変化はなかった。 ニホンジカの採食植物が減少し、不嗜好性植物であるヒトリシズカが増加していた。
	気象害・病虫獣害等の発生状況調査		○	森林の健全性を損なう事象は確認されなかった。 ニホンジカの痕跡が確認されたが、岩塊急斜面地のために元々の下層植生が貧弱であることから、植生被害レベル1と判断した。
森林概況調査	気象害・病虫獣害等の発生状況調査		○	水害として、土砂流出や谷部の倒木が確認され、ニホンジカの痕跡も複数確認されたが、森林の健全性を損なう事象は確認されなかった。
	重要種の確認		○	が確認された。
資料調査			○	学術論文や報告書等 6 資料が確認された。
聞き取り調査			○	【南信森林管理署】 南アルプスの一部として、ニホンジカ対策に関する協議会を中心に各関係機関と連携して、対策を実施していく。
考察及び総合評価			健全	保護対象種のヒメバラモミの生育が維持されており、重要種も多数確認された。 ただし、ニホンジカによる植生被害の増加が懸念されるため、生息動向を注視する。

【個別項目の評価】

- ：前回と比較して大きな変化なし。または問題なし。
- △：前回と比較して大きな変化または問題が確認された。
- ×：前回と比較して重大な変化または問題が確認され、対策の検討が必要である。

【総合評価】

- 健全：保護林の健全性が保たれていた。
- 要注意：一部で問題が確認された。
- 要対策：重大な変化または問題が確認され、対策の検討が必要である。

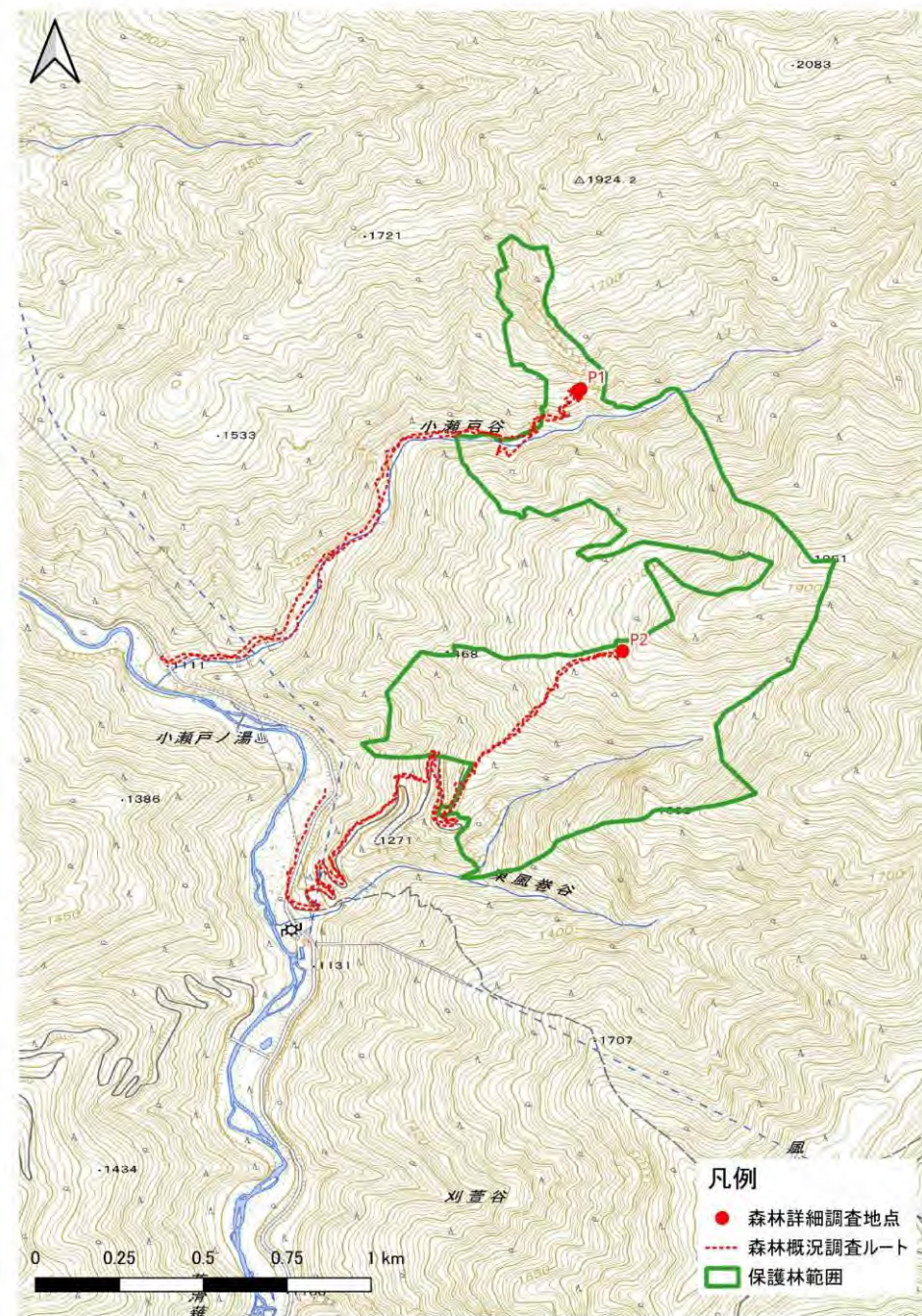
小瀬戸谷・東風巻谷希少個体群保護林

■位置

長野県伊那市

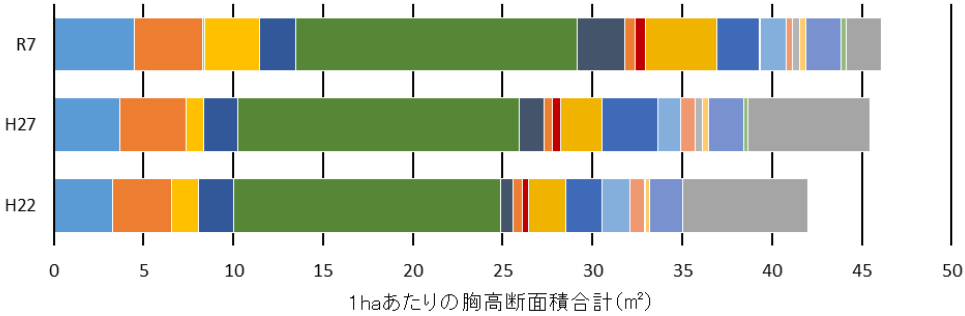
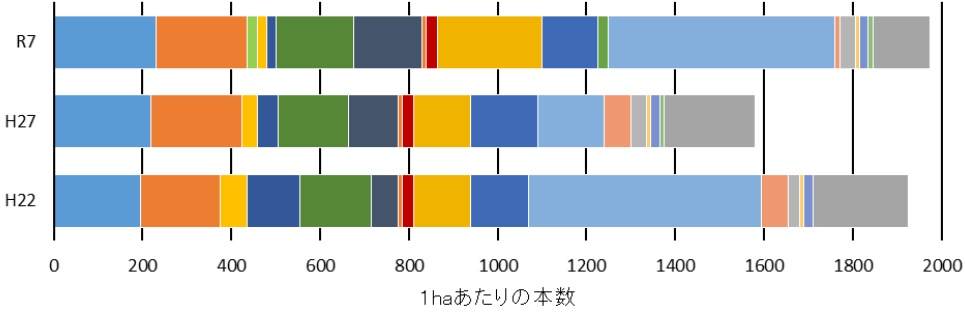
■設定目的

三峰川水系小瀬戸谷及び東風巻谷にかけて石灰岩の層が延びており、この地域に生育するヤツガタケトウヒ・ヒメバラモミ等の保護を目的とする。



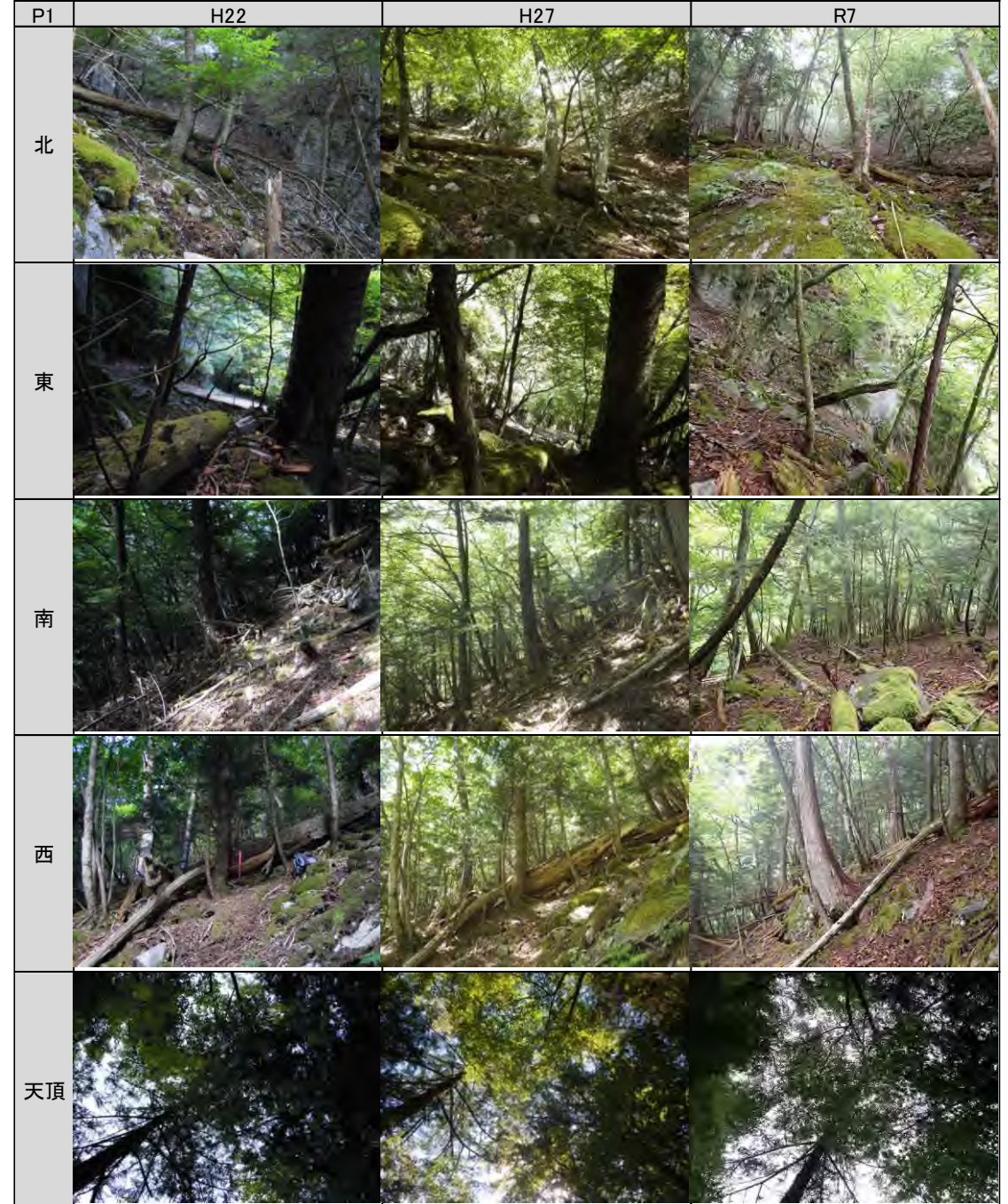
森林詳細調査

プロット1



樹種	1haあたり本数				1haあたり断面積 (m ²)				剥皮率			
	H22	H27	R7	増加率	H22	H27	R7	増加率	H22	H27	R7	増加率
ウラジロモミ	195	220	230	5%	3.29	3.66	4.47	22%	11%	20%	0%	
コメツガ	0	0	25	※	0.00	0.00	0.12	※	0%	0%	0%	
ツガ	60	35	20	-43%	1.51	1.00	3.04	202%	0%	0%	0%	
ヒノキ	120	45	20	-56%	1.97	1.89	2.00	6%	0%	0%	0%	
ネズコ	160	160	175	9%	14.87	15.70	15.71	0%	20%	20%	40%	
フサザクラ	60	110	155	41%	0.67	1.35	2.66	97%	0%	0%	0%	
ミズナラ	10	10	10	0%	0.50	0.51	0.56	10%	0%	0%	0%	
ミズメ	25	25	25	0%	0.37	0.43	0.57	33%	0%	0%	0%	
サウシバ	130	130	235	81%	2.05	2.34	3.99	71%	0%	0%	0%	
クマシデ	130	150	125	-17%	2.04	3.11	2.34	-25%	0%	0%	0%	
チドリノキ	0	0	25	※	0.00	0.00	0.07	※	0%	0%	0%	
ハウチワカエデ	525	150	510	240%	1.56	1.25	1.45	15%	0%	0%	0%	
ウラゲエンコウカエデ	60	60	10	-83%	0.78	0.80	0.31	-61%	0%	0%	0%	
コハウチワカエデ	25	35	35	0%	0.05	0.40	0.43	9%	0%	0%	0%	
トチノキ	10	10	10	0%	0.27	0.33	0.36	10%	0%	0%	0%	
ミズキ	20	20	20	0%	1.83	1.97	1.95	-1%	0%	0%	0%	
ケアオダモ	0	10	10	0%	0.00	0.25	0.28	10%	0%	0%	0%	
枯損木	215	205	130	-37%	6.95	6.78	1.96	-71%	-	-	-	
合計(枯損木除く)	1710	1375	1845	34%	35.04	38.67	44.14	14%	4%	5%	5%	

25%を超える増加率 25%を超える減少率 ※ 新規に確認された樹種



森林詳細調査（下層植生）

プロット1

林床調査区		N 区				S 区				種名			H22	H27	R7	種名			H22	H27	R7
下層植生	階層	低木層		草本層		低木層		草本層		種名				種名				種名			
	高さ	-	m	0.0~0.2	m	1.0~2.5	m	0.0~0.5	m	オウレンシダ	○	○	○	クサコアカソ	○	○	・	コアカソ			○
	植被率	-	%	2	%	10	%	2	%	クモノスシダ	○	○	・	ヤマブキ			・	クマイチゴ	○	○	・
	優占種	-		オウレンシダ		ヒメバラモミ		オウレンシダ		コハシゴシダ			・	イワデンダ		○	・	エビガライチゴ	○	○	
	植物種	和名	被度・群度		和名	被度・群度		種名	H22	H27	R7	種名	H22	H27	R7						
			低木層	草本層		低木層	草本層														
	低木層	オウレンシダ		+				ウラジロモミ	○	○	○	ツルウメモドキ	○	○	・						
		草本層	コアカソ		+	オウレンシダ		+	ツルマサキ	○	○	・	ツリバナ	○	○	○					
	着生植物	ケヤキ		+	ハリギリ		+	ヒノキ	○	○		ヒナスミレ	○	○	○						
		ダンコウバイ		+	サワシバ		+	ネズコ	○	○		ハウチワカエデ		○							
植生調査区内に根元がある	ウラジロモミ		+	ミヤママタタビ		+	ヒトリシズカ			・	コハウチワカエデ	○	○								
	ヒナスミレ		+	ケアオダモ		+	ダンコウバイ	○	○	○	トチノキ	・	・								
	フサザクラ		+	フデリンドウ		+	クロモジ	○	○		サンショウ			・							
	ツリバナ		+	ヒナスミレ		+	ホソバシュロソウ			・	ミズキ		・	・							
	ミヤマクマワラビ		+				ヤマカシュウ	○	○		ウツギ			・							
	ヒメイワトラノオ		+				マルバサンキライ	○	○		サルナシ	○	○								
植生調査区外の特記種	小円：ツルウメモドキ、コハシゴシダ、ウツギ、クモノスシダ、クサコアカソ、クマイチゴ、イボタノキ、ナガオノキシノブ									ヒメマイヅルソウ			・	ヤマホロシ	○	○					
	中円：ヒロハヘビノボラズ									マイヅルソウ		○		ケアオダモ	○	○	○				
	大円：ツルマサキ、ヒトリシズカ、イワデンダ、ツルデンダ、ミズキ、ヒメマイヅルソウ、ホソバシュロソウ、カラマツソウ、イタチハギ、イワシモツケ、ヤマブキ、ギボウシsp.、サンショウ、クサボタン									フサザクラ	○	・	○	イボタノキ			・				
										ヒロハヘビノボラズ			・	ハナイカダ	○	○					
										クサボタン	○	○	・	トダイハハコ	○	○					
										カラマツソウ			・	リュウノウギク		○					
										イタチハギ			・	ハリギリ		○	○				
										ケヤキ	○	○	○	総数	34	40	39				

年度	低木層		草本層	
	高さ	植被率	高さ	植被率
H22 小円	1.5~5.0m	10%	0~0.5m	10%
H27 小円	1.5~5.0m	10%	0~0.5m	10%
R7 N区	-	-	0~0.2m	2%
R7 S区	1.0~2.5m	10%	0~0.5m	2%

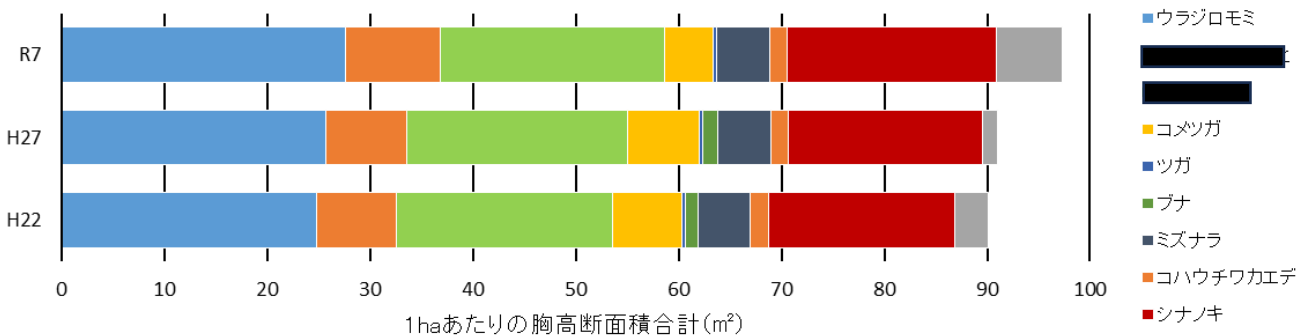
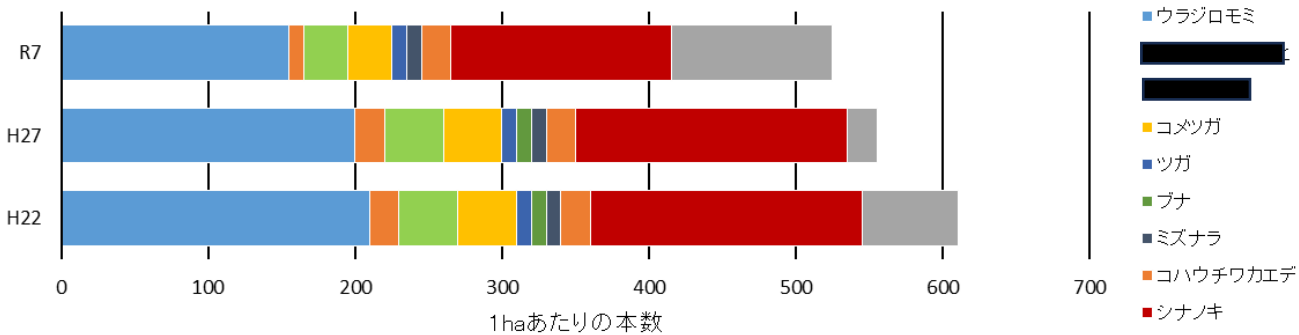
○：低木層及び草本層における今回調査の林床調査区での確認種と、過年度調査での小円部及び中円部での出現種

・：その他のプロット内確認種



森林詳細調査

プロット2



樹種	1haあたり本数				1haあたり断面積 (m ²)				剥皮率		
	H22	H27	R7	増加率	H22	H27	R7	増加率	H22	H27	R7
ウラジロモミ	210	200	155	-23%	24.78	25.77	27.63	7%	0%	47%	21%
コメツガ	40	40	30	-25%	6.69	7.03	4.69	-33%	0%	0%	0%
ツガ	10	10	10	0%	0.29	0.32	0.43	37%	0%	0%	0%
ブナ	10	10	0	-100%	1.33	1.45	0.00	-100%	0%	0%	0%
ミズナラ	10	10	10	0%	5.03	5.15	5.15	0%	0%	0%	0%
コハウチワカエデ	20	20	20	0%	1.73	1.74	1.70	-2%	0%	0%	0%
シナノキ	185	185	150	-19%	18.15	18.84	20.28	8%	0%	0%	0%
枯損木	65	20	110	450%	3.24	1.44	6.43	348%	-	-	-
合計(枯損木除く)	545	535	415	-22%	86.85	89.55	90.90	2%	0%	17%	8%

25%を超える増加率 25%を超える減少率 ※ 新規に確認された樹種



森林詳細調査 (下層植生)

プロット2

林床調査区		N 区				S 区			
下層植生	階層	低木層		草本層		低木層		草本層	
	高さ	-	m	0.0~0.3	m	-	m	0.0~0.1	m
植物種	植被率	-	%	2	%	-	%	2	%
	優占種	-		クマイチゴ		-		タチツボスミレ	
植物種	和名	被度・群度		被度・群度		和名	被度・群度		
		低木層	草本層	低木層	草本層				
植生調査区内に根元がある	低木層	クマイチゴ		+		タチツボスミレ		+	
	草本層	サルナシ		+		コミネカエデ		+	
	着生植物	ダンコウバイ		+		ヒナスミレ		+	
		ヤマホタルブクロ		+		ウリハダカエデ		+	
	植生調査区内に根元がある	フタリシズカ		+		セントウソウ		+	
		クマノミズギ		+		ウラジロモミ		+	
		ウリカエデ		+		ウリカエデ		+	
		マルバコンロンソウ		+		サルナシ		+	
		サワグルミ		+		クマノミズギ		+	
		ウリハダカエデ		+		サワグルミ		+	
						ダケカンバ		+	
		ハリギリ		+		シナノキ		+	
		ノブドウ		+					
ダケカンバ			+						
シナノキ		+							
ツルウメモドキ		+							
植生調査区外の特記種	小円:	ミヤマハコベ、ハンショウヅル、ミヤマウズラ、イチヤクソウ、ナガオノキシノブ、オオタチツボスミレ							
	中円:	ヒメマイヅルソウ、コメツガ、ミヤマザクラ							
	大円:	ウラジロウコギ、イワセントウソウ、ザリコミ、オオモミジ、マイヅルソウ、ムカゴイラクサ							

種名	H22	H27	R7
ホソバナライシダ	○	○	
ナガオノキシノブ			・
ウラジロモミ	○	○	○
コメツガ	○	○	・
フタリシズカ	○	○	○
ウスバサイシン	○	○	
ダンコウバイ			○
トラキチラン	○		
ミヤマウズラ	○	○	・
ヒメマイヅルソウ	・	・	・
マイヅルソウ	・	・	・
ハンショウヅル			・
ザリコミ	○	○	・
ノブドウ			○
ウワバミソウ		○	
ムカゴイラクサ	○	○	・
ミズ	○		
ミヤマザクラ			・
クマイチゴ			○
ブナ	・	・	
ミズナラ	・	・	
サワグルミ			○
ダケカンバ			○
クマシデ	○	○	
ツルウメモドキ	○	○	○
ツルマサキ	○	○	
タチツボスミレ	○	○	○

種名	H22	H27	R7
オオタチツボスミレ			・
ヒナスミレ	○	○	○
ミヤマタニタデ	○	○	
オオモミジ			・
ウリカエデ			○
コミネカエデ	○	○	○
ウリハダカエデ	○	○	○
コハウチワカエデ	○	○	
シナノキ		○	○
タネツケバナsp.	○	○	
マルバコンロンソウ			○
タガソデソウ	○		
ミヤマハコベ			・
クマノミズギ			○
イワガラミ	○	○	
サルナシ	○	○	○
イチヤクソウ	○	○	・
ホソバナツルリンドウ		○	
オニルリソウ	○	○	
ソバナ	○	○	
ヤマホタルブクロ			○
オクモミジハグマ	○	○	
ヨウモリソウsp.	○		
ウラジロウコギ	○	○	・
ミヤマウコギ	○	○	
ハリギリ			○
セントウソウ			○
ヤブニンジン	○	○	
イワセントウソウ			・
ニワトコ	○	○	
総数	38	37	36

年度	低木層		草本層	
	高さ	植被率	高さ	植被率
H22 小円	1.7~4.0m	1%	0~0.2m	1%
H27 小円	1.7~4.0m	1%	0~0.2m	1%
R7 N区	-	-	0~0.3m	2%
R7 S区	-	-	0~0.1m	2%

○: 低木層及び草本層における今回調査の林床調査区での確認種と、過年度調査での小円部及び中円部での出現種

・: その他のプロット内確認種



森林概況調査

■ 林分の状況

- ・ 老齢段階の天然林
- ・ 保護対象種ヤツガタケトウヒの幼木や成木、ヒメバラモミの実生や幼木、成木を確認

■ 被害状況

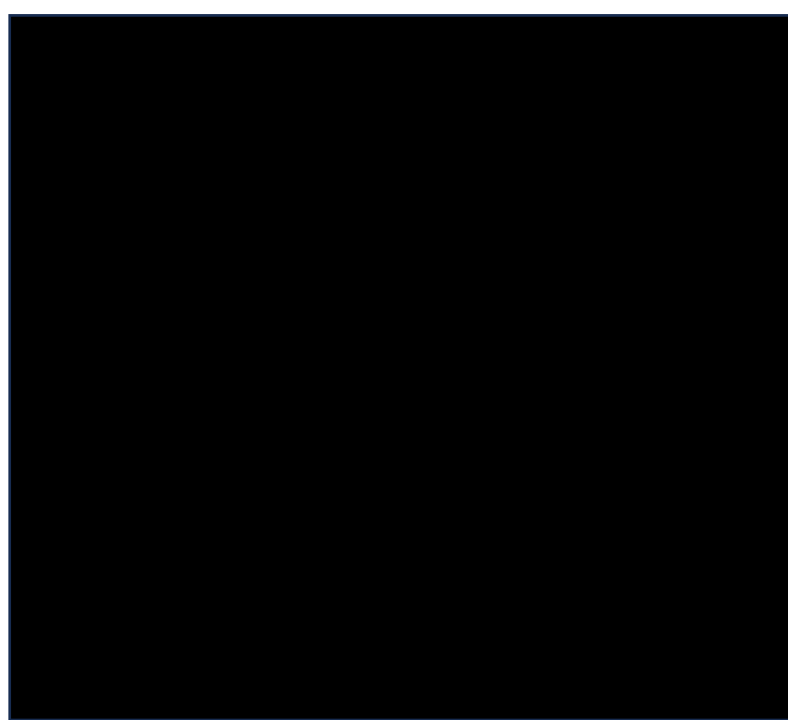
- ・ 風害として、根がえり倒木を確認
- ・ 谷部の一部斜面に小崩壊を確認

■ 動物情報

- ・ ニホンジカの剥皮や糞、生体の他、尾根部は下層植生が貧弱で、ブラウジングラインを確認
- ・ ツキノワグマの剥皮を確認

■ その他

以下の重要種を確認（プロット含む）



小規模な斜面崩壊



ニホンジカ（ブラウジングライン）



ツキノワグマ（剥皮）

総合評価

調査内容	確認項目		評価	評価内容
森林詳細調査	立木調査	群落	○	ヤツガタケトウヒやヒメバラモミが生育する森林環境が維持されている。
		保護対象種	○	ヒメバラモミの実生が確認された。 また、森林概況調査でヤツガタケトウヒの幼木、ヒメバラモミの実生や幼木が確認された。
	下層植生調査		○	過年度より非常に貧弱である。
	気象害・病虫獣害等の発生状況調査		△	過年度から下層植生が貧弱であり、ブラウジングラインが確認されたことから、植生被害レベル 3 と判断した。
森林概況調査	気象害・病虫獣害等の発生状況調査		△	風害として単木的な根がえり倒木や小崩壊が確認された。 尾根部は下層植生が貧弱でブラウジングラインが確認された。
	重要種の確認		○	が確認された。
資料調査			○	学術論文や報告書等 6 資料が確認された。
聞き取り調査			○	【南信森林管理署】 昔はササ類が繁茂していたが、現在はシカ食害により下層植生が貧弱となっている。 南アルプスの一部として、ニホンジカ対策に関する協議会を中心に各関係機関と連携して、対策を実施していく。
考察及び総合評価			要注意	保護対象種のヤツガタケトウヒとヒメバラモミの生育が維持されており、重要種も多数確認された。 ただし、過年度からニホンジカによる植生被害が多大な地域であることから、南アルプスのニホンジカ対策と連携した対応が検討される。

【個別項目の評価】

- ：前回と比較して大きな変化なし。または問題なし。
- △：前回と比較して大きな変化または問題が確認された。
- ×：前回と比較して重大な変化または問題が確認され、対策の検討が必要である。

【総合評価】

- 健全：保護林の健全性が保たれていた。
- 要注意：一部で問題が確認された。
- 要対策：重大な変化または問題が確認され、対策の検討が必要である。

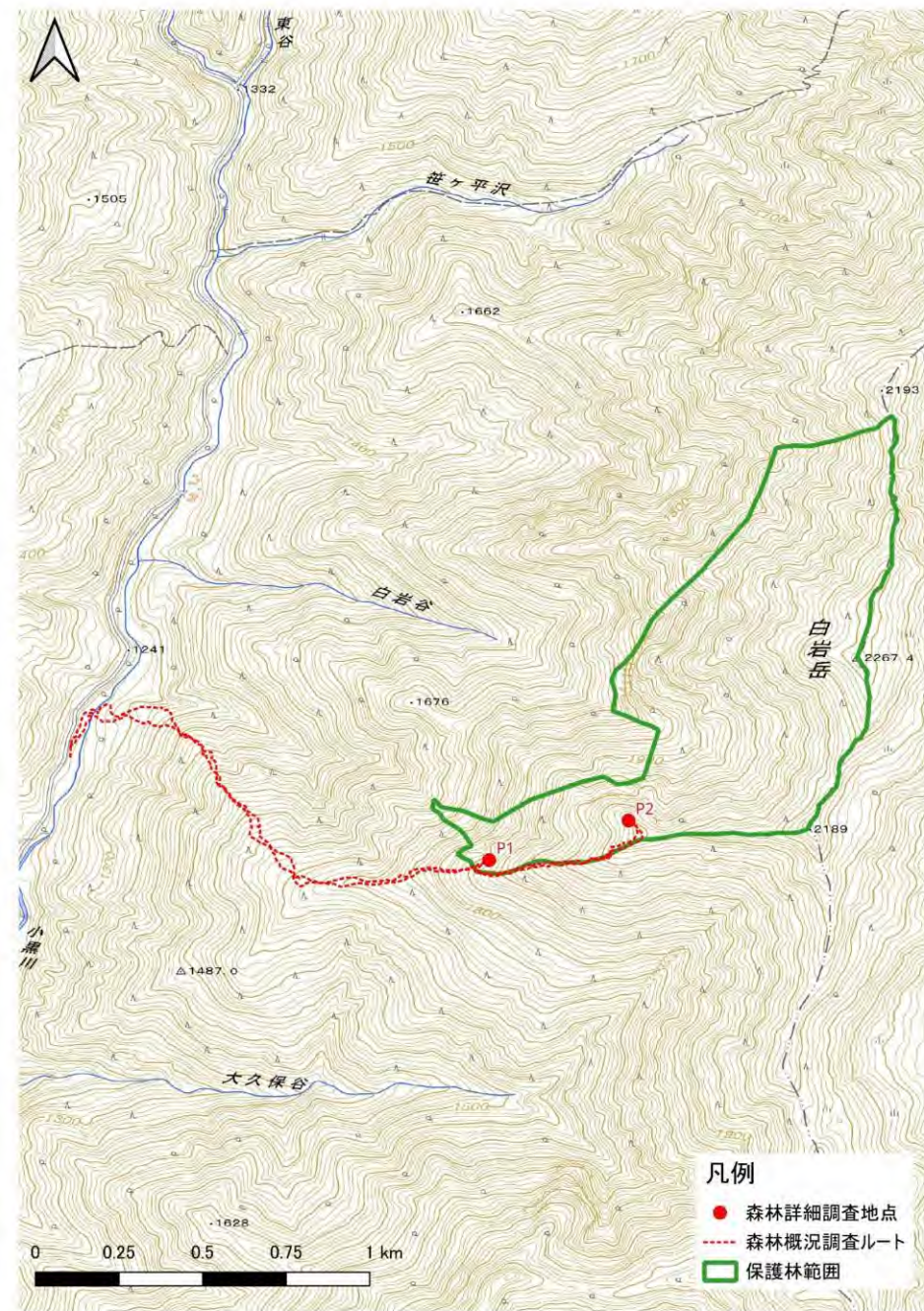
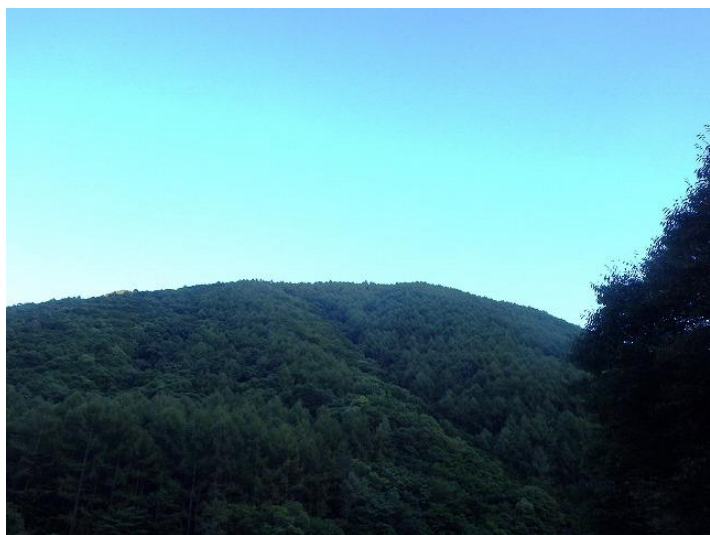
白岩岳カラマツ等希少個体群保護林

■位置

長野県伊那市

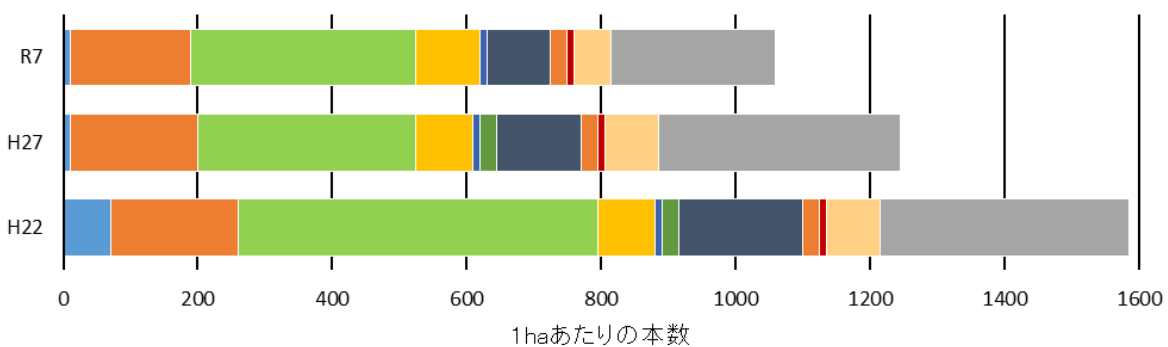
■設定目的

赤石山系の天然カラマツが群落を形成しており、学術上価値の高い林分であることから、この群落の保護を目的とする。

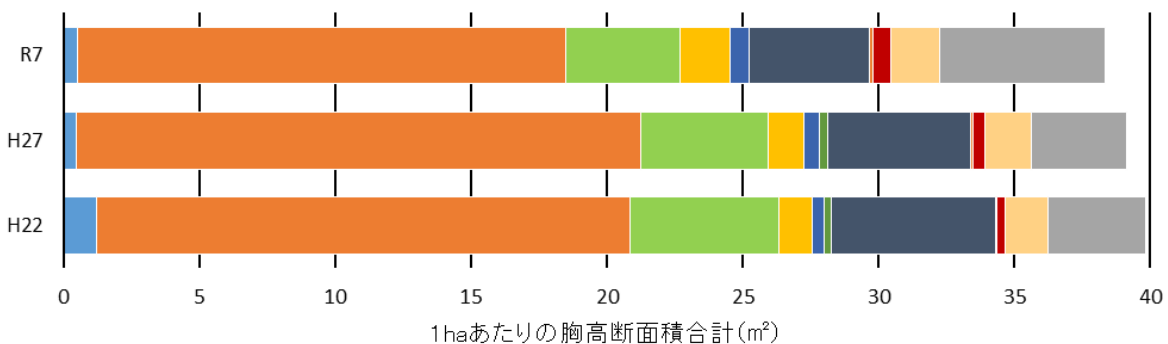


森林詳細調査

プロット1



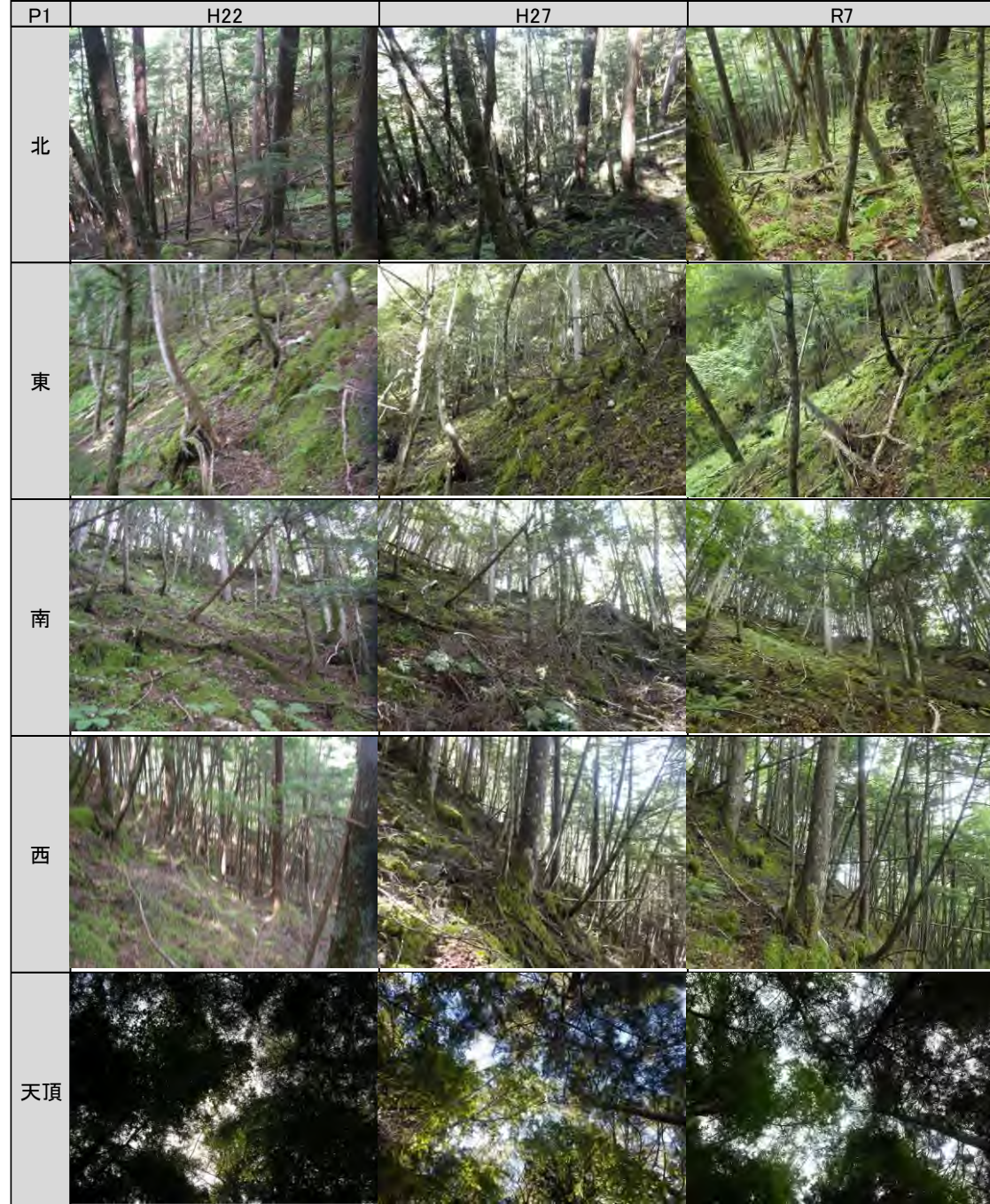
- シラビン
- カラマツ
- コメツガ
- ネズコ
- ヒロハカツラ
- ネコシデ
- ダケカンバ
- ヒロハツリバナ
- オガラバナ
- シナノキ
- 枯損木



- シラビン
- カラマツ
- コメツガ
- ネズコ
- ヒロハカツラ
- ネコシデ
- ダケカンバ
- ヒロハツリバナ
- オガラバナ
- シナノキ
- 枯損木

樹種	1haあたり本数				1haあたり断面積(m ²)				剥皮率		
	H22	H27	R7	増加率	H22	H27	R7	増加率	H22	H27	R7
シラビン	70	10	10	0%	1.20	0.49	0.54	9%	0%	0%	100%
カラマツ	190	190	180	-5%	19.66	20.77	17.93	-14%	0%	0%	0%
コメツガ	535	325	335	3%	5.47	4.66	4.24	-9%	0%	0%	0%
ネズコ	85	85	95	12%	1.22	1.33	1.81	37%	0%	0%	0%
ヒロハカツラ	10	10	10	0%	0.46	0.59	0.73	22%	0%	0%	0%
ネコシデ	25	25	0	-100%	0.25	0.27	0.00	-100%	0%	0%	0%
ダケカンバ	185	125	95	-24%	6.03	5.26	4.43	-16%	0%	0%	0%
ヒロハツリバナ	25	25	25	0%	0.06	0.11	0.14	26%	0%	0%	0%
オガラバナ	10	10	10	0%	0.31	0.43	0.63	45%	0%	0%	0%
シナノキ	80	80	55	-31%	1.59	1.72	1.83	7%	0%	0%	0%
枯損木	370	360	245	-32%	3.57	3.49	6.07	74%	-	-	-
合計(枯損木除く)	1215	885	815	-8%	36.25	35.63	32.27	-9%	0%	0%	2%

25%を超える増加率 25%を超える減少率 ※ 新規に確認された樹種



森林詳細調査（下層植生）

プロット1

林床調査区		N 区				S 区			
下層植生	階層	低木層		草本層		低木層		草本層	
		高さ	-	m	0.1~0.5	m	-	m	0.1~0.5
	植被率	-	%	60	%	-	%	30	%
	優占種	-		ミヤマタニタデ		-		オウレンシダ	
	植物種	和名		被度・群度		和名		被度・群度	
				低木層	草本層	低木層	草本層		
	低木層	ミヤマタニタデ		2・2		オウレンシダ		1・1	
	草本層	オシダ		1・1		オシダ		1・1	
	着生植物	シラネワラビ		1・1		コンロンソウ		1・1	
		ミヤママタタビ		1・1		シラネワラビ		1・1	
		ミヤマスマレ		1・1		ズダヤクシュ		+	
	植生調査区内に根元がある	ズダヤクシュ		1・1					
		コミヤマカタバミ		1・1		イワガラミ		+	
		コンロンソウ		1・1		クルマムグラ		+	
		ザリコミ		+		コミヤマカタバミ		+	
		クルマムグラ		+		ミヤマワラビ		+	
		オガラバナ		+		ミヤママタタビ		+	
		イワセントウソウ		+		ザリコミ		+	
		ミヤマワラビ		+		ミヤマシダ		+	
		ミヤマトウバナ		+		ツルアジサイ		+	
		オウレンシダ		+		マイヅルソウ		+	
		モミ		+		ヤグルマソウ		+	
		コヨウラクツツジ		+		イワセントウソウ		+	
		イボタヒョウタンボク		+		ミヤマタニタデ		+	
		サラシナショウマ		+					
		シナノキイチゴ		+					
	植生調査区外の特記種	小円: クルマバツクバネソウ、ミズナラ、ウリハダカエデ、イノデsp. 中円: キオン、ユキザサ、ルイヨウショウマ、ダケカンバ、ニフトコ、ハナチダケサシ、ホソバナライシダ、ヒロハノツリバナ、 XXXXXXXXXX 、ネコノメソウsp. 大円: エゾノツバムグラ、シラビソ、ミヤマクマワラビ、イトスゲ、アオチャセンシダ、イワウサギシダ							

種名	H22	H27	R7	種名	H22	H27	R7
オウレンシダ	○	○	○	ミズナラ		○	・
クジャクシダ		○		ネコシデ	○	○	
イワウサギシダ			・	ダケカンバ			・
アオチャセンシダ			・	ヒロハノツリバナ	○	○	・
ミヤマワラビ			○	コミヤマカタバミ	○	○	○
ミヤマシダ			○	スマレsp.	○	○	
ホソバナライシダ			・	ミヤマスマレ			○
オシダ	○	○	○	ミヤマタニタデ	○	○	○
シラネワラビ	○	○	○	ウリハダカエデ		○	・
ミヤマクマワラビ			・	ミネカエデ	○	○	
イノデsp.			・	オガラバナ	○	○	○
モミ			○	コンロンソウ			○
シラビソ			・	ツルアジサイ			○
ツクバネソウ		○		パイカウツギ		○	
クマバツクバネソウ			・	イワガラミ		○	○
トラキチラン	○			ミヤママタタビ	○	○	○
XXXXXXXXXX				コヨウラクツツジ		○	○
タカネフタバラン	○			クマムグラ			○
マイヅルソウ	○	○	○	エゾノツバムグラ	○	○	・
ユキザサ		○	・	ヤマムグラ		○	
イトスゲ			・	ミヤマイボタ		○	
ルイヨウショウマ			・	ミヤマトウバナ			○
サラシナショウマ	○		○	キクsp.	・		
クサボタン		○		サワギク		○	
ヒロハカツラ	○			カニコウモリ	○	○	
ザリコミ	○	○	○	キオン			・
ハナチダケサシ			・	タムラソウ		○	
ネコノメソウsp.	○		・	アキノキリンソウ			・
ヤグルマソウ	○	○	○	イワセントウソウ	○	○	○
ズダヤクシュ	○	○	○	ニフトコ		○	・
シナノキイチゴ		○	○	イボタヒョウタンボク		○	○
				総数	23	35	46

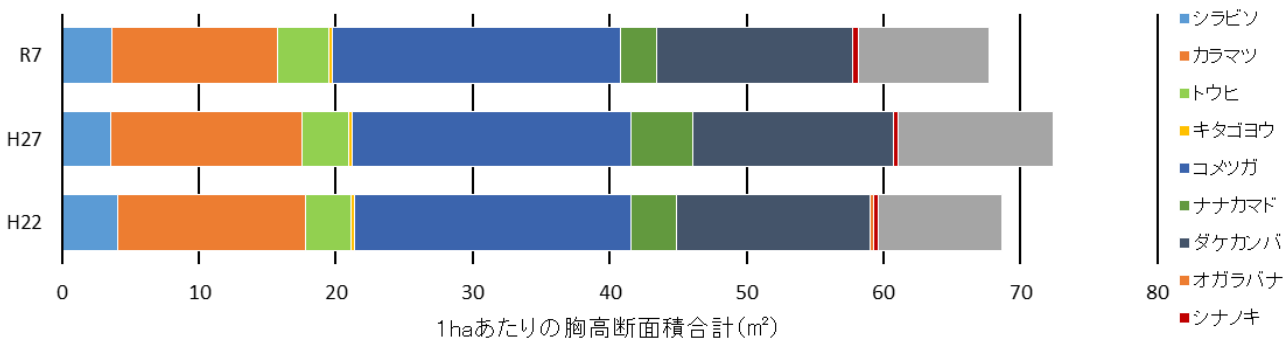
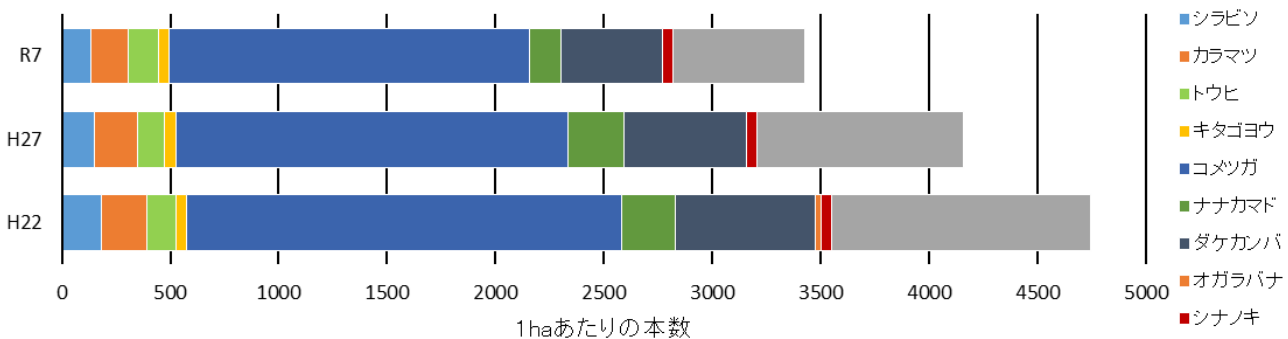
年度	低木層		草本層	
	高さ	植被率	高さ	植被率
H22 小円	-	-	0~0.8m	10%
H27 小円	-	-	0~0.8m	10%
R7 N区	-	-	0.1~0.5m	60%
R7 S区	-	-	0.1~0.5m	30%

○: 低木層及び草本層における今回調査の林床調査区での確認種と、過年度調査での小円部及び中円部での出現種
 ・: その他のプロット内確認種



森林詳細調査

プロット2



樹種	1haあたり本数				1haあたり断面積 (m ²)				剥皮率		
	H22	H27	R7	増加率	H22	H27	R7	増加率	H22	H27	R7
シラビソ	185	150	135	-10%	4.11	3.58	3.68	3%	0%	22%	11%
カラマツ	210	200	170	-15%	13.72	13.99	12.10	-14%	0%	5%	0%
トウヒ	130	125	140	12%	3.29	3.41	3.70	8%	0%	0%	0%
キタゴヨウ	50	50	50	0%	0.27	0.26	0.26	-1%	0%	0%	0%
コメツガ	2005	1810	1660	-8%	20.18	20.34	21.06	3%	0%	3%	0%
ナナカマド	250	255	145	-43%	3.31	4.47	2.65	-41%	0%	25%	14%
ダケカンバ	645	565	470	-17%	14.20	14.65	14.34	-2%	0%	0%	0%
オガラバナ	25	0	0	0%	0.21	0.00	0.00	0%	0%	0%	0%
シナノキ	50	50	50	0%	0.31	0.35	0.40	14%	0%	0%	0%
枯損木	1195	955	605	-37%	9.06	11.33	9.53	-16%	-	-	-
合計 (枯損木除く)	3550	3205	2820	-12%	59.59	61.05	58.19	-5%	0%	5%	1%

25%を超える増加率 25%を超える減少率 ※ 新規に確認された樹種



森林詳細調査（下層植生）

プロット2

林床調査区		N 区				S 区				
下層植生	階層	低木層		草本層		低木層		草本層		
	高さ	-	m	0.1~0.2	m	3.0~4.0	m	0.1~0.2	m	
	植被率	-	%	1	%	10	%	1	%	
	優占種	-		ナナカマド		コメツガ		マイヅルソウ		
	植物種	和名	被度・群度		被度・群度		被度・群度		被度・群度	
			低木層	草本層	低木層	草本層	低木層	草本層	低木層	草本層
	低木層	ナナカマド		+		コメツガ		1・1		
	草本層	マイヅルソウ		+		マイヅルソウ			+	
	着生植物	ツルアリドオシ		+		ナナカマド			+	
植生調査区外の特記種	小円：ダケカンバ 中円：ミヤマワラビ、キタゴヨウ、ミネカエデ、ヒメノガリヤス 大円：シラビソ									

種名	H22	H27	R7	種名	H22	H27	R7
ミヤマワラビ	○	・	・	ナナカマド	○	○	○
ホソイノデ	○			ダケカンバ		○	・
シラビソ	○	○	・	ミネカエデ	・		・
キタゴヨウ	○		・	オガラバナ	○		
コメツガ	○	○	○	シナノキ	○		
タケシマラン	・			ツルアリドオシ		○	○
クモキリソウsp.	・			セリバシオガマ	○		
マイヅルソウ	○	○	○	キオン	・		
ヒメノガリヤス	○	○	・	総数	15	8	10

年度	低木層		草本層	
	高さ	植被率	高さ	植被率
H22 小円	6.0~8.0m	30%	0~0.2m	1%
H27 小円	6.0~8.0m	50%	0~0.2m	1%
R7 N区	-	-	0.1~0.2m	1%
R7 S区	3.0~4.0m	10%	0.1~0.2m	1%

○：低木層及び草本層における今回調査の林床調査区での確認種と、過年度調査での小円部及び中円部での出現種
・：その他のプロット内確認種



森林概況調査

■ 林分の状況

- ・ 老齢段階の天然林
- ・ 保護対象種カラマツの立ち枯れがあり、後継樹は幼木がわずかに確認された程度で、実生の確認はない

■ 被害状況

- ・ 風害として、過年度に発生した根がえり倒木により小ギャップが形成

■ 動物情報

- ・ ニホンジカの剥皮や食痕、糞、角あとを確認
- ・ イノシシのぬた場を確認

■ その他

以下の重要種を確認（プロット含む）



カラマツ林（保護対象種）



カラマツの立ち枯れ木



風害（寝返り倒木）の小ギャップ



ニホンジカ（糞）

総合評価

調査内容	確認項目		評価	評価内容
森林詳細調査	立木調査	群落	○	高木層を構成するカラマツがやや減少しているが、森林全体的には大きな変化は確認されなかった。
		保護対象種	△	カラマツの立ち枯れ木が散見された。 過年度同様にカラマツの実生や後継樹が確認されない。
	下層植生調査		○	下層植生は非常に貧弱である。 過年度に小ギャップが生じた場所は植被率・確認種数共に増加した。
	気象害・病虫獣害等の発生状況調査		△	風害による小ギャップの形成が確認された。 過年度よりニホンジカの剥皮や食痕が確認され、下層が貧弱であることから植生被害レベル 3 と判断した。
森林概況調査	気象害・病虫獣害等の発生状況調査		△	風害による根がえり倒木が確認された。 ニホンジカの剥皮や食痕が確認された。
	重要種の確認		○	が確認された。
資料調査			○	学術論文や報告書等 5 資料が確認された。
聞き取り調査			○	【南信森林管理署】 南アルプスの一部として、ニホンジカ対策に関する協議会を中心に各関係機関と連携して、対策を実施していく。
考察及び総合評価			要注意	過年度より保護対象種のカラマツの後継樹が確認されておらず、立ち枯れ木が確認されたことから、カラマツの生育状況を注視する必要がある。 また、過年度から下層植生が貧弱であり、カラマツの実生が確認されていないことから、南アルプスのニホンジカ対策と連携した対応も検討される。

【個別項目の評価】

- ：前回と比較して大きな変化なし。または問題なし。
- △：前回と比較して大きな変化または問題が確認された。
- ×：前回と比較して重大な変化または問題が確認され、対策の検討が必要である。

【総合評価】

- 健全：保護林の健全性が保たれていた。
- 要注意：一部で問題が確認された。
- 要対策：重大な変化または問題が確認され、対策の検討が必要である。

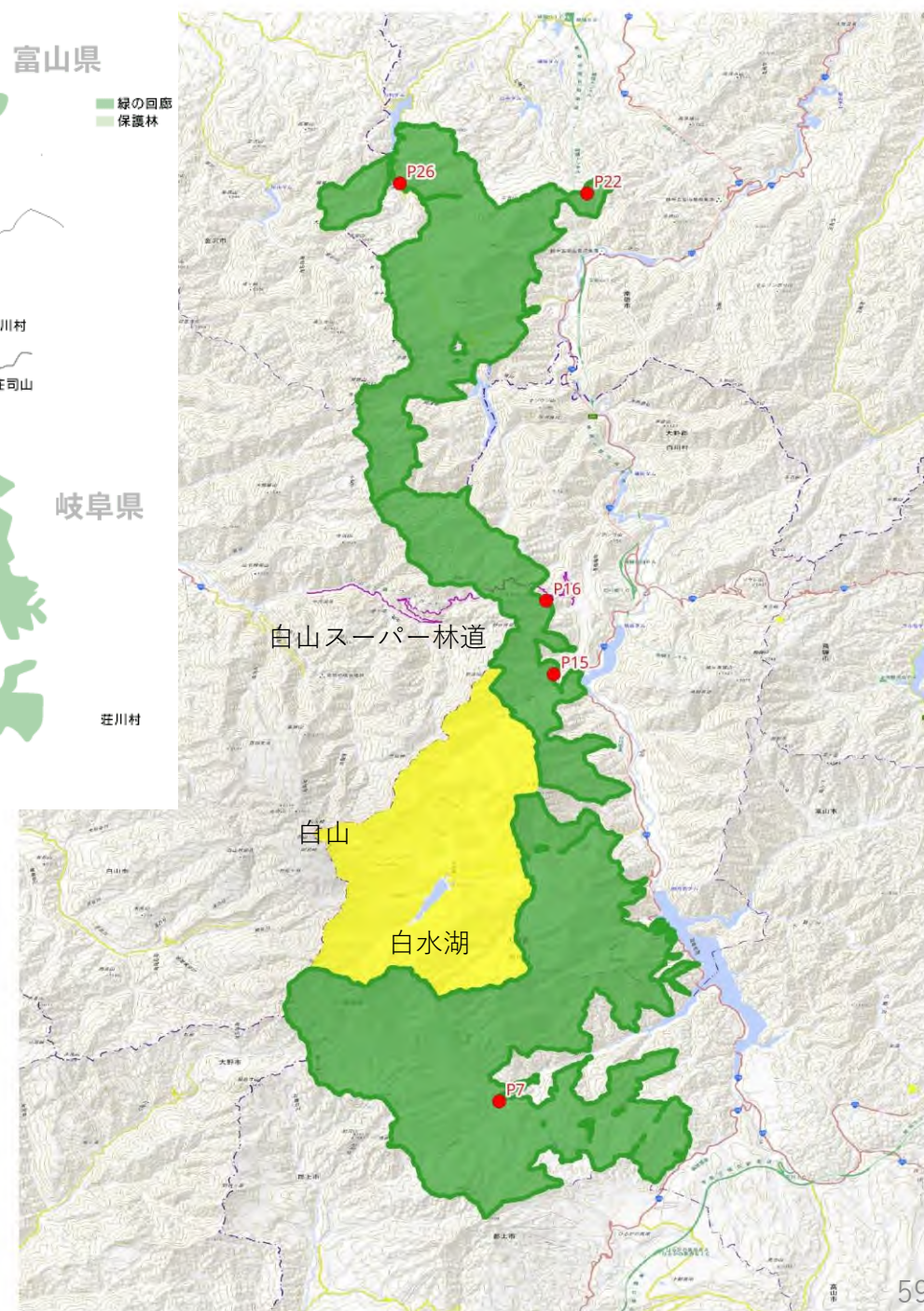
白山山系緑の回廊

■位置

富山県、岐阜県（中部森林管理局）

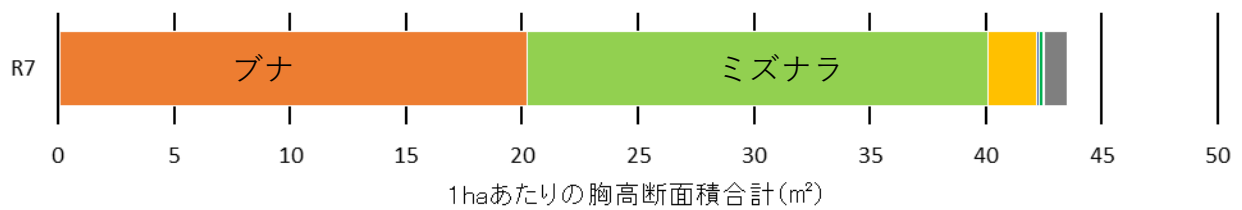
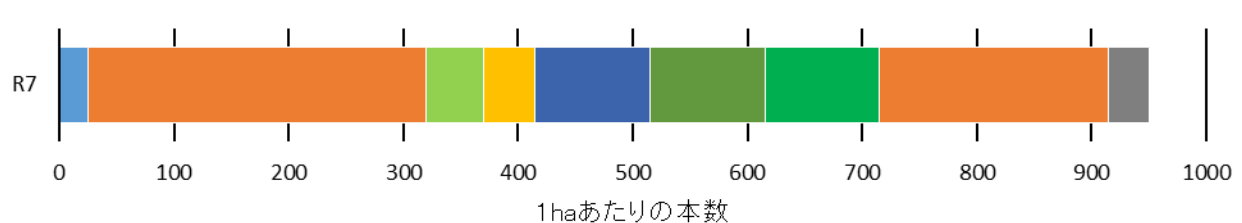
■設定目的

野生生物の生息・生育地の広域的なつながりを確保することにより個体群の交流を促し、種の保存、遺伝資源の保護などの取組を行うため、保護林を連結する緑の回廊を設定し、森林の連続性を確保し、森林生態系の一層の保護・保全に資するものとする。



プロット	標高 (m)	国有林	林小班	森林タイプ	林分の発達段階	林齢 (年生)	備考
P7	925	尾上郷	4181ろ	天然林	老齢	50	
P15	680	荒谷	4373い	天然林	老齢	227	
P16	1265	馬狩	4375い	天然林	老齢	227	
P22	915	小瀬	316ろ	天然林	成熟	108	
P26	385	小矢部	410り	天然林	成熟	83	

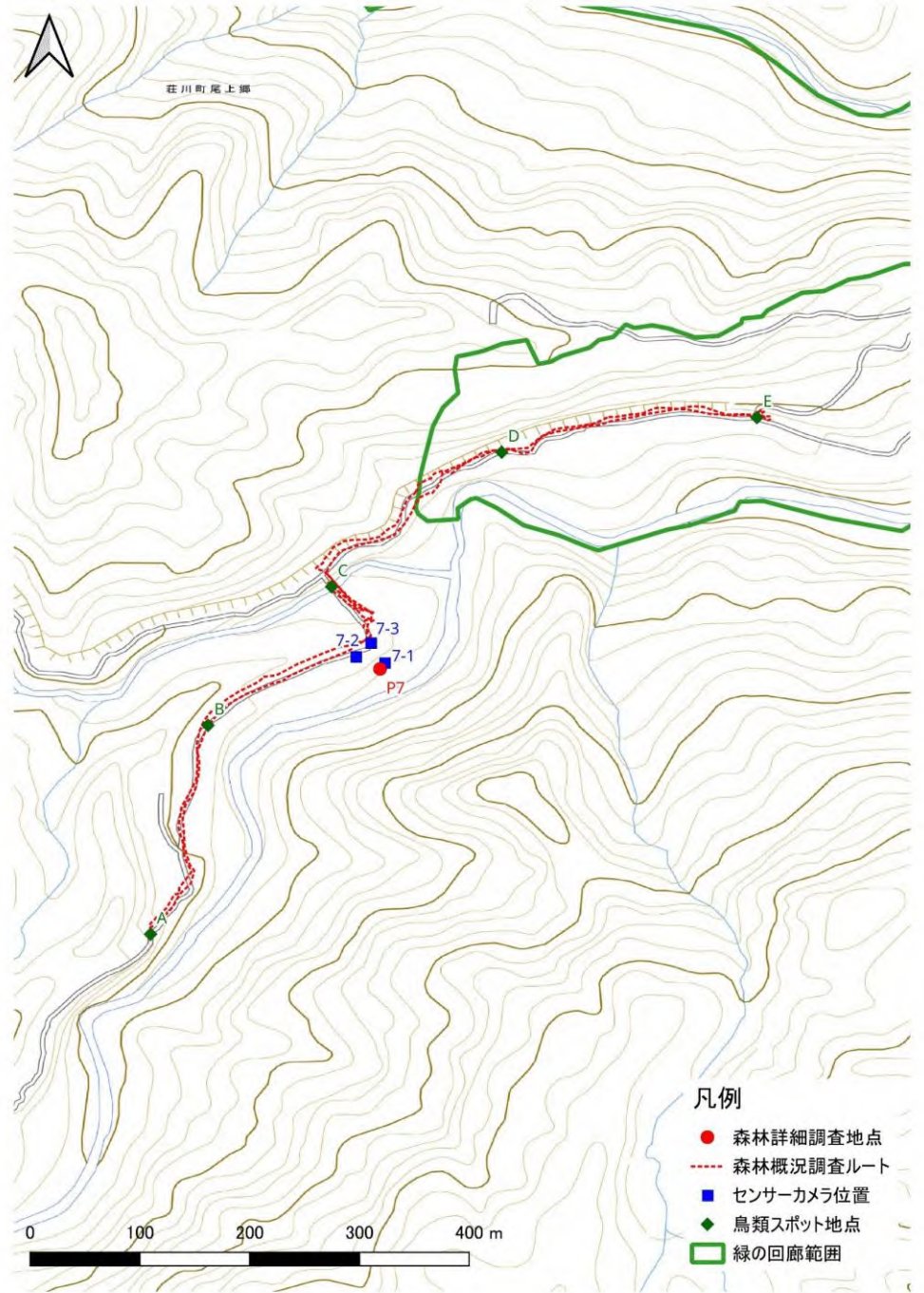
森林詳細調査 P7



- Uwimizakura
- ブナ
- ミズナラ
- コハウチワカエデ
- タナサワフタギ
- リョウブ
- ケアオダモ
- オオカメノキ
- 枯損木

地点	樹種	1haあたりの本数			1haあたり断面積 (m ²)			剥皮率	
		参考H16	R7	増加率	参考H16	R7	増加率	参考H16	R7
P7	カツラ	30	0	-100%	0.42	0.00	-100%	0%	0%
	ヤマブドウ	10	0	-100%	0.00	0.00	0%	0%	0%
	ウワミズザクラ	0	25	※	0.00	0.08	※	0%	0%
	ブナ	170	295	74%	19.87	20.15	1%	0%	0%
	ミズナラ	60	50	-17%	12.40	19.89	60%	0%	0%
	ウリハダカエデ	10	0	-100%	0.00	0.00	0%	0%	0%
	コハウチワカエデ	20	45	125%	1.41	2.10	48%	0%	0%
	タナサワフタギ	0	100	※	0.00	0.09	※	0%	0%
	サルナシ	10	0	-100%	0.00	0.00	0%	0%	0%
	リョウブ	0	100	※	0.00	0.01	※	0%	0%
	ケアオダモ	0	100	※	0.00	0.18	※	0%	0%
	オオカメノキ	0	200	※	0.00	0.02	※	0%	0%
	枯損木	0	35	※	0.00	0.99	※	-	-
	合計 (枯損木除く)	310	915	195%	34.10	42.52	25%	0%	0%

25%を超える増加率 25%を超える減少率 ※ 新規確認樹種



森林詳細調査 (下層植生)

P7

林床調査区		N 区				S 区			
下層植生	階層	低木層		草本層		低木層		草本層	
	高さ	1.0~2.5	m	0.0~0.5	m	1.0~4.5	m	0.0~0.5	m
	植被率	75	%	90	%	75	%	90	%
	優占種	チシマザサ		ミヤマカンスゲ		チシマザサ		ミヤマカンスゲ	
	植物種	和名		被度・群度		和名		被度・群度	
				低木層	草本層			低木層	草本層
	低木層	チシマザサ	4・4	1・2	チシマザサ	4・4	++2		
	草本層	オオカメノキ	1・1	3・3	オオカメノキ	1・2	+		
	着生植物	オオバクロモジ	1・1	1・1	ウリハダカエデ	1・1			
		ミヤマカンスゲ		4・4	リョウブ	1・1			
		イワウチワ		1・2	ハウチワカエデ	+	+		
	植生調査区内に根元がある	ツルアジサイ		1・1	オオバクロモジ	+			
		ジュウモンジシダ		+	ミヤマカンスゲ		3・3		
		タニウツギ		+	ツルシキミ		2・2		
		ウリハダカエデ		+	ウスノキ		1・1		
		ツタウルシ		+	リョウブ		1・1		
		ウスノキ		+	エゾズリハ		1・1		
		ハウチワカエデ		+	イヌツゲ		+		
		イタヤカエデ		+	ツタウルシ		+		
		コミネカエデ		+	コミネカエデ		+		
		ツルシキミ		+	アクシバ		+		
		シノブカグマ		+	ムラサキマユミ		+		
					ブナ		+		
					シノブカグマ		+		
					ヤマソテツ		+		
					イワガラミ		+		
	植生調査区外の特記種	小円: ハイイヌガヤ、ケアオダモ、シシガシラ、タンナサワフタギ、ハクウンボク、マルバマンサク、ツノハシバミ、ヤマグワ、ノキシノブ 中円: アズキナシ、コハウチワカエデ、ヤマウルシ、ミヤマシグレ、 大円: オニゼンマイ、オシダ、オククルマムグラ、トウゲシバ、コシアブラ、カメバヒキオコシ、ショウジョウバカマ、リョウメンシダ、ハリギリ、タムシバ、コバノフユイチゴ、ホソバナライシダ、ウリカエデ							

種名	H16	R7
トウゲシバ	○	・
マンネンスギ	○	
オニゼンマイ		・
オオキジノオ	○	
ヤマソテツ	○	○
シシガシラ	○	・
ホソバナライシダ		・
シノブカグマ	○	○
リョウメンシダ	○	・
オシダ		・
ジュウモンジシダ	○	○
ノキシノブ		・
ハイイヌガヤ	○	・
コブシ	○	
タムシバ	○	・
オオバクロモジ	○	○
ショウジョウバカマ		・
ミヤマカンスゲ	○	○
チシマザサ	○	○
マルバマンサク	○	・
エゾズリハ	○	○
ヤマグワ	○	・
アカソ	○	
アズキナシ	○	・
ウワミズザクラ	○	
コバノフユイチゴ		・
ブナ	○	○
ミズナラ	○	
ハシバミ	○	
ツノハシバミ		・
コマユミ	○	
ムラサキマユミ		○
サワダツ	○	
ツタウルシ	○	○

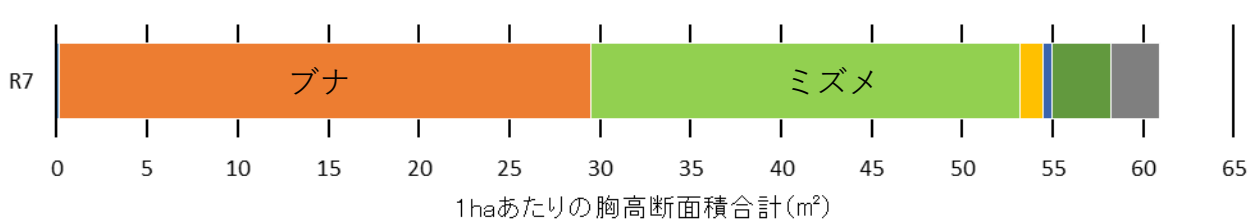
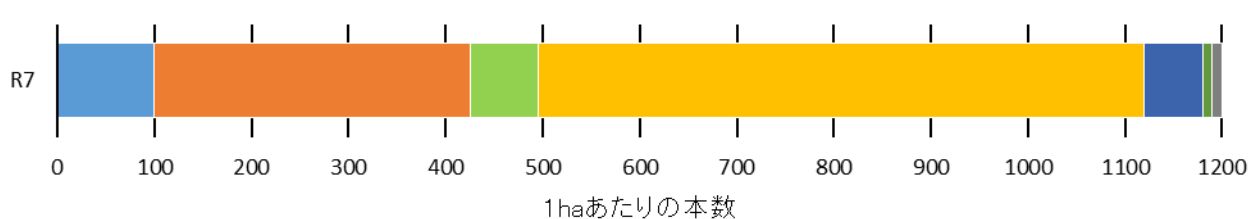
種名	H16	R7
ヤマウルシ	○	・
ヤマモミジ	○	
ウリカエデ		・
ハウチワカエデ	○	○
コミネカエデ	○	○
イタヤカエデ		○
ウリハダカエデ	○	○
コハウチワカエデ	○	・
トチノキ	○	
ツルシキミ	○	○
ニガキ	○	
ツルアジサイ		○
ノリウツギ	○	
ヤマアジサイ	○	
イワガラミ		○
タンナサワフタギ	○	・
サワフタギ	○	
イワカガミsp.	○	
イワウチワ	○	○
ハクウンボク	○	・
サルナシ	○	
リョウブ	○	○
ウスノキ	○	○
アクシバ		○
オククルマムグラ		・
ケアオダモ		・
カメバヒキオコシ	○	・
イヌツゲ	○	○
フキ	○	
コシアブラ	○	・
ハリギリ		・
オオカメノキ	○	○
ミヤマシグレ	○	・
タニウツギ		○
総計	51	51

年度	低木層		草本層	
	高さ	植被率	高さ	植被率
H16	3.0~6.0m	40%	0~2.0m	90%
R7 N区	1.0~2.5m	75%	0~0.5m	90%
R7 S区	1.0~4.5m	75%	0~0.5m	90%

○: 低木層及び草本層における今回調査の林床調査区での確認種と、過年度調査での低木層と草本層での出現種
・: その他のプロット内確認種



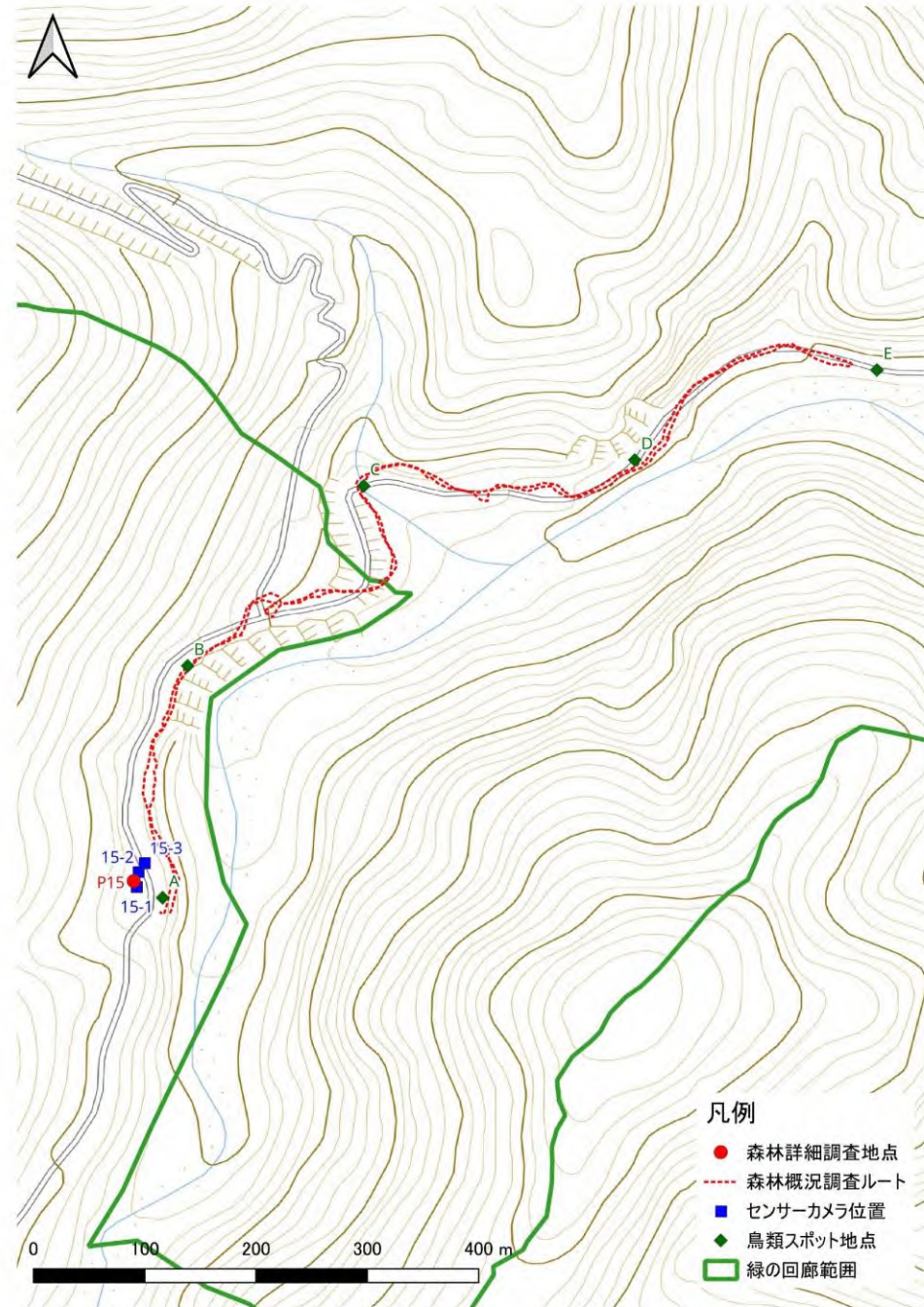
森林詳細調査 P15



- Uwamizakura
- ブナ
- ミズメ
- ハウチワカエデ
- コシアブラ
- ハリギリ
- 枯損木

地点	樹種	1haあたりの本数			1haあたり断面積(m ²)			剥皮率	
		参考H18	R7	増加率	参考H18	R7	増加率	参考H18	R7
P15	ウワミズザクラ	0	100	※	0.00	0.16	※	0%	0%
	ブナ	160	325	103%	26.58	29.32	10%	0%	0%
	ミズナラ	20	0	-100%	10.05	0.00	-100%	0%	0%
	ミズメ	20	70	250%	1.92	23.71	1132%	0%	0%
	ウダイカンバ	40	0	-100%	11.74	0.00	-100%	0%	0%
	ハウチワカエデ	0	625	※	0.00	1.28	※	0%	0%
	コシアブラ	0	60	※	0.00	0.50	※	0%	0%
	ハリギリ	20	10	-50%	6.64	3.23	-51%	0%	0%
	枯損木	0	10	※	0.00	2.73	※	-	-
合計(枯損木除く)		260	1190	358%	56.93	58.19	2%	0%	0%

25%を超える増加率 25%を超える減少率 ※ 新規確認樹種



森林詳細調査（下層植生）

P15

林床調査区	N 区				S 区			
	低木層		草本層		低木層		草本層	
階層	高さ		60 %		高さ		65 %	
高さ	1.0~4.0 m		0.0~1.0 m		1.0~6.0 m		0.0~1.0 m	
植被率	60 %		85 %		45 %		65 %	
優占種	ハウチワカエデ		オオバクロモジ		コシアブラ		オオバクロモジ	
植物種	和名	被度・群度		和名	被度・群度			
		低木層	草本層		低木層	草本層		
低木層	ハウチワカエデ	3・3	1・1	コシアブラ	2・2	+	+	+
草本層	オオバクロモジ	2・2	3・3	コハウチワカエデ	1・1	1・1		
着生植物	アオダモ	1・1	+	ウリハダカエデ	1・1	1・2		
	オオカメノキ		2・2	ハウチワカエデ	1・1	+		
植生調査区内に根元がある	ツタウルシ		1・1	オオバクロモジ	+	2・2		
	ハイイヌツゲ		1・1	ブナ		1・1		
	シノブカグマ		+	オオカメノキ		1・1		
	ヒメアオキ		+	ヤマウルシ		+		
	ユキザサ		+	リョウブ		+		
	オニゼンマイ		+	シノブカグマ		+		
	ウリハダカエデ		+	ヒメアオキ		+		
	ハイイヌガヤ		+	ミズナラ		+		
	コマユミ		+	ユキザサ		+		
	イワガラミ		+	ツタウルシ		+		
	ツルシキミ		+					
	ツルアジサイ		+					
	ブナ		+					
	コシアブラ		+					
	ヤマウルシ		+					
	イタヤカエデ		+					
ハクウンボク		+						
植生調査区外の特記種	小円：オオバスノキ、マンサク、ウスバサイシン							
	中円：ウワミズザクラ、マルバマンサク、コミネカエデ、キクバドコロ、ミヤマガマズミ、コブシ、トチノキ、ホソバナライシダ							
	大円：エゾユズリハ、オシダ、ハナイカダ、ムラサキシキブ、ジュウモンジシダ、ホツツジ、ヒナウチワカエデ、ツルアリドオン							

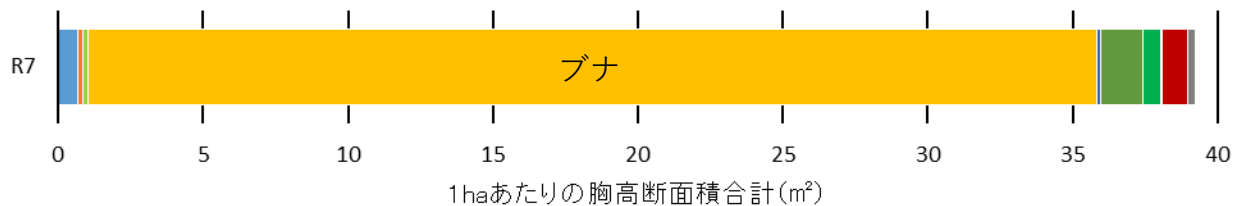
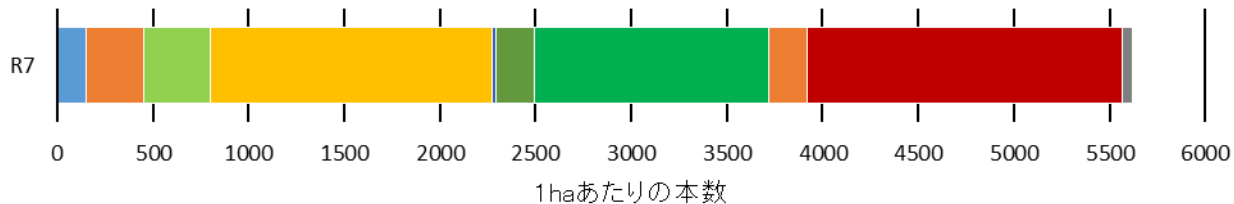
種名	H18	R7	種名	H18	R7
オニゼンマイ		○	ツタウルシ	○	○
ホソバナライシダ		・	ヤマウルシ	○	○
シノブカグマ	○	○	ヤマモミジ	○	
オシダ		・	ハウチワカエデ	○	○
ジュウモンジシダ		・	コミネカエデ		・
ハイイヌガヤ	○	○	イタヤカエデ	○	○
ウスバサイシン		・	ウリハダカエデ	○	○
コブシ		・	コハウチワカエデ	○	○
ホオノキ	○		ヒナウチワカエデ		・
オオバクロモジ	○	○	トチノキ		・
キクバドコロ		・	ツルシキミ		○
シオデ	○		ツルアジサイ		○
ジガバチソウ	○		イワガラミ	○	○
ユキザサ	○	○	ハクウンボク		○
ハスノハカズラ	○		コハクウンボク	○	
マンサク		・	リョウブ	○	○
マルバマンサク	○	・	ホツツジ	○	・
エゾユズリハ		・	オオバスノキ	○	・
フジ	○		ヒメアオキ	○	○
ウワミズザクラ	○	・	ツルアリドオン	○	・
ブナ	○	○	アオダモ		○
ミズナラ	○	○	ムラサキシキブ		・
アカシデ	○		ハナイカダ	○	・
コマユミ		○	ハイイヌツゲ	○	○
サワダツ	○		コシアブラ	○	○
ツリバナ	○		オオカメノキ	○	○
スミレサイシン	○		ミヤマガマズミ	○	・
合計	36	43			

年度	低木層		草本層	
	高さ	植被率	高さ	植被率
H18	4.0~6.0m	50%	0~1.0m	60%
R7 N区	1.0~4.0m	60%	0~1.0m	85%
R7 S区	1.0~6.0m	45%	0~1.0m	65%

○：低木層及び草本層における今回調査の林床調査区での確認種と、過年度調査での低木層と草本層での出現種
 ・：その他のプロット内確認種



森林詳細調査 P16



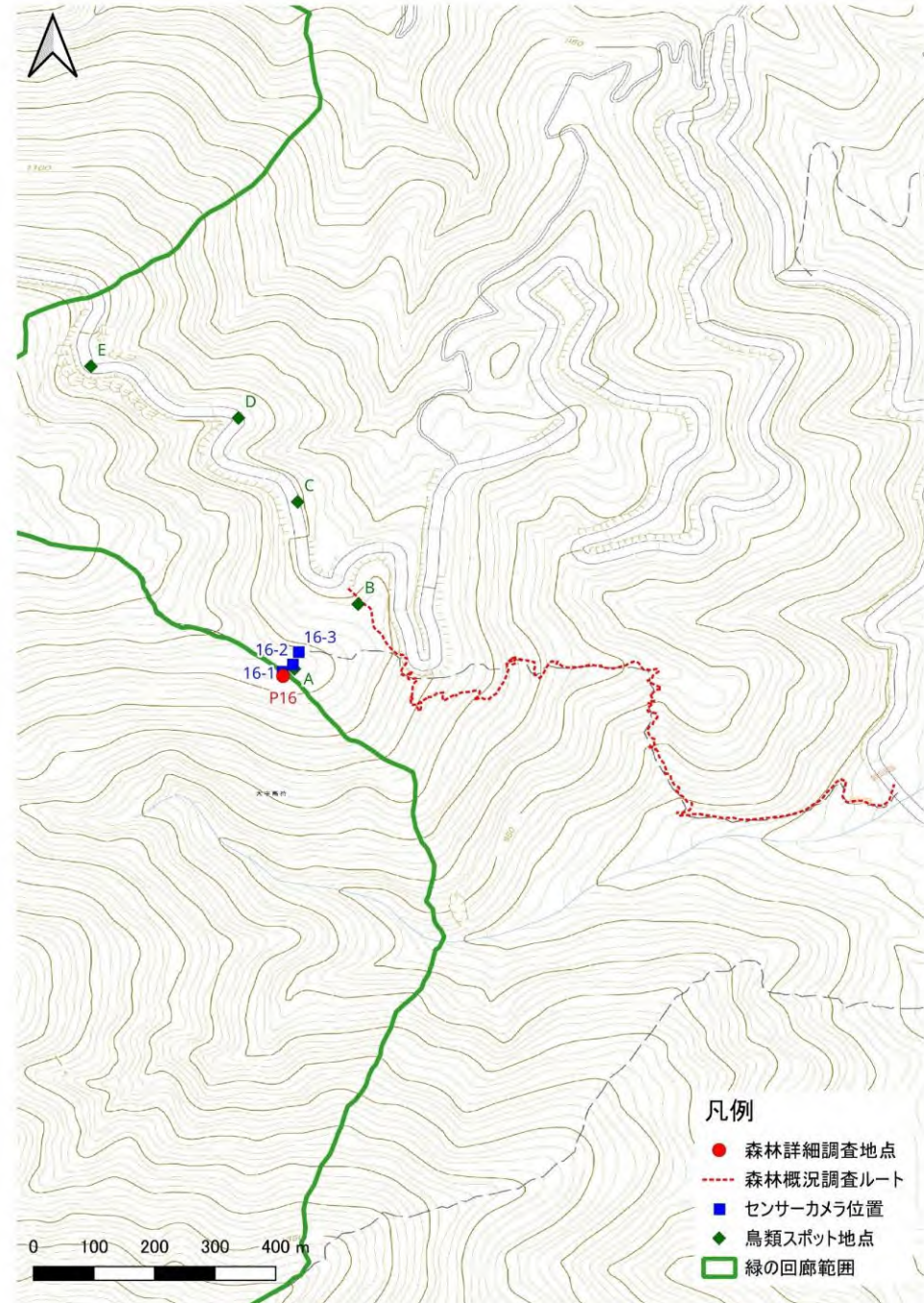
- タムシバ
- オオバクロモジ
- マルバマンサク
- ブナ
- ハウチワカエデ
- コハウチワカエデ
- リョウブ
- コシアブラ
- オオカメノキ
- 枯損木

地点	樹種	1haあたりの本数			1haあたり断面積(m ²)			剥皮率	
		参考H18	R7	増加率	参考H18	R7	増加率	参考H18	R7
P16	タムシバ	0	150	※	0.00	0.68	※	0%	0%
	オオバクロモジ	0	300	※	0.00	0.19	※	0%	0%
	マルバマンサク	0	350	※	0.00	0.16	※	0%	0%
	ブナ	112	1470	1213%	29.66	34.78	17%	0%	0%
	ハウチワカエデ	0	25	※	0.00	0.15	※	0%	0%
	コハウチワカエデ	0	200	※	0.00	1.47	※	0%	0%
	リョウブ	0	1225	※	0.00	0.60	※	0%	0%
	コシアブラ	0	200	※	0.00	0.04	※	0%	0%
	オオカメノキ	0	1650	※	0.00	0.88	※	0%	0%
	枯損木	0	50	※	0.00	0.28	※	-	-
	合計(枯損木除く)	112	5570	4873%	29.66	38.97	31%	0%	0%

25%を超える増加率

25%を超える減少率

※ 新規確認樹種



森林詳細調査 (下層植生)

P16

林床調査区	N 区				S 区				
	階層	低木層		草本層		低木層		草本層	
下層植生	高さ	1.0~6.0	m	0.0~1.0	m	1.0~3.5	m	0.0~1.0	m
	植被率	40	%	95	%	70	%	95	%
	優占種	オオカメノキ		チシマザサ		オオカメノキ		チシマザサ	
	植物種	和名	被度・群度		被度・群度				
			低木層	草本層	低木層	草本層			
	低木層	オオカメノキ	1・2	+	オオカメノキ	3・3	+		
	草本層	リョウブ	1・2	+・2	リョウブ	2・2	1・2		
	着生植物	オオバクロモジ	1・1	1・1	オオバクロモジ	+	+・2		
		ブナ	1・1	+	コハウチワカエデ	+	+		
	植生調査区内に根元がある	チシマザサ		4・4	マルバマンサク	+			
エゾユズリハ			3・3	チシマザサ		4・4			
オオバスノキ			1・2	エゾユズリハ		1・1			
ツルシキミ			+・2	オオバスノキ		+・2			
ヤマウルシ			+・2	ツルシキミ		+			
ホツツジ			+・2	ツルアリドオシ		+			
ツルアリドオシ			+	アカミノイヌツゲ		+			
コシアブラ			+	ハイイヌツゲ		+			
ハウチワカエデ			+	ブナ		+			
アカミノイヌツゲ			+	ハナヒリノキ		+			
植生調査区外の特記種	小円: ウラジロヨウラク、ユキザサ								
	中円: タムシバ、ナナカマド、ヤマアジサイ、シシガシラ、イワナシ、マイヅルソウ、オクノカンスゲ								
大円: コミネカエデ、シノブカグマ、ヒマラヤスギ、ノリウツギ、トウゲシバ、ミヤマガマズミ、アズキナシ									

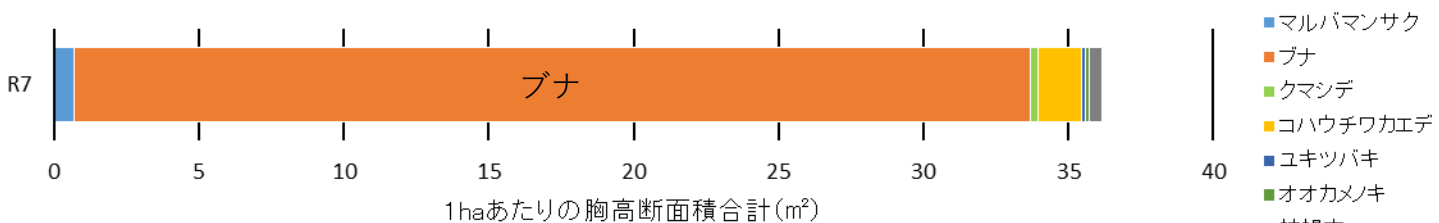
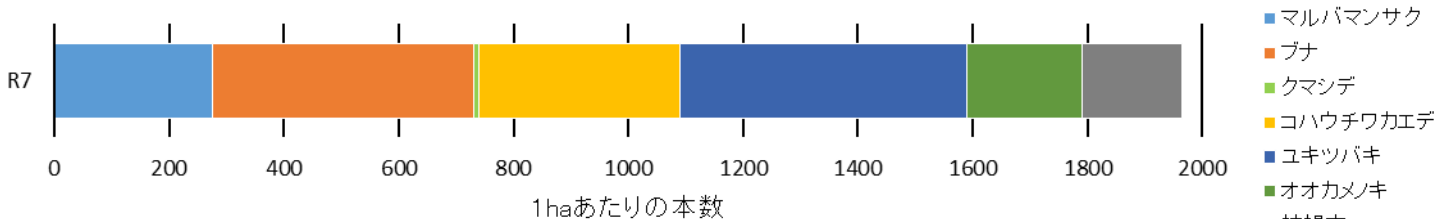
種名	H18	R7	種名	H18	R7
トウゲシバ	○	・	コミネカエデ	○	・
ヤマソテツ	○		ウリハダカエデ	○	
ハリガネワラビ	○		コハウチワカエデ	○	○
シシガシラ		・	ミネカエデ	○	
シノブカグマ	○	・	ツルシキミ	○	○
ヒマラヤスギ		・	ノリウツギ	○	・
タムシバ	○	・	ヤマアジサイ		・
オオバクロモジ	○	○	サワフタギ	○	
ツクバネソウ	○		イワウチワ	○	
チゴユリ	○		リョウブ	○	○
タケシマラン	○		ホツツジ	○	○
マイヅルソウ	○	・	イワナシ		・
ユキザサ	○	・	ハナヒリノキ	○	○
オクノカンスゲ	○	・	ヨウラクツツジ	○	
チシマザサ	○	○	ウラジロヨウラク	○	・
マルバマンサク	○	○	オオバスノキ	○	○
エゾユズリハ	○	○	ツルアリドオシ	○	○
アズキナシ	○	・	イヌツゲ	○	
ウワミズザクラ	○		ハイイヌツゲ		○
ナナカマド	○	・	アカミノイヌツゲ	○	○
ブナ	○	○	コシアブラ	○	○
ツタウルシ	○		オオカメノキ	○	○
ヤマウルシ	○	○	ミヤマガマズミ	○	・
ハウチワカエデ	○	○	総計	42	34

年度	低木層		草本層	
	高さ	植被率	高さ	植被率
H18	1.5~7.0m	70%	0~1.0m	85%
R7 N区	1.0~6.0m	40%	0~1.0m	95%
R7 S区	1.0~3.5m	70%	0~1.0m	95%

○: 低木層及び草本層における今回調査の林床調査区での確認種と、過年度調査での低木層と草本層での出現種
 ・: その他のプロット内確認種

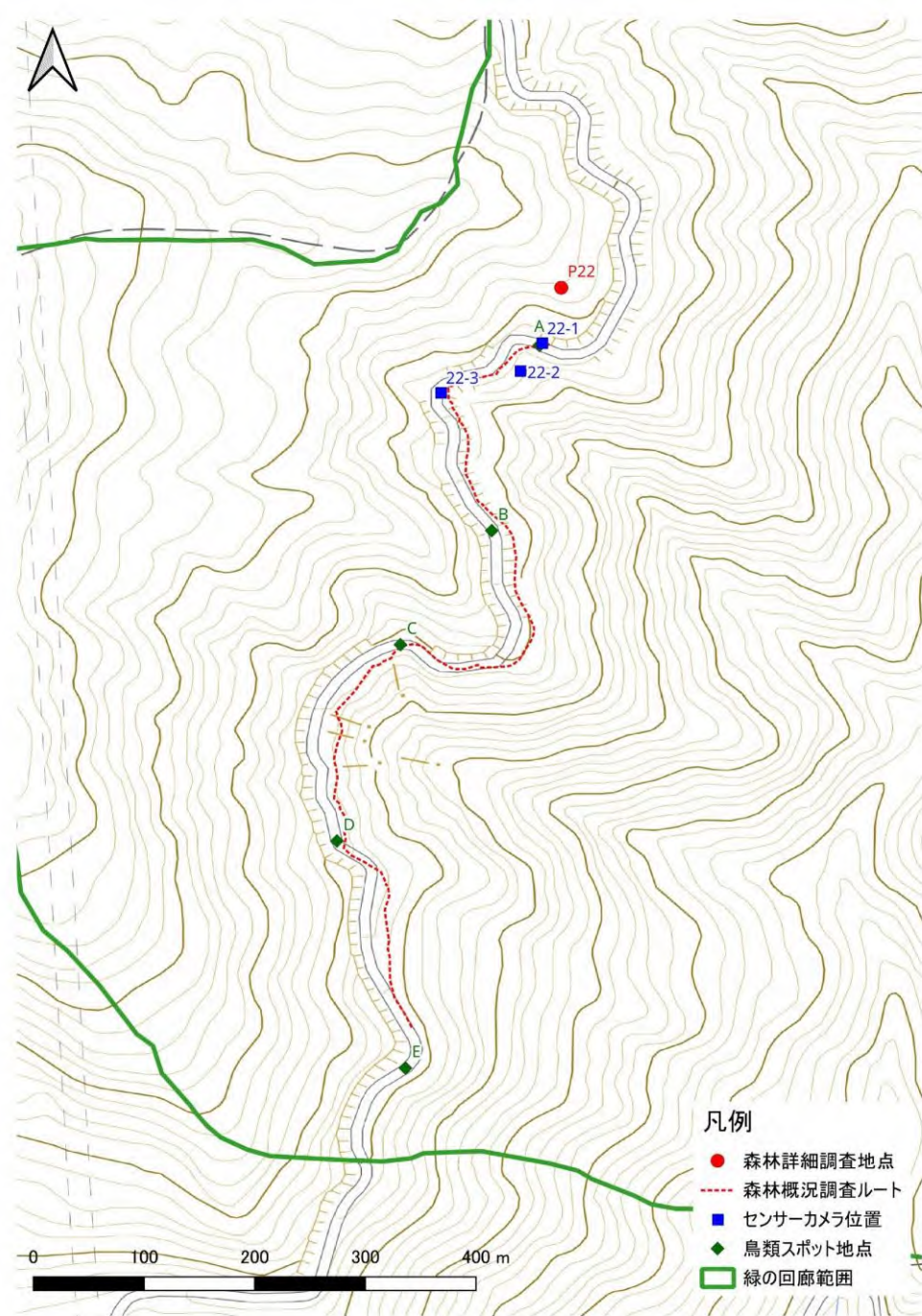


森林詳細調査 P22



地点	樹種	1haあたりの本数			1haあたり断面積(m ²)			剥皮率	
		参考H19	R7	増加率	参考H19	R7	増加率	参考H19	R7
P22	マルバマンサク	0	275	※	0.00	0.71	※	0%	0%
	ブナ	429	455	6%	20.61	32.97	60%	0%	0%
	クマシデ	0	10	※	0.00	0.27	※	0%	0%
	ハウチワカエデ	10	0	-100%	0.00	0.00	0%	0%	0%
	コハウチワカエデ	48	350	635%	0.00	1.49	※	0%	0%
	ユキツバキ	0	500	※	0.00	0.13	※	0%	0%
	オオカメノキ	0	200	※	0.00	0.14	※	0%	0%
	枯損木	0	175	※	0.00	0.45	※	-	-
合計(枯損木除く)	486	1790	269%	20.61	35.72	73%	0%	0%	

25%を超える増加率 25%を超える減少率 ※ 新規確認樹種



森林詳細調査 (下層植生)

P22

林床調査区	N 区				S 区					
	階層	低木層		草本層		階層	低木層		草本層	
下層植生	高さ	1.5~3.0	m	0.0~1.5	m	1.5~3.0	m	0.0~1.5	m	
	植被率	95	%	60	%	90	%	70	%	
優占種	植物種	チシマザサ		ユキツバキ		チシマザサ		ユキツバキ		
	和名			被度・群度				被度・群度		
低木層	草本層	低木層		草本層		低木層		草本層		
		着生植物	チシマザサ	4・4	1・1	チシマザサ	4・4	2・2		
植生調査区内に根元がある	着生植物	オオカメノキ	2・2	+	コハウチワカエデ	2・2	+			
		リョウブ	2・2		オオカメノキ	1・1	1・1			
植生調査区内に根元がある	着生植物	ユキツバキ	+	3・3	ユキツバキ		3・3			
		ヤマソテツ		1・2	オオバクロモジ		2・2			
植生調査区内に根元がある	着生植物	ヒメアオキ		1・2	ツルアリドオシ		1・2			
		ツルアリドオシ		1・2	タンナサワフタギ		1・1			
植生調査区内に根元がある	着生植物	ミヤマカンスゲ		1・1	エゾユズリハ		1・1			
		シシガシラ		+	ヒメモチ		1・1			
植生調査区内に根元がある	着生植物	イワガラミ		+	ヒメアオキ		1・1			
		タンナサワフタギ		+	アオダモ		1・1			
植生調査区内に根元がある	着生植物	ハイヌツゲ		+	ヒメカンアオイ		+・2			
		トウゲシバ		+	ショウジョウバカマ		+・2			
植生調査区内に根元がある	着生植物	ヒメカンアオイ		+	コシアブラ		+			
		イワウチワ		+	ミヤマカンスゲ		+			
植生調査区内に根元がある	着生植物	エゾユズリハ		+	シシガシラ		+			
					アクシバ		+			
植生調査区内に根元がある	着生植物				ウリハダカエデ		+			
					アズキナシ		+			
植生調査区内に根元がある	着生植物				ヤマソテツ		+			
					リョウブ		+			
植生調査区内に根元がある	着生植物				ブナ		+			
					イワガラミ		+			
植生調査区内に根元がある	着生植物				ヤブコウジ		+			
植生調査区外の特記種	特記種	小円: ナンゴクナライシダ、ヤマウルシ、マルバマンサク								
		中円: ユキグニミツバツツジ、コヨウラクツツジ、ホツツジ、ハナヒリノキ、ツルリンドウ、ネジキ、ヤドリギ、ウラジロヨウラク、アカミノイヌツゲ、サカゲイノデ								
植生調査区外の特記種	特記種	大円: ホンシャクナゲ、ツルシキミ、コミネカエデ、ヒサカキ、クマシデ、シノブカグマ、ミヤマシグレ、ミツバオウレン、シナノキ、ミズナラ、ツノハシバミ、ミヤマガマズミ、タムシバ、ムラサキシキブ、ハイヌツゲ								

種名	H19	R7
トウゲシバ		○
ゼンマイ	○	
ヤマソテツ	○	○
シシガシラ	○	○
ナンゴクナライシダ		・
シノブカグマ		・
サカゲイノデ		・
ハイヌツゲ	○	・
ヒメカンアオイ		○
タムシバ	○	・
オオバクロモジ	○	○
ショウジョウバカマ	○	○
チゴユリ	○	
オクノカンスゲ	○	
ミヤマカンスゲ	○	○
チシマザサ	○	○
ミツバオウレン	○	・
マルバマンサク	○	・
エゾユズリハ	○	○
アズキナシ		○
ウワミズザクラ	○	
ナナカマド	○	
ブナ	○	○
ミズナラ	○	・
クマシデ		・
ツノハシバミ		・
ツタウルシ	○	
ヤマウルシ	○	・
ヤマモミジ	○	
ハウチワカエデ	○	
コミネカエデ		・
ウリハダカエデ	○	○
コハウチワカエデ	○	○
ツルシキミ	○	・

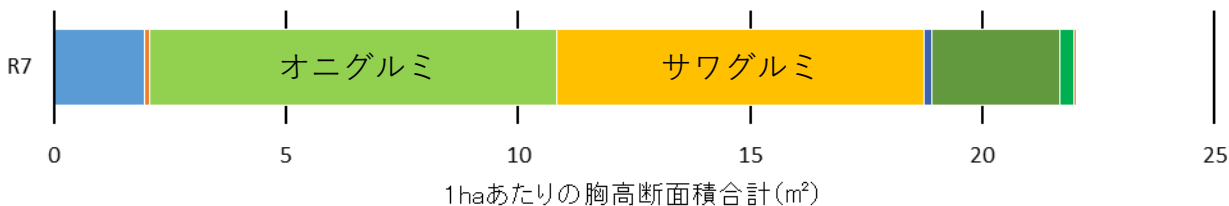
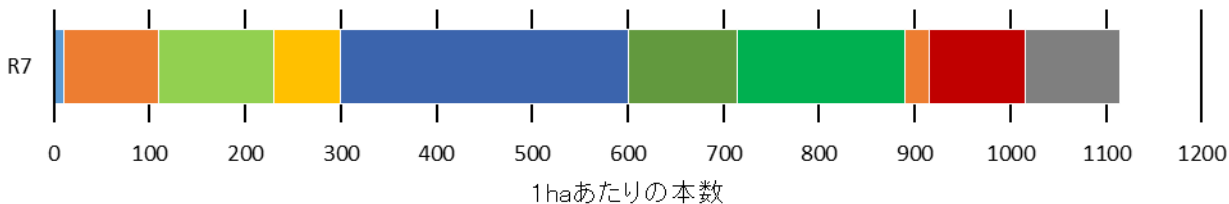
種名	H19	R7
ニガキ	○	
シナノキ		・
ヤドリギ		・
コアジサイ	○	
イワガラミ	○	○
ヒサカキ		・
ヤブコウジ	○	○
ユキツバキ	○	○
タンナサワフタギ	○	○
イワウチワ	○	○
リョウブ	○	○
ホツツジ		・
ハナヒリノキ		・
ネジキ		・
ホンシャクナゲ		・
ヤマツツジ	○	
ユキグニミツバツツジ	○	・
ウラジロヨウラク	○	・
コヨウラクツツジ		・
ウスノキ	○	
アクシバ		○
ヒメアオキ	○	○
ツルアリドオシ	○	○
ツルリンドウ		・
アオダモ		○
ムラサキシキブ		・
ハイヌツゲ		○
ヒメモチ		○
アオハダ	○	
アカミノイヌツゲ		・
コシアブラ	○	○
オオカメノキ	○	○
ミヤマシグレ		・
ミヤマガマズミ		・
総計	42	55

年度	低木層		草本層	
	高さ	植被率	高さ	植被率
H19	1.0~7.0m	90%	0~0.7m	60%
R7 N区	1.5~3.0m	95%	0~1.5m	60%
R7 S区	1.5~3.0m	90%	0~1.5m	70%

○: 低木層及び草本層における今回調査の林床調査区での確認種と、過年度調査での低木層と草本層での出現種
 ・: その他のプロット内確認種



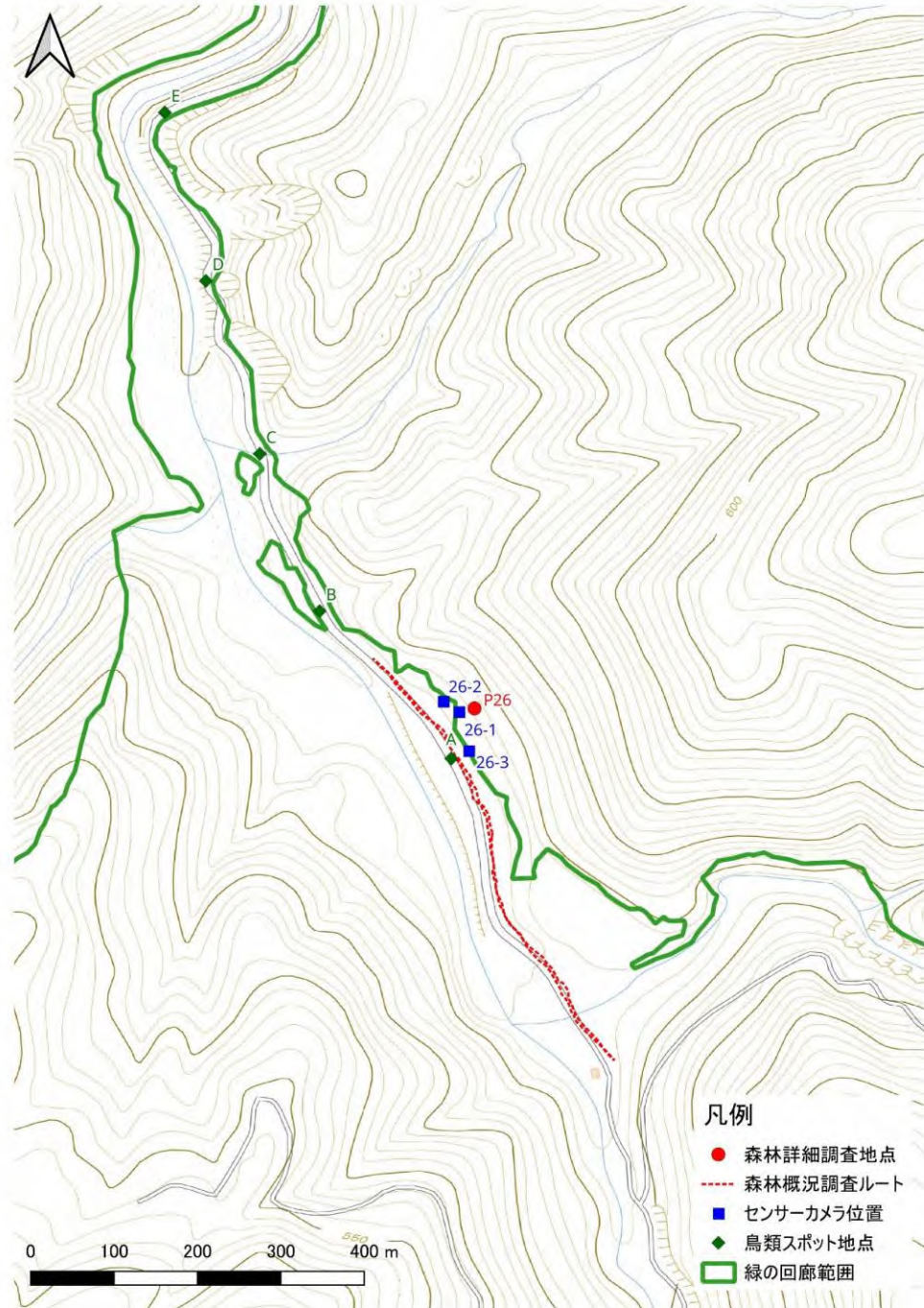
森林詳細調査 P26



- ケヤキ
- エゾエノキ
- オニグルミ
- サワグルミ
- コマユミ
- ミズキ
- オクノサワフタギ
- ミヤマアオダモ
- ケナシヤブデマリ
- 枯損木

地点	樹種	1haあたりの本数			1haあたり断面積(m ²)			剥皮率	
		参考H20	R7	増加率	参考H20	R7	増加率	参考H20	R7
P26	フジ	22	0	-100%	0.00	0.00	0%	0%	0%
	ケヤキ	222	10	-96%	10.01	1.93	-81%	0%	0%
	エゾエノキ	0	100	※	0.00	0.11	※	0%	0%
	オニグルミ	133	120	-10%	9.92	8.77	-12%	0%	0%
	サワグルミ	0	70	※	0.00	7.94	※	0%	0%
	コマユミ	0	300	※	0.00	0.15	※	0%	0%
	ミズキ	89	115	29%	3.86	2.78	-28%	0%	0%
	オクノサワフタギ	0	175	※	0.00	0.28	※	0%	0%
	ミヤマアオダモ	0	25	※	0.00	0.08	※	0%	0%
	ケナシヤブデマリ	0	100	※	0.00	0.01	※	0%	0%
	枯損木	0	100	※	0.00	0.03	※	-	-
	合計(枯損木除く)	467	1015	118%	23.79	22.05	-7%	0%	0%

25%を超える増加率 25%を超える減少率 ※ 新規確認樹種



森林詳細調査（下層植生）

P26

林床調査区	N 区				S 区					
	階層	低木層		草本層		低木層		草本層		
下層植生	高さ	1.5~3.0	m	0.0~1.5	m	1.5~3.0	m	0.0~1.5	m	
	植被率	70	%	40	%	95	%	50	%	
優占種	ユキツバキ	ジュウモンジシダ		チシマザサ		ジュウモンジシダ				
	植物種	被度・群度		被度・群度		被度・群度		被度・群度		
（低木層 草本層 着生植物）	和名	低木層		草本層		和名	低木層		草本層	
	ユキツバキ	2・2	1・1	チシマザサ	5・5	+				
（植生調査 区内に根 元がある）	マタタビ	2・2	1・1	フジ	+	1・2				
	オクノサワフタギ	2・2	+	マタタビ	+	1・1				
	チシマザサ	2・2	+	ジュウモンジシダ		2・2				
	オニドコロ	1・1		ミヤマカンスゲ		2・2				
	ジュウモンジシダ		1・2	アキチヨウジ		1・2				
	アキチヨウジ		1・2	ゴヨウアケビ		1・1				
	スゲsp.		1・2	ウマノミツバ		++2				
	ゴヨウアケビ		1・1	マユミ		+				
	ハイヌガヤ		1・1	ユキツバキ		+				
	ヒメアオキ		1・1	オニグルミ		+				
	サカゲイノデ		1・1	スマレサイシン		+				
	アキギリ		1・1	シオデ		+				
	ウマノミツバ		1・1	モミジガサ		+				
	スマレサイシン		+	テンナンショウsp.		+				
	コチヂミザサ		+	ハイヌガヤ		+				
	ミヤマカンスゲ		+	コチヂミザサ		+				
	サンショウ		+	ウリノキ		+				
	ノササゲ		+	ヤブデマリ		+				
	モミジガサ		+	ウチワドコロ		+				
	ウチワドコロ		+	オニドコロ		+				
	ノブキ		+	オオタチツボスミレ		+				
	ケナシヤブデマリ		+							
オオタチツボスミレ		+								
ケアオダモ		+								
テンナンショウsp.		+								
植生調査区外 の特記種	小円：エゾエノキ、ミズヒキ、ノイバラ、コハウチワカエデ									
	中円：ヤマグワ、カントウマユミ、ツルマサキ、クルマムグラ、ミヤマイボタ、ケヤキ、イヌワラビ、ミゾシダ、サイハイラン									
	大円：ゼンマイ、キクバドコロ、ツルアジサイ、ハナイカダ、ナルコユリ、イヌツゲ、エゾノクロウメモドキ									

種名	H20	R7	種名	H20	R7
ゼンマイ	○	・	ツルマサキ	○	・
ミゾシダ	○	・	マユミ		○
イヌワラビ	○	・	カントウマユミ		○
リョウメンシダ	○		オオタチツボスミレ	○	○
サカゲイノデ		○	スマレサイシン	○	○
ジュウモンジシダ	○	○	コハウチワカエデ		・
ハイヌガヤ	○	○	サンショウ	○	○
テンナンショウsp.		○	ミズヒキ	○	・
ヤマノイモ	○		ウリノキ		○
ウチワドコロ		○	ミズキ	○	
キクバドコロ		・	ツルアジサイ		・
オニドコロ	○	○	ユキツバキ	○	○
シオデ		○	ナツツバキ	○	
サイハイラン		・	サワフタギ	○	
ナルコユリ		・	オクノサワフタギ		○
スゲsp.	○	○	マタタビ	○	○
ミヤマカンスゲ		○	ヒメアオキ	○	○
タガネソウ	○		クルマムグラ		・
コチヂミザサ	○	○	ヤエムグラ	○	
チシマザサ	○	○	ケアオダモ		○
ゴヨウアケビ		○	ミヤマイボタ		・
アケビ	○		ヒキオコシsp.	○	
ミツバアケビ	○		アキチヨウジ		○
ノササゲ		○	アキギリ	○	○
フジ	○	○	ハナイカダ		・
エゾノクロウメモドキ		・	イヌツゲ		・
ケヤキ	○	・	ノブキ		○
エゾエノキ		・	モミジガサ		○
ヤマグワ		・	ウマノミツバ	○	○
ノイバラ		・	ガマズミ	○	
オニグルミ	○	○	ケナシヤブデマリ		○
コマユミ	○		ヤブデマリ		○
合計	34	52			

年度	低木層		草本層	
	高さ	植被率	高さ	植被率
H20	0.8~1.5m	80%	0~0.8m	20%
R7 N区	1.5~3.0m	70%	0~1.5m	40%
R7 S区	1.5~3.0m	95%	0~1.5m	50%

○：低木層及び草本層における今回調査の林床調査区での確認種と、過年度調査での低木層と草本層での出現種
 ・：その他のプロット内確認種



森林概況調査

■ 林分の状況

- ・ 老齢段階の天然林
- ・ 下層植生は豊か

■ 被害状況

- ・ P16やP26で風倒害（過年度より確認）が単木的にある程度

■ 動物情報

- ・ ニホンジカの食痕が林道沿いや登山道沿いに散見され、林内で剥皮も確認
- ・ ツキノワグマの糞、足跡が林道や林内で確認され、P7の林道沿いには剥皮を複数確認
- ・ カモシカの生体（親子）（P15）を目撃
- ・ その他、ニホンザル、イノシシ、テン、キツネ、ヒミズ、ニホンリス、ネズミ類を確認

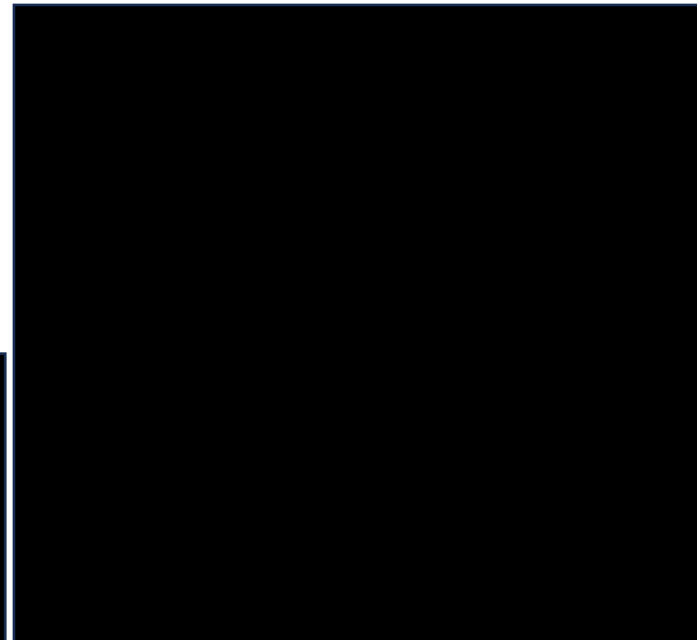
■ その他（重要種）



ニホンジカの剥皮



ツキノワグマの剥皮



セキヤノアキチヨウジ

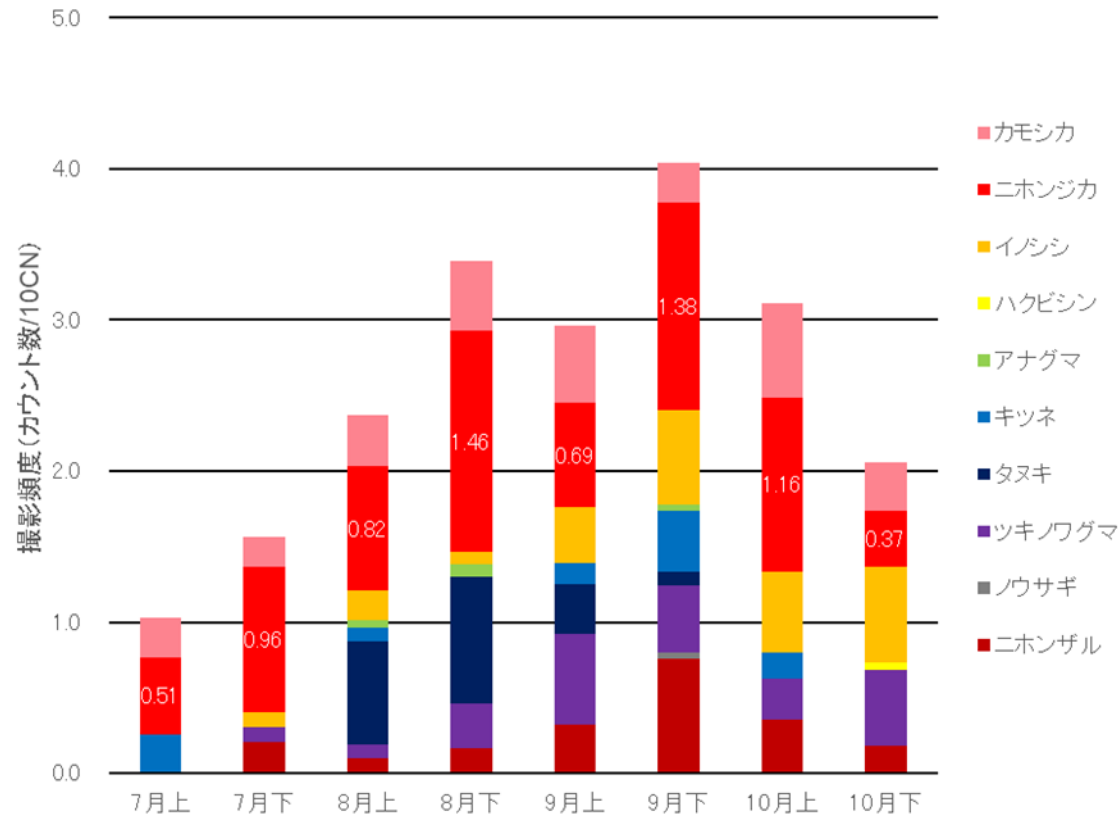
動物調査（哺乳類）

自動撮影調査

P7				P22			
	カメラ7-1 林床状況より設置木変更	カメラ7-2 林床状況より設置位置変更 (林道沿いに設置)	カメラ7-3 林床状況より設置位置変更 (林道沿いに設置)		カメラ22-1 過年度設置木に設置	カメラ22-2 林床状況より設置木変更	カメラ22-3 過年度設置木が折れており、設置木変更
					P26		
カメラ15-1 過年度設置木に設置	カメラ15-2 林床状況より地点変更	カメラ15-3 過年度設置木に設置	カメラ26-1 過年度設置木に設置	カメラ26-2 林床状況より設置位置変更 (湿地の獣道沿いに設置)		カメラ26-3 林床状況より設置位置変更 (谷川沿いに設置)	
P16							
	カメラ16-1 過年度設置木に設置	カメラ16-2 過年度設置木に設置	カメラ16-3 過年度設置木に設置				

動物調査（哺乳類）

撮影結果



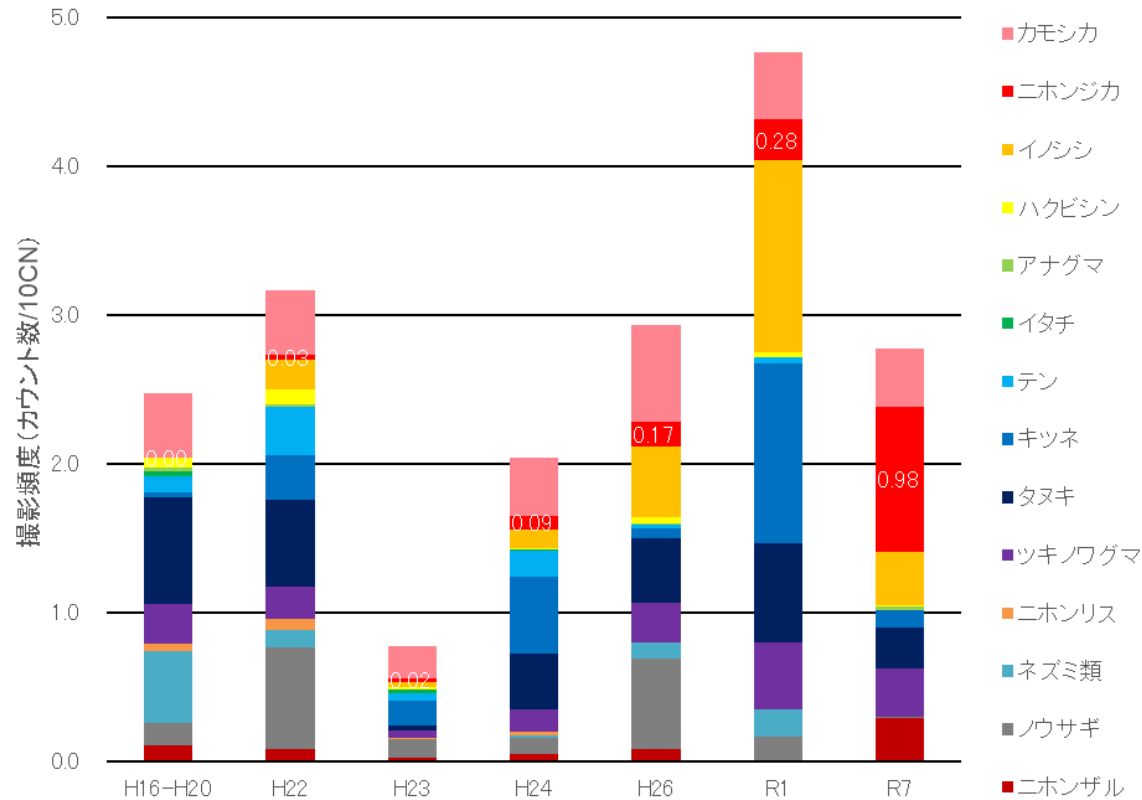
※表中の数字はニホンジカの撮影頻度

撮影月		7月上	7月下	8月上	8月下	9月上	9月下	10月上	10月下
撮影日数		39	198	207	239	216	225	225	219
カウント数	ニホンザル	0	4	2	4	7	17	8	4
	ノウサギ	0	0	0	0	0	1	0	0
	ツキノワグマ	0	2	2	7	13	10	6	11
	タヌキ	0	0	14	20	7	2	0	0
	キツネ	1	0	2	0	3	9	4	0
	アナグマ	0	0	1	2	0	1	0	0
	ハクビシン	0	0	0	0	0	0	0	1
	イノシシ	0	2	4	2	8	14	12	14
	ニホンジカ	2	19	17	35	15	31	26	8
カモシカ	1	4	7	11	11	6	14	7	
撮影頻度 (カウント数/撮影日数 × 10)	ニホンザル	0.00	0.20	0.10	0.17	0.32	0.76	0.36	0.18
	ノウサギ	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.04	0.00	0.00
	ツキノワグマ	0.00	0.10	0.10	0.29	0.60	0.44	0.27	0.50
	タヌキ	0.00	0.00	0.68	0.84	0.32	0.09	0.00	0.00
	キツネ	0.26	0.00	0.10	0.00	0.14	0.40	0.18	0.00
	アナグマ	0.00	0.00	0.05	0.08	0.00	0.04	0.00	0.00
	ハクビシン	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.05
	イノシシ	0.00	0.10	0.19	0.08	0.37	0.62	0.53	0.64
	ニホンジカ	0.51	0.96	0.82	1.46	0.69	1.38	1.16	0.37
カモシカ	0.26	0.20	0.34	0.46	0.51	0.27	0.62	0.32	

動物調査（哺乳類）

過年度との比較

調査年度	H16 2004	H18 2006	H19 2007	H20 2008	H22 2010	H23 2011	H24 2012	H26 2014	R1 2019	R7 2025
P7	○				○	○	○	○	○	○
P15		○			○	○	○	○	○	○
P16		○			○	○	○	○	○	○
P22			○		○	○	○	○	○	○
P26				○	○	○	○	○	○	○



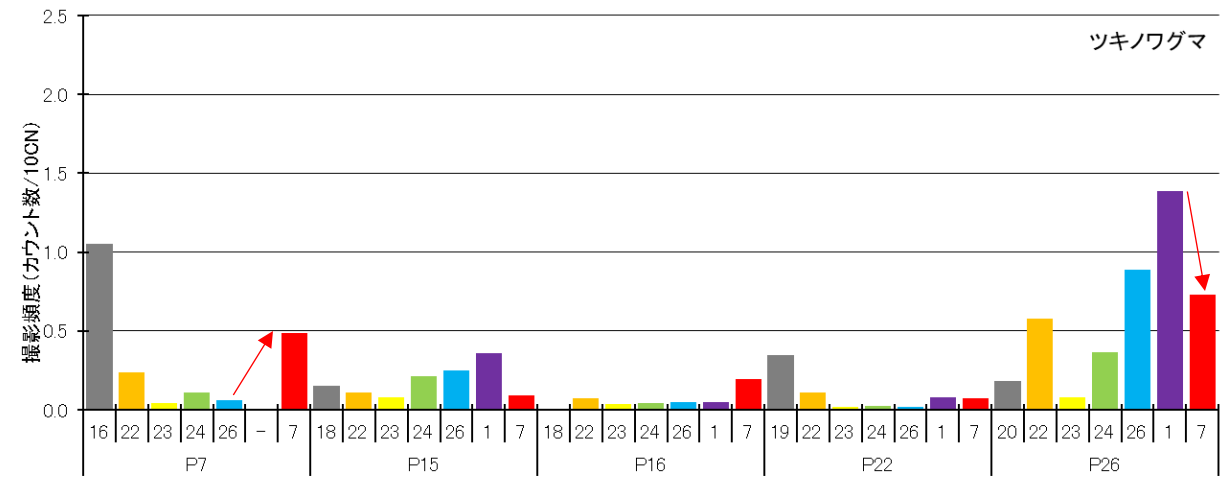
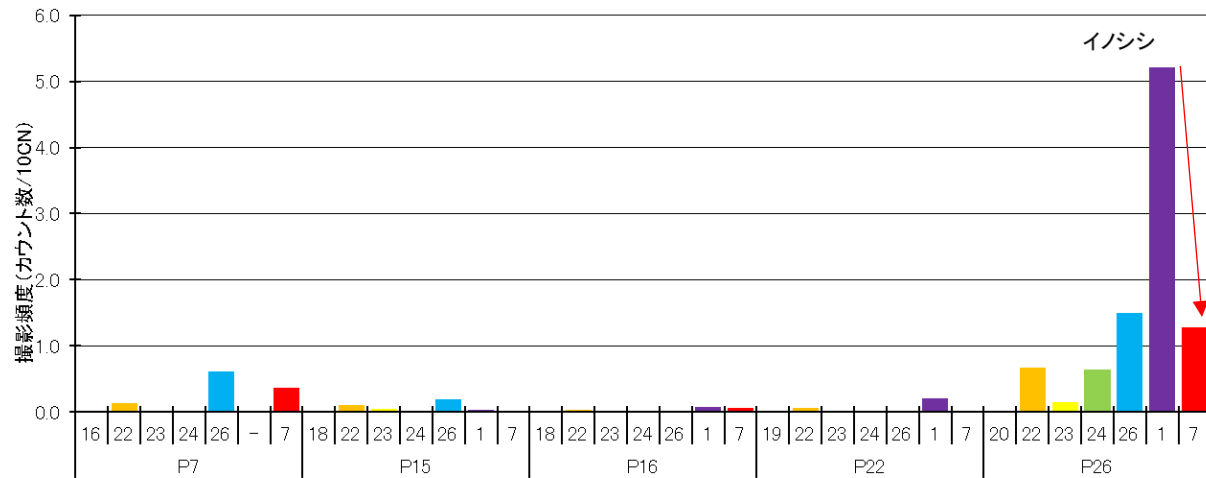
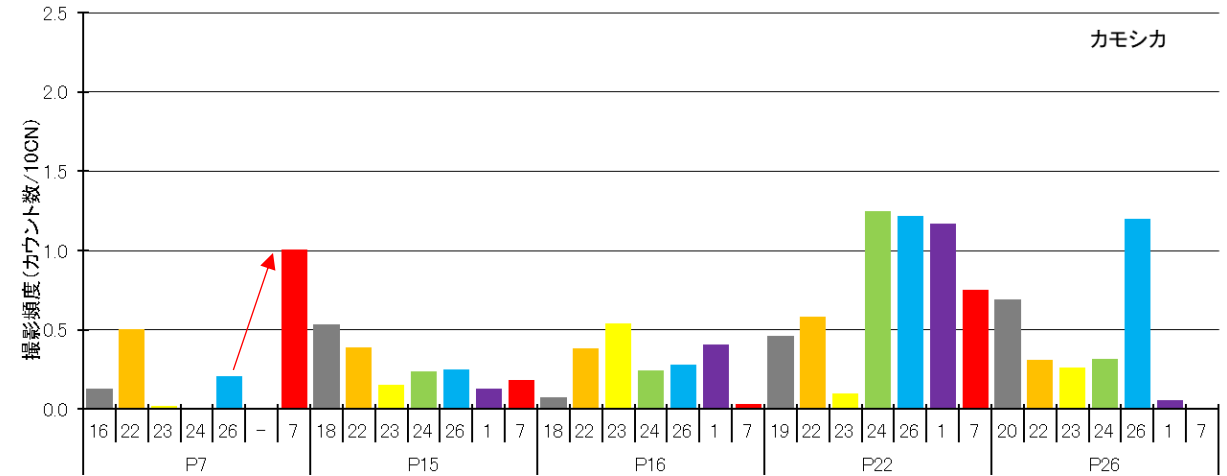
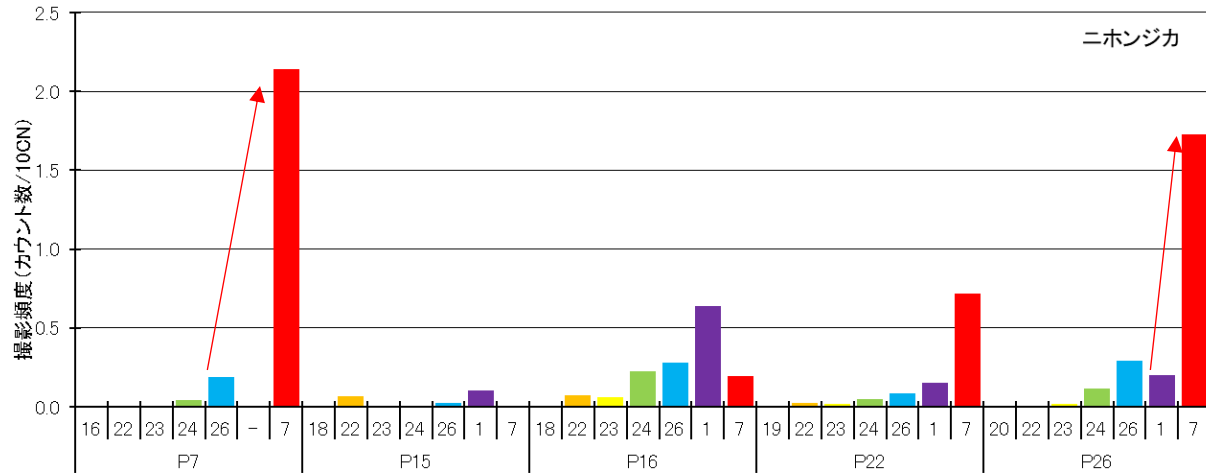
※表中の数字はニホンジカの撮影頻度

調査年度		H16-H20	H22	H23	H24	H26	R1	R7
撮影日数		642	2130	2559	2162	2349	1526	1568
カウ ント 数	ニホンザル	7	18	7	11	20	1	46
	ノウサギ	10	146	31	24	143	25	1
	ネズミ類	31	24	0	3	26	28	0
	ニホンリス	3	16	3	5	0	0	0
	ツキノワグマ	17	46	13	33	61	68	51
	タヌキ	46	124	8	81	103	102	43
	キツネ	2	64	44	111	15	184	19
	テン	7	69	12	39	7	7	0
	イタチ	2	1	6	2	0	0	0
	アナグマ	2	4	0	0	2	0	4
	ハクビシン	4	21	5	1	9	5	1
	イノシシ	0	42	9	28	111	196	56
	ニホンジカ	0	7	5	19	40	42	153
カモシカ	28	93	55	85	151	69	61	

調査年度		H16-H20	H22	H23	H24	H26	R1	R7
撮影頻度 (カウント数/撮影日数×10)								
ニホンザル		0.11	0.08	0.03	0.05	0.09	0.01	0.29
ノウサギ		0.16	0.69	0.12	0.11	0.61	0.16	0.01
ネズミ類		0.48	0.11	0.00	0.01	0.11	0.18	0.00
ニホンリス		0.05	0.08	0.01	0.02	0.00	0.00	0.00
ツキノワグマ		0.26	0.22	0.05	0.15	0.26	0.45	0.33
タヌキ		0.72	0.58	0.03	0.37	0.44	0.67	0.27
キツネ		0.03	0.30	0.17	0.51	0.06	1.21	0.12
テン		0.11	0.32	0.05	0.18	0.03	0.05	0.00
イタチ		0.03	0.00	0.02	0.01	0.00	0.00	0.00
アナグマ		0.03	0.02	0.00	0.00	0.01	0.00	0.03
ハクビシン		0.06	0.10	0.02	0.00	0.04	0.03	0.01
イノシシ		0.00	0.20	0.04	0.13	0.47	1.28	0.36
ニホンジカ		0.00	0.03	0.02	0.09	0.17	0.28	0.98
カモシカ		0.44	0.44	0.21	0.39	0.64	0.45	0.39

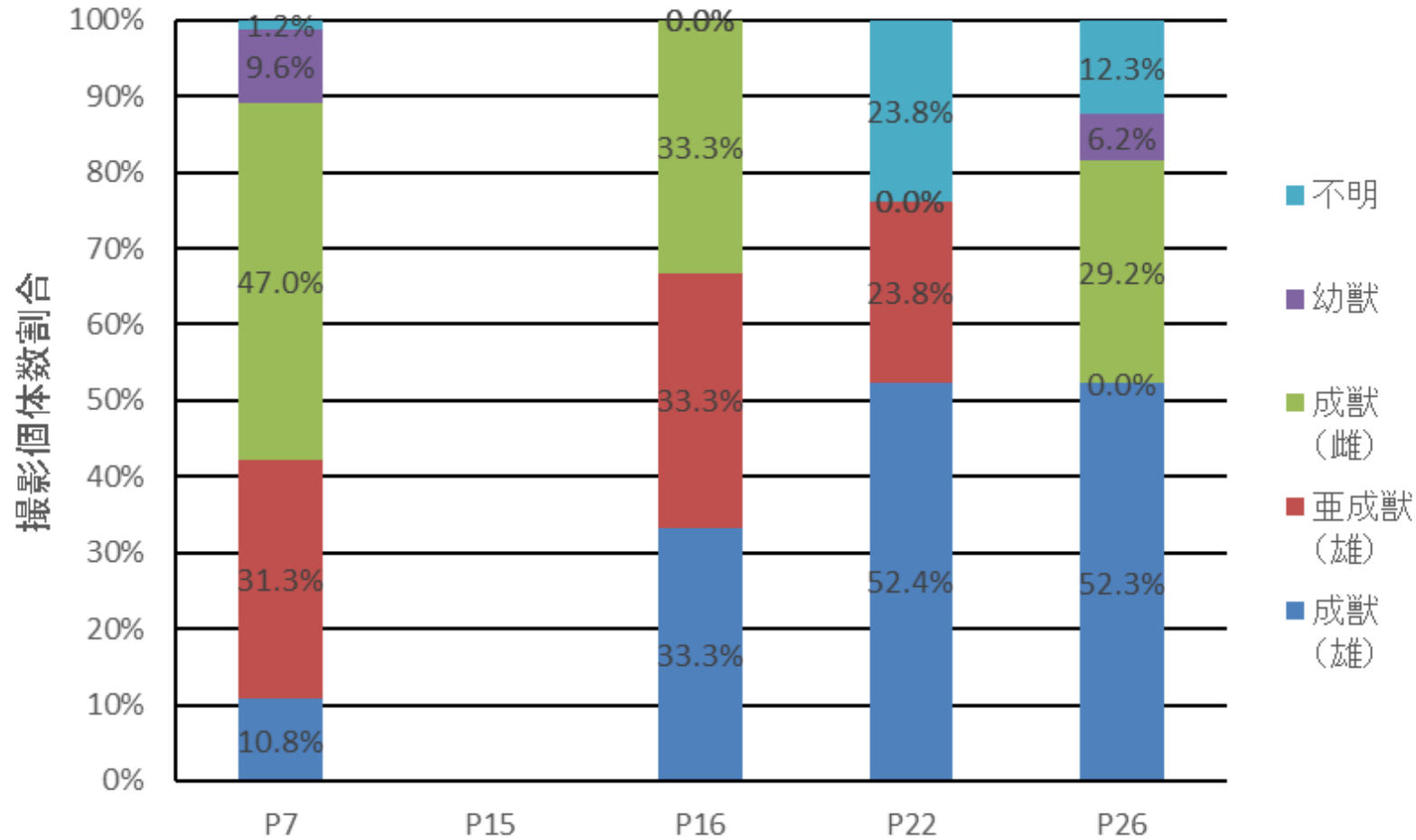
動物調査（哺乳類）

過年度との比較



動物調査（哺乳類）

ニホンジカの年齢・性比



地点	カメラ No	撮影個体数(頭)				
		成獣(雄)	亜成獣(雄)	成獣(雌)	幼獣	不明
P7	7-1	1	3	7	2	0
	7-2	6	14	17	2	0
	7-3	2	9	15	4	1
合計		9	26	39	8	1
P15	15-1	0	0	0	0	0
	15-2	0	0	0	0	0
	15-3	0	0	0	0	0
合計		0	0	0	0	0
P16	16-1	0	2	0	0	0
	16-2	2	0	0	0	0
	16-3	0	0	2	0	0
合計		2	2	2	0	0
P22	22-1	4	2	0	0	0
	22-2	5	1	0	0	3
	22-3	2	2	0	0	2
合計		11	5	0	0	5
P26	26-1	3	0	2	1	0
	26-2	9	0	6	0	3
	26-3	22	0	11	3	5
合計		34	0	19	4	8

動物調査（哺乳類）

主に撮影された哺乳類



Bushnell 021°C ● 08-15-2025 00:19:19
ニホンジカ（成獣雄）（P26）



Bushnell 017°C ● 09-18-2025 22:18:55
ニホンジカ（亜成獣雄）（P7）



Bushnell 017°C ○ 09-23-2025 02:40:48
イノシシ（P26）



Bushnell 016°C ○ 09-21-2025 23:10:28
ツキノワグマ（P26）



Bushnell 017°C ● 09-19-2025 17:32:45
ニホンジカ（雌・幼獣）（P7）



Bushnell 016°C ● 10-15-2025 14:34:01
カモシカ（P22）



Bushnell 018°C ○ 09-24-2025 11:08:16
ニホンザル（P7）



Bushnell 022°C ○ 09-22-2025 13:52:49
キツネ（P7）

動物調査（鳥類） スポットセンサス法

■確認種 21科 45種（重要種 8科 9種）

No.	目	科	種	渡りの区分	7月					10月					総計	希少性					
					P7	P15	P16	P22	P26	合計	P7	P15	P16	P22		P26	合計	環境省	岐阜県	富山県	
1	キジ	キジ	コジュケイ	留鳥						0					移	0	0				
2			ヤマドリ	留鳥	移					0			1		1	1				NT	
3	カイツブリ	カイツブリ	カイツブリ	留鳥						0					2	2	2			(NT)	
4	ハト	ハト	キジバト	留鳥			1		5	3	9			1	2	3	12				
5			アオバト	留鳥	2	6		1	4	13			1	6	7	20				DD	
6	ペリカン	サギ	アオサギ	留鳥					1	1					0	1					
7	カッコウ	カッコウ	ホトトギス	夏鳥			3			2	5				0	5					
8	タカ	ミサゴ	ミサゴ	留鳥						移	0				0	0				NT	
9		タカ	トビ	留鳥			1			1					1	1	2				
10			ツミ	留鳥・漂鳥	移					0					0	0				DD	
11			ノスリ	漂鳥						0	2			1	3	3				VU	
12			クマタカ	留鳥	移					0		1			1	1				EN	
13	ブッポウソウ	カワセミ	アカショウビン	夏鳥						移	0				0	0				NT	
14	キツツキ	キツツキ	コゲラ	留鳥		1				1		1		1	1	3	4				
15			オオアカゲラ	留鳥	1					1					0	1				(DD)	
16			アカゲラ	留鳥						0	1	1			1	3	3				
17			アオゲラ	留鳥	1					1					1	1	2				
18	スズメ	サンショウクイ	サンショウクイ	夏鳥	移					0					0	0				VU	
19		カラス	カケス	留鳥	2	3	1		1	7		3		2	3	8	15				
20			ハシブトガラス	留鳥	移					0		2	5	2	2	11	11				
21		シジュウカラ	コガラ	留鳥						0	6	3	3		1	13	13				
22			ヤマガラ	留鳥		4		2		6					1	1	7				
23			ヒガラ	留鳥			1			1					1	1	2				
24			シジュウカラ	留鳥	1			2		3		2	1	1	3	7	10				
25		ヒヨドリ	ヒヨドリ	留鳥	9	17		16	26	68	7	74	2	6	89	157					
26		ウグイス	ウグイス	漂鳥	16	7	13	14	15	65	4	5	2	1	5	17	82				
27			ヤブサメ	夏鳥	3		1			4					0	4					
28		エナガ	エナガ	留鳥	移					0		13			11	24	24				
29		ムシクイ	メボソムシクイ上種	夏鳥・旅鳥						0		1			1	1					
30		カワガラス	カワガラス	留鳥				2	2	1	1				5	7	9				
31		ヒタキ	トラツグミ	留鳥・漂鳥		4				4					0	4				DD	
32			クロツグミ	夏鳥					1	1					0	1					
33			シロハラ	冬鳥						0			1	移	1	1					
34			ツグミ	冬鳥						0		3	3		6	6					
35			ジョウビタキ	冬鳥						0					2	2	2				
36			オオルリ	夏鳥	14	8	1	7		30					0	30					
37		セキレイ	キセキレイ	漂鳥		2			1	3					1	1	4				
38			セグロセキレイ	留鳥						0					1	1	1				
39		アトリ	アトリ	冬鳥						0				移	30	30	30				
40			マヒワ	冬鳥						0		4			4	4					
41			ウソ	漂鳥						0		1			1	1					
42			イカル	留鳥・漂鳥	4		1	1	2	8					0	8					
43		ホオジロ	ホオジロ	留鳥		3	12	11	10	36		5	2		21	28	64				
44			ノジョ	夏鳥					1	1					0	1				NT	
45			アオジ	留鳥・漂鳥						0				2	3	5	5				VU
確認個体数						53	56	34	59	69	271	21	113	23	22	104	283	554	-	-	-
出現種数						16	11	9	9	15	31	6	14	9	14	23	32	45	4	8	5

※表中の「移」は移動中の確認を示す

() 該当県では未確認



ヤマドリ



アオバト



ミサゴ



ツミ

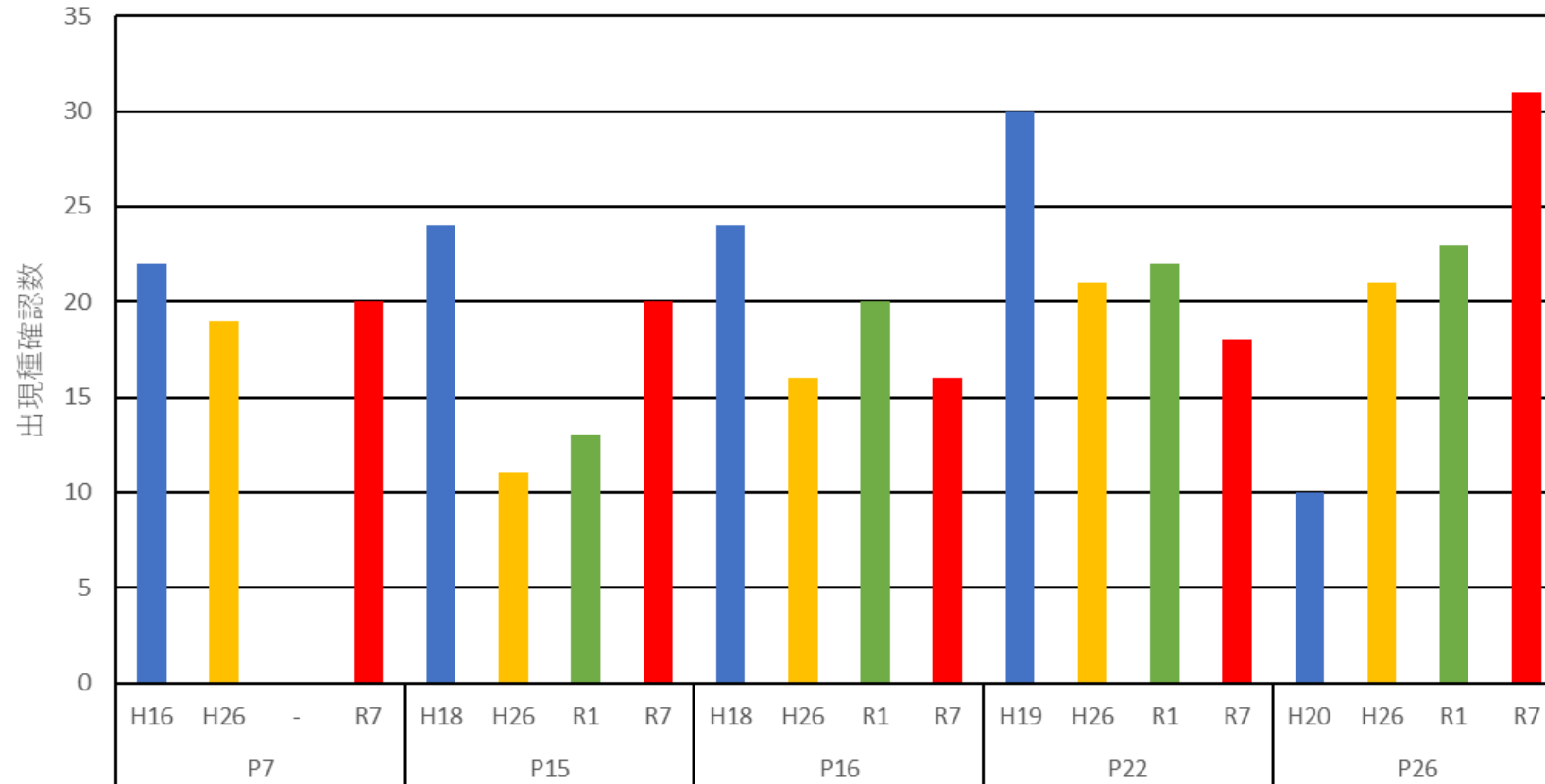


クマタカ



ノジョ

動物調査（鳥類） 過年度との比較



調査年度	春季（繁殖期）	夏季	秋季（秋の渡り）
平成16年度		8月24日	
平成18年度			10月27日
平成19年度		8月27日～29日	
平成20年度			10月14日
平成26年度	6月17日～19日		10月20日～24日
令和元年度		7月2日～4日	10月15日～17日
令和7年度		7月12日～14日	10月28日～31日

総合評価

調査内容	確認項目	評価	評価内容
森林詳細調査	立木調査	○	大きな変化は確認されなかった。 ブナの後継樹として小径木の成長が確認された。
	下層植生調査	○	大きな変化は確認されなかった。 ブナの稚幼樹の生育が確認された。
	気象害・病虫獣害等の発生状況調査	○	森林の健全性を損なう事象は確認されなかった。 ニホンジカによる食痕や剥皮が確認された場所もあるが、植生被害レベルは0~1と判断された。
森林概況調査	気象害・病虫獣害等の発生状況調査	△	ニホンジカの食痕が林道沿いや登山道沿いに散見され、林内で剥皮も確認された。 P7の林道沿いでツキノワグマの剥皮が複数確認された。
	重要種の確認	○	が確認された。
資料調査		○	学術論文や報告書等26資料が確認され、エコツアー等の実施も確認された。 白山地域におけるニホンジカの増加が指摘されている論文が確認された。
聞き取り調査		○	【飛騨森林管理署】 ニホンジカやツキノワグマによる剥皮・食害はあるが、森林の生育に影響を与える程ではない。 緊急性の高い課題はなく、現状実施している対策を続けていく。 【富山森林管理署】 天然林であり、剥皮被害等は確認されていない。 県道や市道等の道路の復旧工事が進んでいない。
動物調査(哺乳類)		△	ニホンジカの撮影頻度が増加しており、緑の回廊内における利用が増加していると考えられる。
動物調査(鳥類)		○	猛禽類～草地性の種まで広く確認されており、多様な種が生息している。 ただし、繁殖期・夏鳥の確認が不足している。
考察及び総合評価		要注意	ブナの後継樹の成長が確認され、森林の健全性を損なう事象は確認されていない。 ただし、林道や登山道を中心にニホンジカの痕跡が多数確認されており、撮影頻度が増加していることから、生息動向を注視する。

【個別項目の評価】

- ：前回と比較して大きな変化なし。または問題なし。
- △：前回と比較して大きな変化または問題が確認された。
- ×：前回と比較して重大な変化または問題が確認され、対策の検討が必要である。

【総合評価】

- 健全：保護林の健全性が保たれていた。
- 要注意：一部で問題が確認された。
- 要対策：重大な変化または問題が確認され、対策の検討が必要である。

今後の課題について

保護林

南アルプス山系においては、「南アルプス食害対策協議会」や「南アルプス自然環境保全活用連携協議会」等の各協議会や関連機関が連携してニホンジカ対策を実施しているため、基本的に連携した対応を進めていく。

■南アルプス南部光岳森林生態系保護地域：H27「要対策」→R7「要対策」

- ・継続的に剥皮被害が確認され、広い範囲で植生被害状況が確認されたことから、保護林及びその周辺国有林を対象としたニホンジカ対策を実施していく必要性が高い。

■八ヶ岳縞枯山希少個体群保護林：H27「要対策」→R7「要対策」

- ・縞枯現象から森林回復傾向がうかがえるが、ニホンジカによる剥皮被害や食害が大きく、森林回復に影響を与えていると考えられることから、シラビソ・オオシラビソへの被害対策の必要性が高い。

■豊口山シダ希少個体群保護林：H27「要注意」→R7「要対策」

- ・継続的に剥皮被害が確認され、不嗜好性植物の増加が確認されたことから、保護林及びその周辺国有林を対象としたニホンジカ対策を実施していく必要性が高い。
- ・トヨグチイノデの他の保護対象となるシダ（例：石灰岩要素のシダ）の整理が必要と考える。

（委員への質問）

プロット内で確認されたシダ類は、イワガネゼンマイ、ミヤマメシダ、ミヤマシダ、ミヤマワラビ、シノブカグマ、オシダ、シラネワラビ、ホソイノデ、トヨグチイノデである。

移動中に確認されたシダ類で、イナデンダ（重要種）がある。

例えば、ミヤマワラビ、ミヤマシダ、ホソイノデは保護対象となるか？

今後の課題について

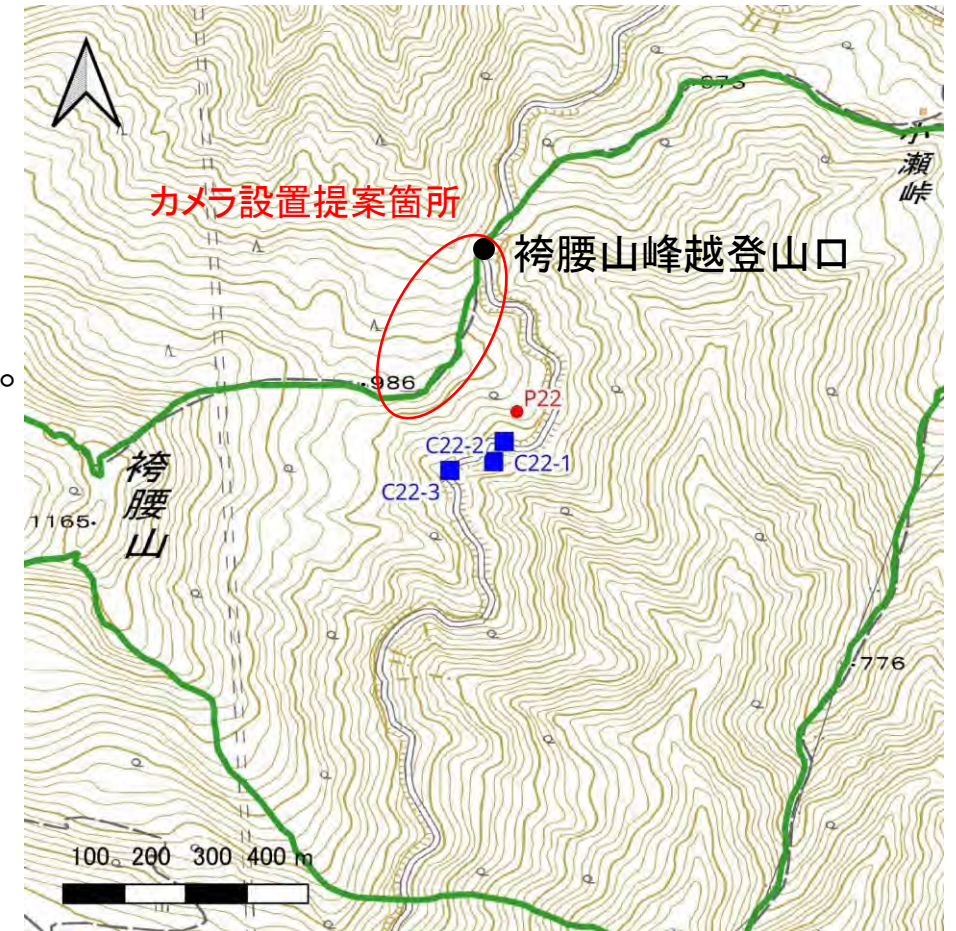
緑の回廊

■ 森林詳細調査

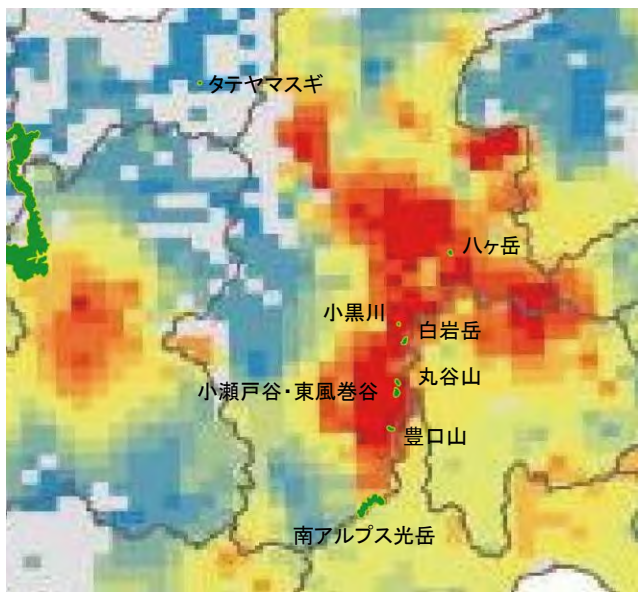
- ・ 近年のニホンジカの動向から森林詳細調査は5～10年間隔での調査の実施が望ましい。
- ・ 森林詳細調査を実施しない期間は、定点写真より森林構造の変化を捉える。

■ 自動撮影カメラ調査

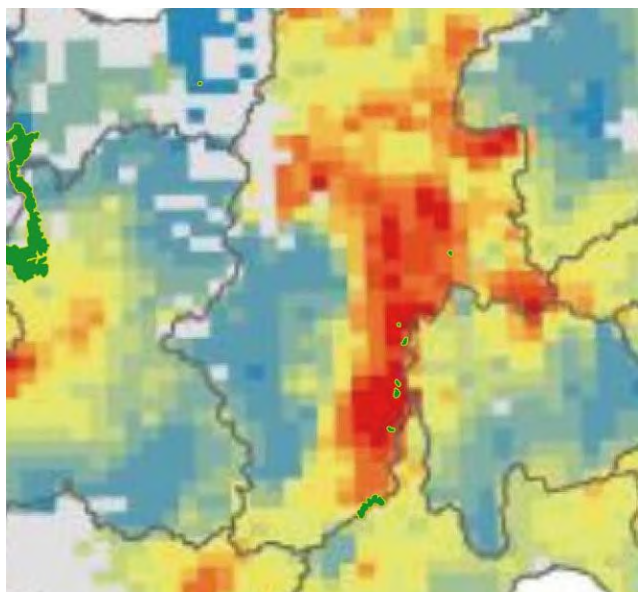
- ・ P22（各カメラの撮影枚数：6000～12000枚（3連続撮影））
カメラ前方の植生繁茂や道路への太陽光の反射により、センサーが過剰反応した。
撮影エラー（撮影日時エラー、保存エラー）も生じた。
→ 袴腰山峰越登山口～袴腰山の登山道をカメラ設置位置と提案する。



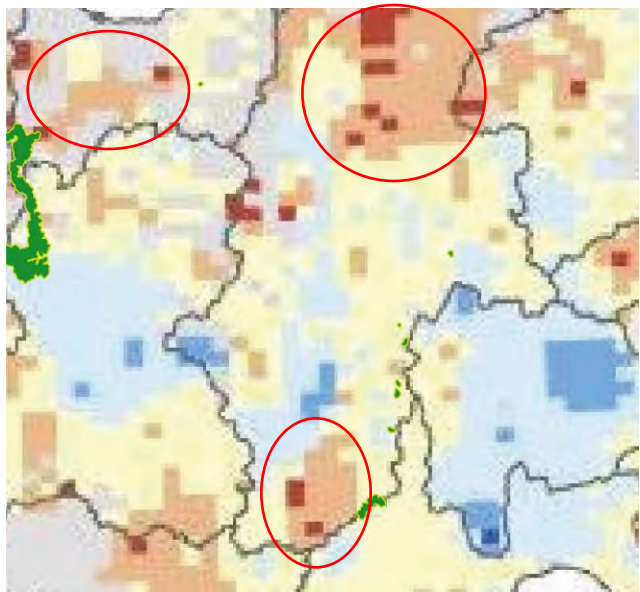
ニホンジカ推定生息密度 (保護林)



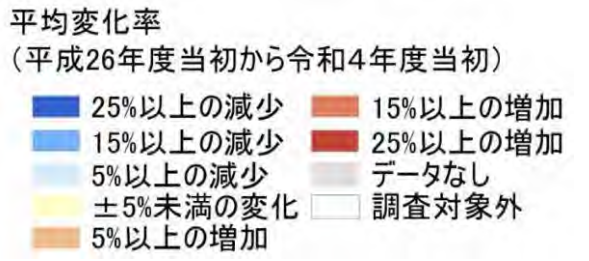
平成26年度



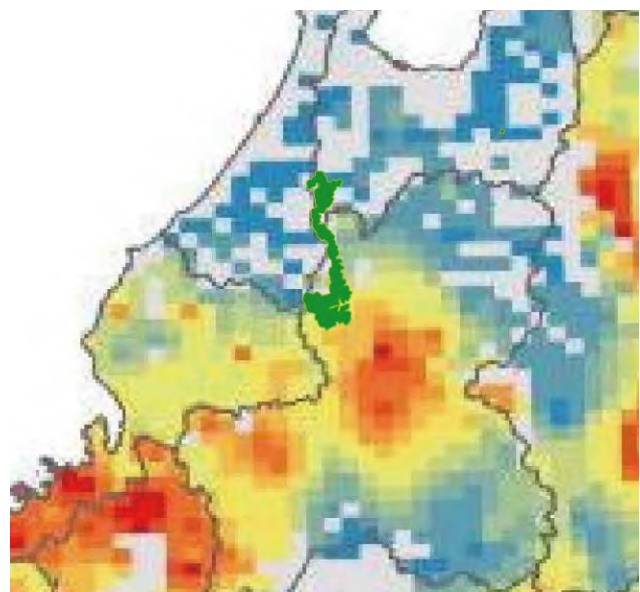
令和4年度



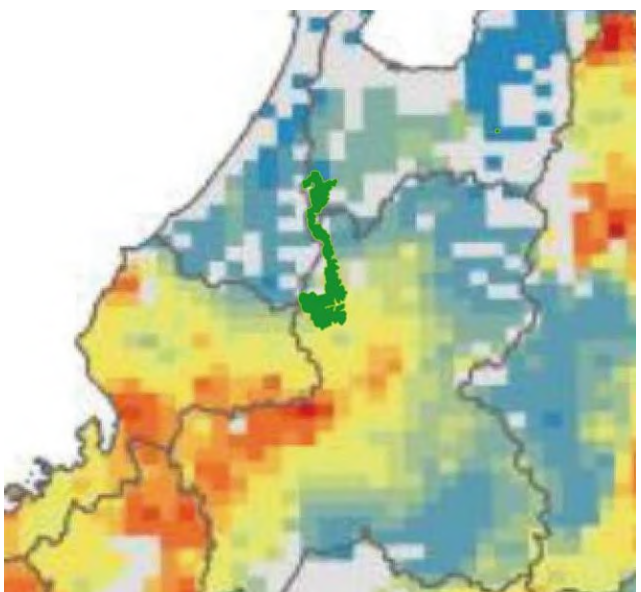
平均変化率



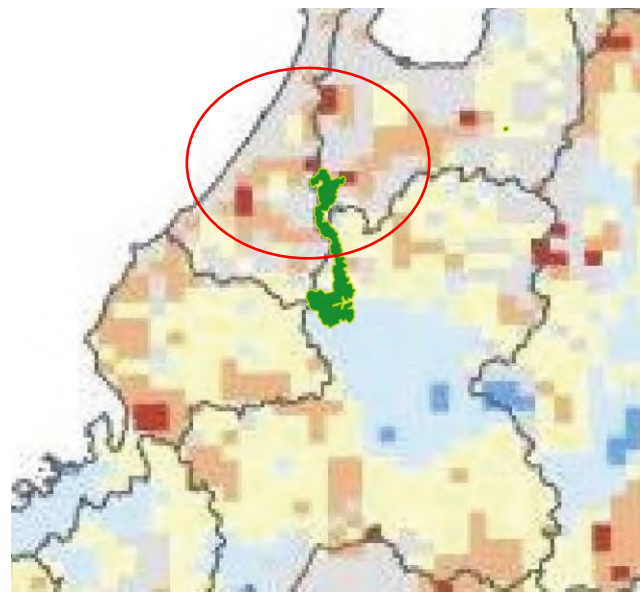
ニホンジカ推定生息密度 (緑の回廊)



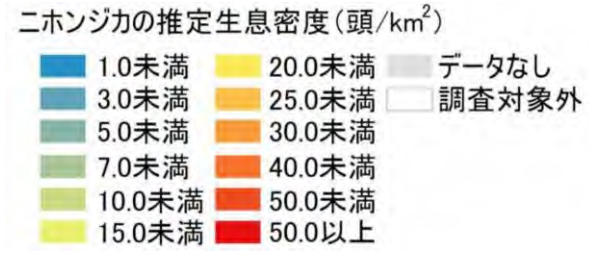
平成26年度



令和4年度

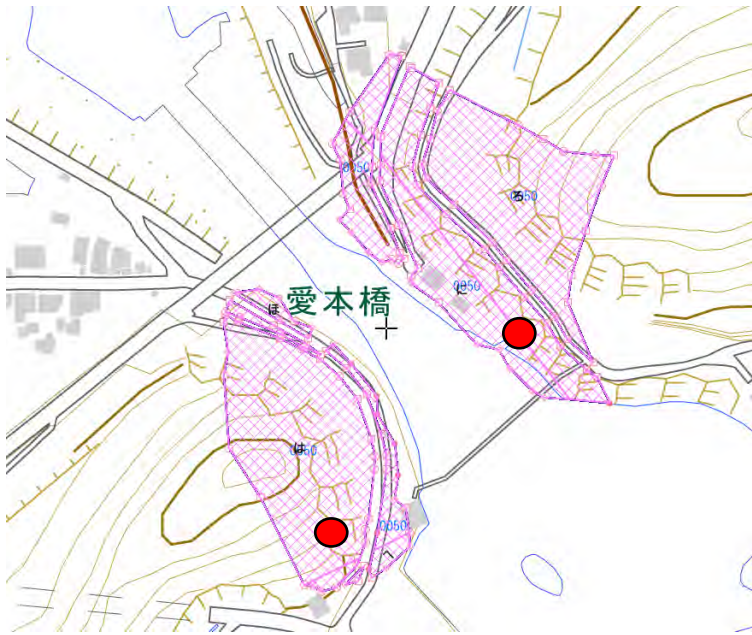


平均変化率



令和 7 年度保護林モニタリング調査直営調査実施保護林

	ページ
3-2 愛本ウラジロガシ等希少個体群保護林	1
3-3 薬師岳・雲ノ平圏谷群高山植物希少個体群保護林	3
3-4 立山オオシラビソ希少個体群保護林	5
3-2 4 大河原イヌブナ遺伝資源希少個体群保護林	6
3-2 6 七島八島湿原希少個体群保護林	7
3-3 2 風巻峠希少個体群保護林	9
3-5 1 赤沼田天保ヒノキ植物群落保護林	10
3-5 5 小里コウヤマキ希少個体群保護林	11
参考	
小黒川ウラジロモミ遺伝資源保護林（現地状況確認）	13
その他	
丸山谷希少個体群保護林の保護対象種について	27
※希少種情報を含むため非公表	

名 称	愛本ウラジロガシ等希少個体群保護林		
面 積	2.51 ha	設定年月日	平成 3年 4月 1日
		変更年月日	平成 29年 4月 1日
		調査年月日	令和 7年 10月 23日
位置及び区域	森林管理署・事務所	富山森林管理署 宇奈月森林事務所	
	所在市町村	富山県黒部市	
	保護林の位置 愛本国所有林50ろ、は、に、ほ、へ林小班		
	保護林の区域と写真撮影箇所		
			
●写真撮影箇所			
設定目的	富山県内にウラジロガシ、ケヤキがまとまって生育している天然林が少ないことから、その個体群の保護・管理を保護・管理を図る。		
地況、林況	黒部川の急流が溪谷を流下し扇状地となるその扇頂部の両岸に位置している。いずれも下部を道路が通過している。暖温帯林で常緑広葉樹が生育するヤブツバキクラス域である。川に近接し風が強くあたる道路上の岩山に高齢のウラジロガシの群落が成立している。右岸の上層は、アカシデ、コナラ、スギ、カエデ類、ケヤキ、アカマツ等が生育し、下層にはヤブニッケイ、オオバクロモジ、キブシ、アオキ、コシアブラ、ヤブコウジ、ヤブツバキ等が見られる。左岸の上層はケヤキ、カエデ類、コナラ、アオハダ等で、ウラジロガシは道路と川の間に大径木が帯状に分布している。下層にはアオキ、シロダモ、ヒサカキ、ヤマツツジ、ヤブコウジ、ヤブツバキ等が生育している。		
調査結果	<p>林内巡視や遠望の結果、大規模な変化は見られず、保護林内の環境は保たれている。</p> <p>ニホンジカやイノシシなどによる食害や林内のかく乱などもない。堰堤付近でサルの群れを確認した。</p> <p>ウラジロガシやケヤキなどの稚樹、幼木も多数確認できた。</p> <p>今後も、森林官等による現場巡視・巡検により、経過観察等を実施していく。</p>		

右岸側



保護林看板



左岸側プロット



左岸側



左岸側



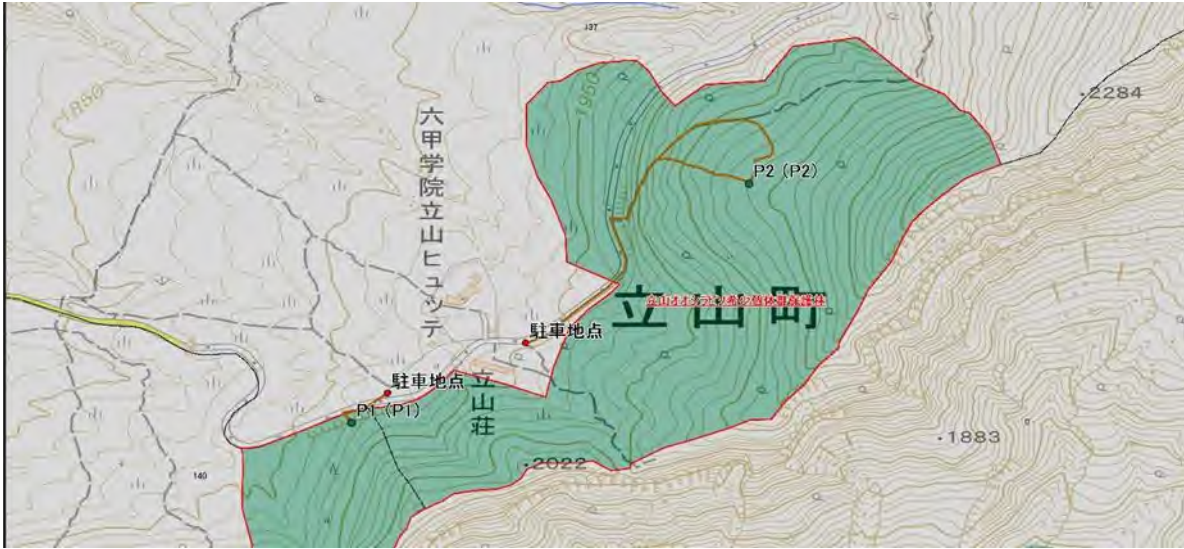
左岸側 (富山県看板)




名称	薬師岳・雲ノ平圏谷群高山植物希少個体群保護林		
面積	250.19 ha	設定年月日	平成 3 年 4 月 1 日
		変更年月日	平成 29 年 4 月 1 日
		調査年月日	令和 7 年 10 月 23 日
位置及び区域	森林管理署・事務所	富山森林管理署 立山森林事務所	
	所在市町村	富山県富山市	
	保護林の位置	黒部谷割国有林 116 イ、117 ハ林小班	
	保護林の区域		
設定目的	薬師岳の東側一帯には、氷河によってできた圏谷が並び、学術上の価値が高く、その特異な立地条件に特有の希少な高山植物が生育していることから、その個体群の保護・管理を図る。		
地況、林況	標高 2,926m の薬師岳は北アルプスのうち、奥黒部山地にある。薬師岳山頂付近は急峻であるが周辺部は平坦な箇所が多い。山頂を中心に東側の稜線に沿って氷河によってできた圏谷が並んでいる。南稜カールは、深く整った形をしている。中央カールは山頂の直下にあり深さ 200m 程度ある。金作谷カールは、中央カールよりやや小さいが中に S 字状の丘（堆石堤）がある。植生は山稜部がハイマツ群落となり、カール内は雪田群落、下部はダケカンバ群落となっている。		
調査結果	聞き取りや衛星写真による確認の結果、大規模な変化は見られず、保護林内の環境は保たれている。 今後も、森林官等による現場巡視や山小屋関係者などから情報収集を行い、経過観察等を実施していく。		

衛星写真



名称	立山オオシラビソ希少個体群保護林		
面積	75.40 ha	設定年月日	平成 3年 4月 1日
		変更年月日	平成 29年 4月 1日
		調査年月日	令和 7年 10月 7日
位置	森林管理署・事務所	富山森林管理署 立山森林事務所	
	所在市町村	富山県立山町	
及び 区域	保護林の位置 ブナ坂国有林 137い、140ほ林小班		
	保護林の区域		
			
設定目的	<p>厳しい風雪地帯においてオオシラビソ(アオモリトドマツ)がまとまって生育している箇所は少ないためこの森林を保護する。</p>		
地況、林況	<p>保護林は立山アルペンルートの道路がある、北から西向き斜面に位置する。オオシラビソが高木層の優占種となっているが、風衝面や雪の影響を受ける箇所では疎林状となりダケカンバやコメツガ等が生育している。オオシラビソの樹高は、風衝地等でわい性化している。低木層はチシマザサの被度が高く、その間に落葉広葉樹であるナナカマド、ミネカエデ、ミヤマナラ等が低被度で成立している。草本層は、低木層が発達しているため植被率が低い。</p>		
調査結果	<p>風雪害と考えられるオオシラビソの先折れが確認された。ウサギやイノシシなどによる食害や林内のかく乱などは確認できなかったが、ニホンジカを目撃情報があった。</p> <p>ササが濃くプロット内で稚樹は確認できなかった(幼木は確認)。</p> <p>今後も、森林官等による現場巡視を行い、経過観察等を実施していく。</p>		

名 称	大河原イヌブナ遺伝資源希少個体群保護林		
面 積	43.93 ha	設定年月日	平成 5年 4月 1日
		変更年月日	平成 30年 4月 1日
		調査年月日	令和 8年 1月 7日
位置及び区域	森林管理署・事務所	南信森林管理署 大鹿森林事務所	
	所在市町村	長野県下伊那郡大鹿村	
	保護林の位置	大河原国有林 2092 ろ、は林小班	
	保護林の区域		
設定目的	保護対象樹種であるイヌブナを遺伝資源として保存することを目的とする。		
地況、林況	イヌブナ、コメツガ及びその他の広葉樹から構成される天然林となっている。株立ち、曲がりが全般的に多くみられる。		
調査結果	<p>この保護林に通ずる車道が通行止めのため、現地確認及び調査は未実施。</p> <p>南信森林管理署 総括森林整備官による聞き取りを実施し、巡視や遠望の結果、大規模な変化は見られず、保護林内の環境は保たれている模様である。車道開通後（時期未定）は、林内確認を実施する予定。また今後も、森林官等による現場巡視を行い、経過観察等を実施していく。</p>		

名 称	七島八島湿原希少個体群保護林		
面 積	63.91 ha	設定年月日	平成 5 年 4 月 1 日
		変更年月日	平成 30 年 4 月 1 日
		調査年月日	令和 7 年 10 月 9 日
位置及び区域	森林管理署・事務所	南信森林管理署 下諏訪森林事務所	
	所在市町村	長野県諏訪郡下諏訪町	
	保護林の位置	東侯国有林 1138 イ、ハ、ニ、ホ、ヘ、ル林小班	
	保護林の区域		
設定目的	七島八島湿原は、国の天然記念物「霧ヶ峰湿原植物群落」に指定（昭和 35 年 6 月 10 日）されている中信高原で最大の湿原である。深さ 8 m を超える推定堆積年数約 8,000～10,000 年の泥炭層が堆積しており、その上に成立する貴重な植物群落とその周辺の天然林との一体的な保護を図ることを目的とする。		
地況、林況	深さ 8 m を超える泥炭層が堆積する湿地及びその周辺の草生地。		
調査結果	<p>林内巡視や遠望の結果、大規模な変化は見られず、保護林内の環境は保たれている。</p> <p>ニホンジカやイノシシなどによる食害や林内のかく乱などもない。保護林周囲に防鹿柵が設置されており、入林者へシカの侵入防止について注意喚起も実施されていた。また、遊歩道から湿地や林内への人の侵入も無いようであった。</p> <p>隣接する展望箇所付近で草本外来種の除去（現地より撤去）などが実施されていた。</p> <p>今後も、森林官等による現場巡視により、経過観察等を実施していく。</p>		

看板

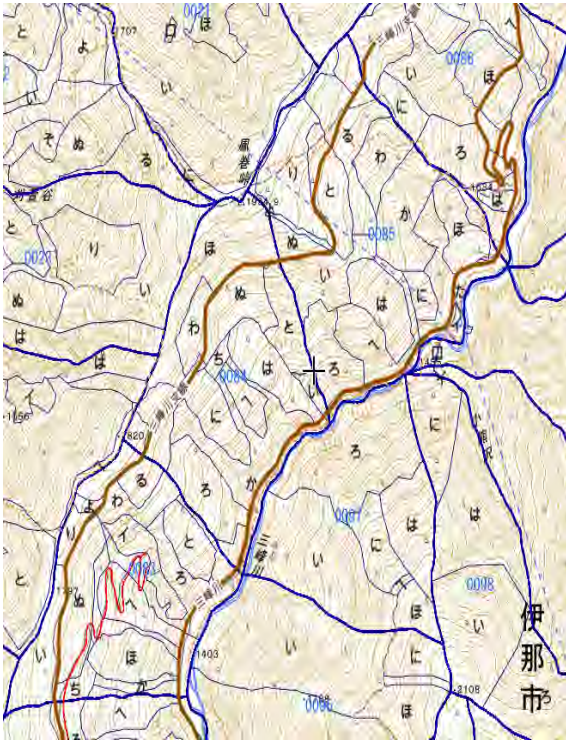


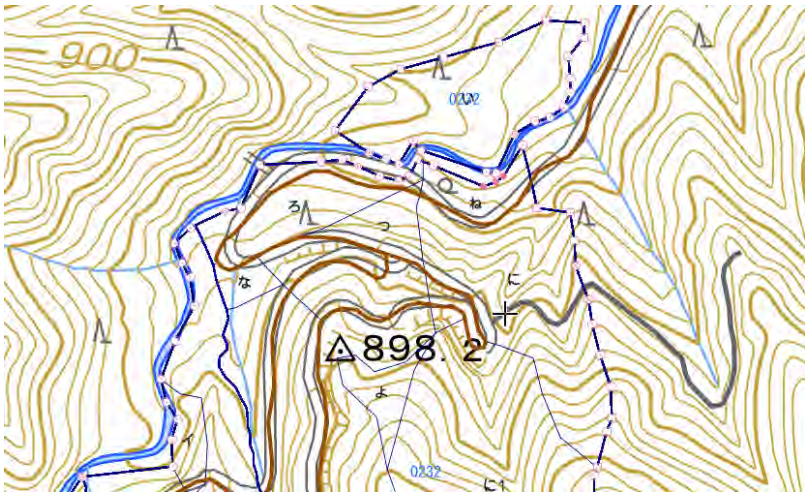
湿原の様子



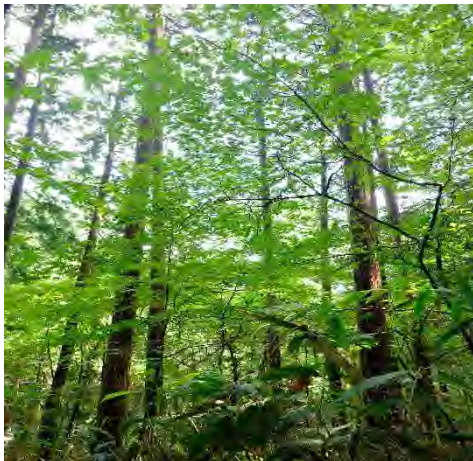
保護林内



名 称	風巻峠希少個体群保護林		
面 積	71.15 ha	設定年月日	平成 20 年 4 月 1 日
		変更年月日	平成 30 年 4 月 1 日
		調査年月日	令和 8 年 1 月 7 日
位置及び区域	森林管理署・事務所	南信森林管理署 伊那里森林事務所	
	所在市町村	長野県伊那市	
	保護林の位置	浦国有林 83ろ、は、と、わ、イ、84い、は、と、ち、ぬ、85い、ろ、は、へ、ぬ林小班	
	保護林の区域		
設定目的	三峰川水系風巻峠周辺の右岸側斜面にある石灰岩及び泥岩の層が伸びており、石灰岩の崖の周辺に生育するヤツガタケトウヒ・ヒメバラモミ等を保護の目的とする。		
地況、林況	<p>天竜川水系の三峰川本流の右岸側斜面に位置している。</p> <p>石灰岩と泥岩の層が南北に伸びており、部分的にみられる崖の周辺にヒメバラモミとヤツガタケトウヒが生育している。</p> <p>林況は、コメツガ、シラビソ等の針葉樹、ブナ、カンバ等の広葉樹を主とする天然林と、カラマツの人工林となっている。</p>		
調査結果	<p>この保護林に通ずる車道が通行止めのため、現地確認及び調査は未実施。</p> <p>南信森林管理署 総括森林整備官による聞き取りを実施し、巡視や遠望の結果、大規模な変化は見られず、保護林内の環境は保たれている模様である。車道開通後（時期未定）は、林内確認を実施する予定です。また今後も、森林官等による現場巡視を行い、経過観察等を実施していきます。</p>		

名 称	赤沼田天保ヒノキ植物群落保護林		
面 積	3.25 ha	設定年月日	昭和 37 年 4 月 1 日
		変更年月日	平成 29 年 4 月 1 日
		調査年月日	令和 7 年 8 月 26 日
位置及び区域	森林管理署・事務所	岐阜森林管理署 小坂森林事務所	
	所在市町村	岐阜県下呂市	
	保護林の位置	赤沼田国有林 232い、ろ林小班	
	保護林の区域		
設定目的	天保年間に植栽されたヒノキ人工林で、旧名古屋営林支局管内の国有林では最も古いものである。学術上及び施業上の観点からも非常に貴重なものであることから保護を図る。		
地況、林況	飛騨山地の北向き及び東向きの緩斜面である。保護林は谷を挟んで所在し、中央を林道が横断している。このヒノキ人工林は、徳川時代の店舗7年（1837年）に植栽されたもので現在でもなお上長成長及び肥大生長を続けている。高木層はヒノキが高被度で優先するが、一部にサワラ、スギ、トチノキ等が混生している。ヒノキの形質は優れている。亜高木層にはイヌブナ、オヒョウ、ミズメ、モミ等が生育する。		
調査結果	<p>林内巡視や遠望の結果、大規模な変化は見られず、保護林内の環境は保たれている。</p> <p>ニホンジカやイノシシなどによる食害や林内のかく乱などもない。また、当保護林は遊歩道となっているが、人為的かく乱も確認できなかった。</p> <p>今後も、森林官等による現場巡視により、経過観察等を実施していく。</p>		

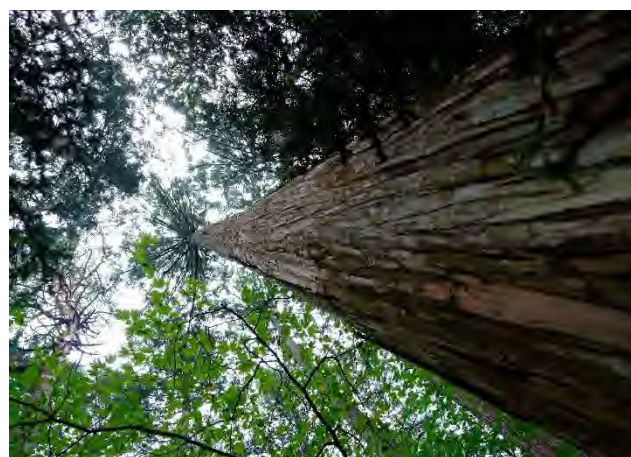
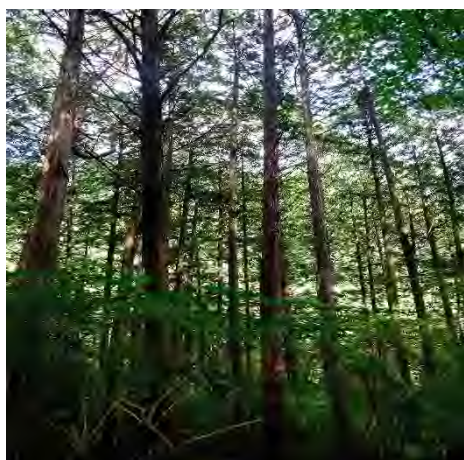
ろ小班 (道上)



保護林看板



ろ小班内プロット



い小班林縁



天保林入り口看板



名 称	小里コウヤマキ希少個体群保護林		
面 積	18.73 ha	設定年月日	平成10年 4月 1日
		変更年月日	平成30年 4月 1日
		調査年月日	令和 7年10月20日
位置及び区域	森林管理署・事務所	東濃森林管理署 岩村森林事務所	
	所在市町村	岐阜県瑞浪市	
	保護林の位置	小里国有林 1117ろ、は、に林小班	
	保護林の区域		
設定目的	コウヤマキの生育する標高が低く、分布限界に位置する。		
地況、林況	岐阜県東部の東濃丘陵の一部である。地域的には周囲を山で囲まれているため、やや内陸性気候も帯びているが、太平洋側気候に属しており、比較的温暖多湿である。降水量は梅雨の季節に多く、本州上に梅雨前線が停滞した末期は集中豪雨となりやすい。また冬季の積雪量は少ない。保護林内の地質は花崗岩質岩石であり、土壌は砂土が露出する場所が多い。保護林上部はモチツツジーアカマツ群集が成立し、下部はコナラ群落が成立している。コウヤマキの育成する標高が低く、分布限界に位置する。		
調査結果	<p>林内巡視や遠望の結果、大規模な変化は見られず、保護林内の環境は保たれている。</p> <p>ニホンジカやイノシシなどによる食害や林内のかく乱などもないが、シカ(ニホンジカかカモシカは不明)の糞が多数確認できた。</p> <p>コウヤマキやヒノキなどの稚樹、幼木も多数確認できた。ほとんどのマツが枯れていることから、衛星写真で確認したところ保護林のみならず、国有林を含む地域全体に被害を確認した。</p> <p>今後も、森林官等による現場巡視により、経過観察等を実施していく。</p>		

保護林看板



シカの糞



プロット1



コウヤマキ (プロット1)



プロット2



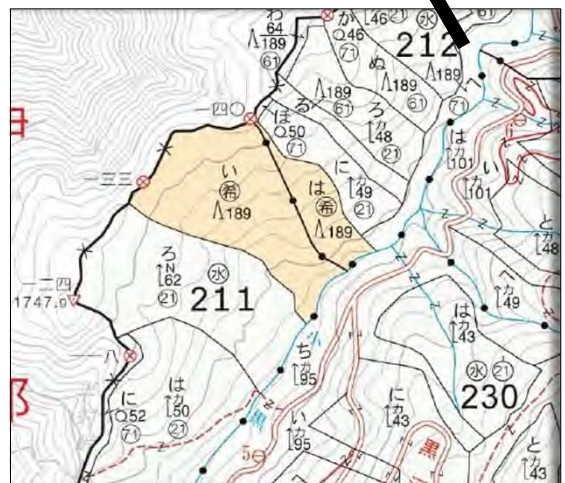
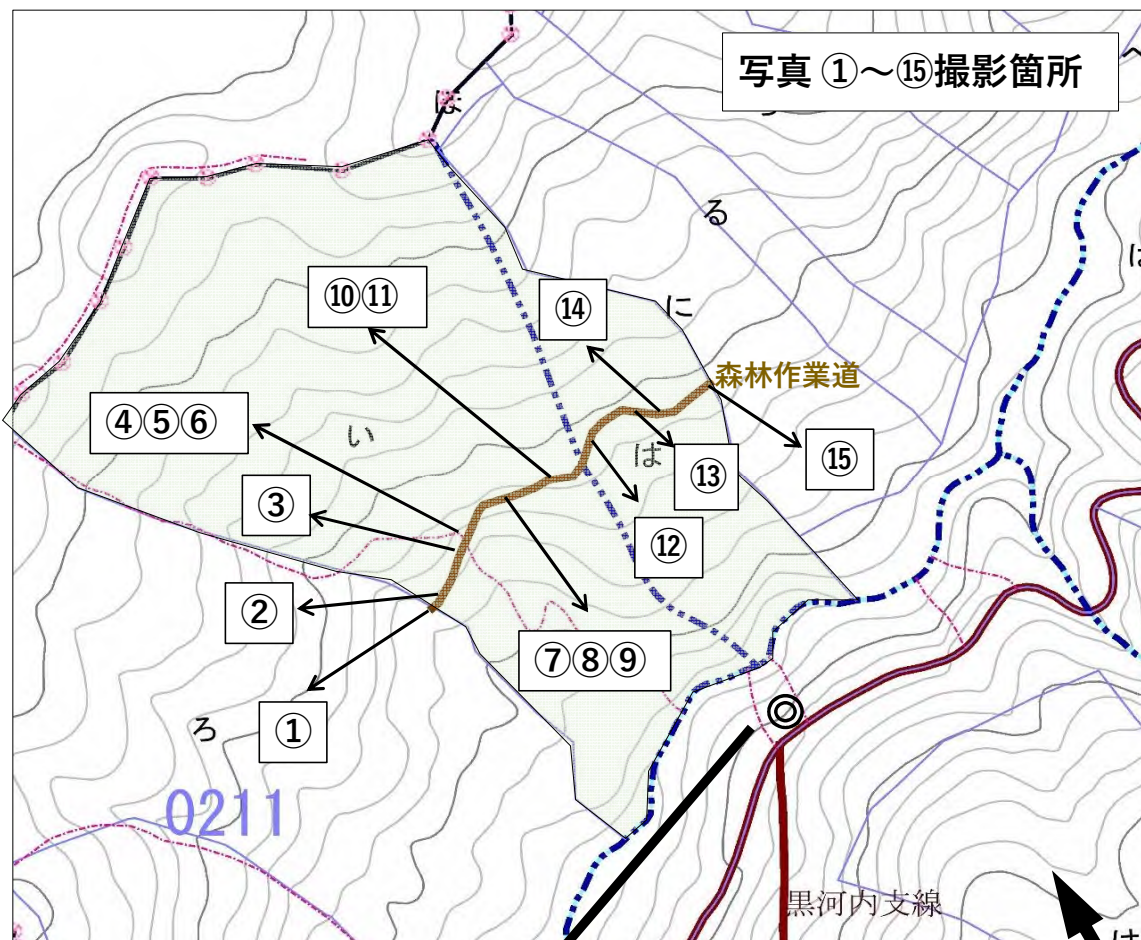
コウヤマキ (プロット2)



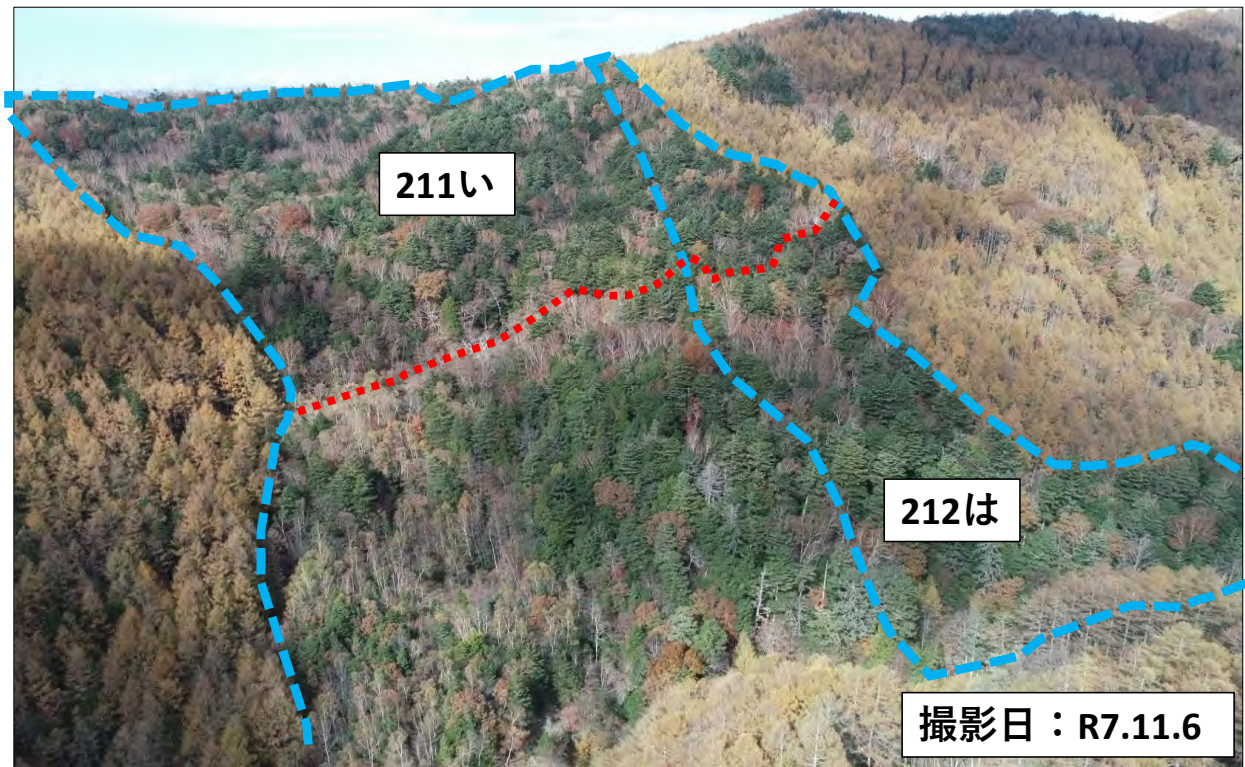
小黒川ウラジロモミ遺伝資源保護林（現地状況確認）

【令和7年度の状況について】

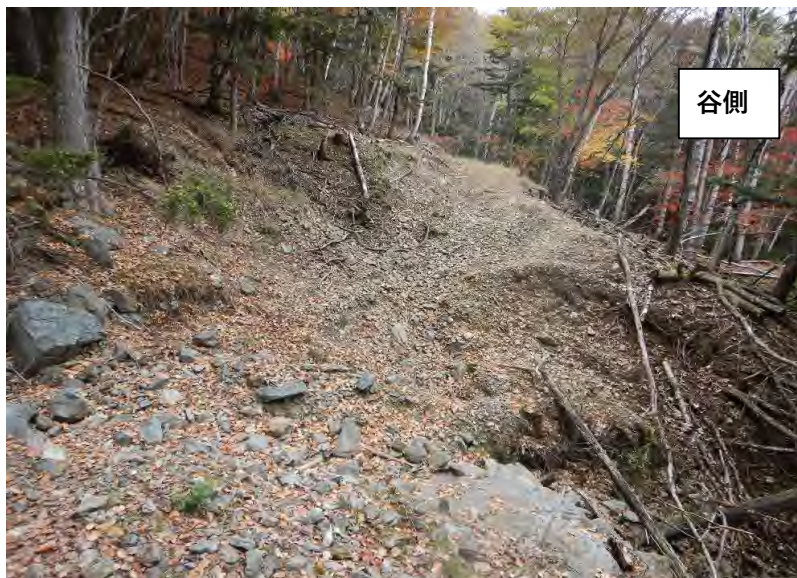
- (1) 令和7年10月31日に黒河内国有林211い・212は林小班の現地状況確認を実施しました。
- (2) 令和4年度第1回保護林委員会以後の対応として、今回の現地状況確認を実施、また、新たな路網の崩壊は見られなかったものの、以前に流水によって路網が崩壊した路盤に水を浸透させないための流水コントロールを行った箇所について、必要に応じて水切り作業を実施しました。
- (3) 令和5年度に発生を確認した実生稚樹は今回の調査でも確認出来ました。
- (4) 令和7年11月6日にドローン撮影を行いました（10/31は天候状況のため未実施）。



小黒川ウラジロモミ遺伝資源保護林（現地状況確認・ドローン撮影）



現地状況－写真その1



写真番号

①

場所

黒河内国有林211い林小班

撮影日時

令和7年10月31日

状況

写真の場所は保護林境から211
い小班を見る



写真番号

②

場所

黒河内国有林211い林小班

撮影日時

令和7年10月31日

状況

211林小班から保護林境付近を
見る



写真番号

③

場所

黒河内国有林211い林小班

撮影日時

令和7年10月31日

状況

211い小班の林内から211は林小
班方向を見る。

現地状況－写真その2



写真番号

④

場所

黒河内国有林211い林小班

撮影日時

令和7年10月31日

状況

水路あり



写真番号

⑤

場所

黒河内国有林211い林小班

撮影日時

令和7年10月31日

状況

写真④水路のうち、やや埋まっていたものがあった

谷側



写真番号

⑥

場所

黒河内国有林211い林小班

撮影日時

令和7年10月31日

状況

写真⑤水路について、水切り作業を実施

谷側



写真番号

⑦

場所

黒河内国有林211い林小班

撮影日時

令和7年10月31日

状況

水路あり



写真番号

⑧

場所

黒河内国有林211い林小班

撮影日時

令和7年10月31日

状況

水切り作業を実施



写真番号

⑨

場所

黒河内国有林211い林小班

撮影日時

令和7年10月31日

状況

写真⑤水路について、水切り作業を実施

現地状況 - 写真その4



写真番号

⑩

場所

黒河内国有林211い林小班

撮影日時

令和7年10月31日

状況

作業道上の一部に天然更新の稚樹あり

谷側



写真番号

⑪

場所

黒河内国有林211い林小班

撮影日時

令和7年10月31日

状況

天然更新の稚樹はサワラと見られる

谷側



写真番号

⑫

場所

黒河内国有林212は林小班

撮影日時

令和7年10月31日

状況

作業道上の一部に天然更新の稚樹あり

谷側

現地状況 - 写真その5



写真番号

⑬

場所

黒河内国有林212は林小班

撮影日時

令和7年10月31日

状況

水切り作業を実施



写真番号

⑭

場所

黒河内国有林212は林小班

撮影日時

令和7年10月31日

状況

211は林小班的林内



写真番号

⑮

場所

黒河内国有林212は林小班

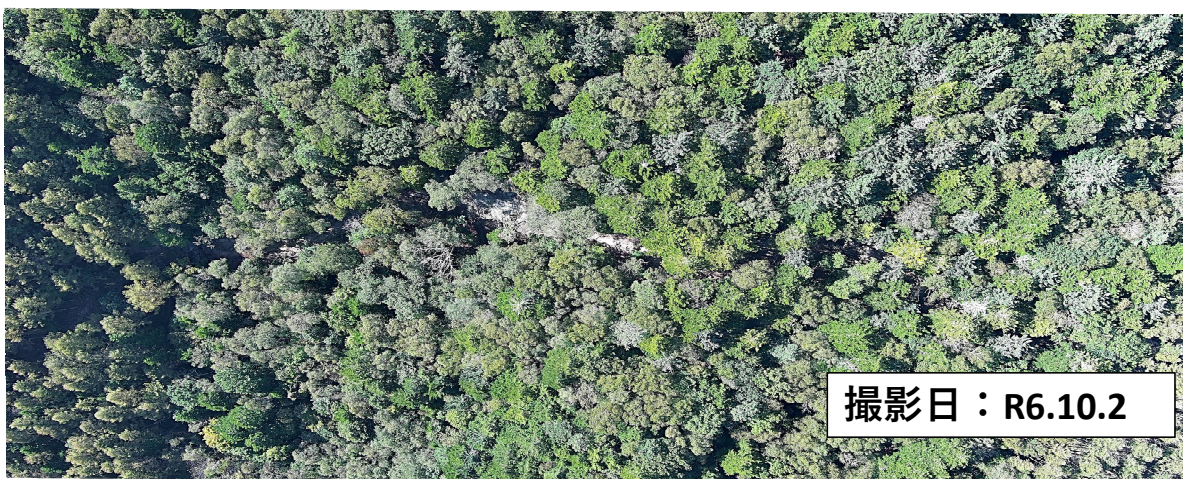
撮影日時

令和7年10月31日

状況

写真の場所は保護林境から211
は小班を見る

小黑川ウラジロモミ遺伝資源保護林（経年比較・ドローン撮影）



小黒川ウラジロモミ遺伝資源保護林（経年比較）

●現地状況（黒河内212は林小班）



小黒川ウラジロモミ 遺伝資源保護林 (経年比較)

●現地状況 (黒河内212は林小班)



小黒川ウラジロモミ遺伝資源保護林（経年比較）

●現地状況（黒河内211い林小班）



小黑川ウラジロモミ遺伝資源保護林（経年比較）

●路肩修繕後の状況（黒河内211い林小班）



小黑川ウラジロモミ 遺伝資源保護林 (経年比較)

●天然更新状況 (黒河内211い林小班_森林作業道上)



乗鞍岳五ノ池の利用について（令和8年度現地検討）

1 経緯

- ▶ 高山市や地域関係者等から五ノ池をガイド付きでのツアー等に利用できないかとの声があり、環境省がその対応策を検討
- ▶ 対応策として、利用者の人数調整を検討（例えば、自然公園法に基づく利用調整地区制度を活用する等）

2 五ノ池の現状

- ▶ 五ノ池は昭和40年代の入林による植生荒廃により、高山営林署（当時）が立入禁止区域とした
- ▶ 現在は登山道の整備等はされておらず、一般向けには入林禁止のまま
- ▶ 五ノ池は乗鞍岳生物群集保護林（保存地区）に設定（平成30年度）

3 保護林管理委員会においてご検討いただきたい事項

- ▶ 自然の推移に任せることとしている当該保護林における管理上の懸念
例えば、歩道の整備による植生への影響
- ▶ 仮に利用させることとした場合の管理等に係る留意点

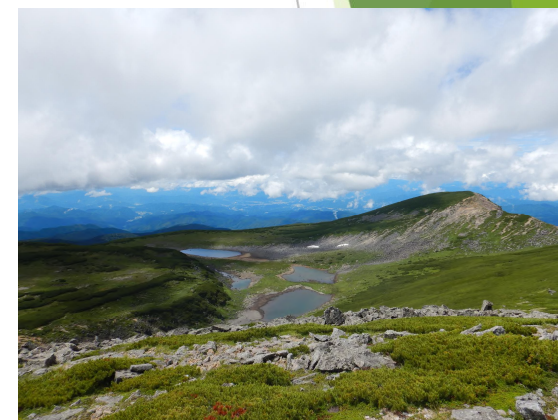
○乗鞍岳生物群集保護林

面積：5,739.68ha

設定：平成30年4月1日

（特定地理：平成19年度設定）

目的：乗鞍岳山頂部に広がる火山群、カルデラ（湖沼）等の特徴ある地形・地質と亜高山帯から高山帯に分布する植生等により構成される生態系を一体的に保護すること



（参考）乗鞍岳エコツーリズム推進全体構想（岐阜県中部山岳国立公園活性化推進協議会）における「五ノ池」に関する記載内容

P16 地形・地質 湖沼（乗鞍岳の湖沼）

五ノ池は里見岳の南麓にある堰止湖です。室堂ヶ原を源とする赤川の一流流が、一ノ池火山帯の第五溶岩によってせき止められてできた池で、五つの池が数珠玉のようにつながっています。東から一ノ池、二ノ池、三ノ池、四ノ池、五ノ池の順に呼ばれますが、一ノ池から三ノ池までは標高2,700mの所にあり、四ノ池と五ノ池はそれより低い所にあります。池の周りにはハクサンイチゲ、コバイケイソウ、チングルマ、ウサギギクなどが咲き、亀甲砂礫の現象もみられます。豊水期になると、5つの池が1つの大湖沼になります。

P49 4. 自然観光資源の保護及び育成 4.1 利用の制限が必要な自然観光資源（特定自然観光資源）の指定について

（前略）「五ノ池周辺」など、貴重な自然環境を保護しながらツアーの実施を検討しているエリアについては、特定自然観光資源への指定について検討を行っていきます。（後略）